

日本キリスト改革派教会 大会教育委員会

教会学校 教案誌



church school curriculum



主は憐れみ深く、恵みに富み
忍耐強く、慈しみは大きい。

詩篇103篇8節

vol. **84**

2022年1~3月

「子どもと親のカテキズム」
に基づく二年サイクル 第2年

自閉症者「猷」から始まりつつあること	吉田 実
この小さな者の一人にしたのは	小堀 昇
執事職について(4)	門脇陽子
献身のすすめ「今、石膏の壺を壊して」	長谷川はるひ
洗礼に導かれて	牧野 巧

2022年1～3月カリキュラム（第84号）

—『子どもと親のカテキズム』に基づく2年サイクル 第2年—

月 日 教会暦・行事		子どもと親のカテキズム	参照教理問答
	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
1月2日	神の子らしい祈り	問85	ハイデ116、ウ小98
		サムエル記上3:1-18	サムエル上3:10
祈りによって神さまとお話しし、神さまと心を合わせて一年を過ごそう			
1月9日	祈りに生きる道・ 神との会話	問86	ウ小98、ハイデ116,117
		ルカ11:1-13	ルカ11:13
父に対する信頼をもってすべてをゆだねて祈る			
1月16日	祈りに生きる道・ 主の御名による祈り	問87	ウ小98,99、ハイデ117
		ルカ17:11-19	ヤコブ5:16
イエスキリストの十字架によって私たちに救ってくださる本当の神さまに祈る			
1月23日	祈りに生きる道・ 祈りの内容	問88	ウ小98、ハイデ118
		使徒16:16-34	使徒16:25
神さまを信頼して祈ることで神さまと結ばれる			
1月30日	主の祈り・ 私たちの父よ	問89	ウ小100、ウ大189、ハイデ33,120
		マタイ6:5-9	ヨハネ3:16
神の子として天の父に祈る			
2月6日	主の祈り・ 御名を崇める祈り	問90	ウ小101、ハイデ122
		詩編33:1-22	詩編33:8
神さまの御名をたたえることで、私たちが幸いを得る			
2月13日	主の祈り・ 御国を求める祈り	問91	ウ小102、ハイデ123
		マタイ12:22-32	マタイ12:28
世界に神さまの支配がおよぶように祈る			
2月20日	主の祈り・ 御心を求める祈り	問92	ウ小103、ハイデ124
		ローマ12:1-2	ローマ12:2
私たちが愛してくださる神さまのみ心にゆだねる			
2月27日	主の祈り・ ゆだねる祈り	問93	ウ小104、ハイデ125
		ヨハネ6:22-40	ヨハネ6:35
すべてを与えてくださる神さまを信頼してゆだねて祈る			
3月6日 レント	主の祈り・ 赦され、赦す祈り	問94	ウ小105、ウ大194、ハイデ126
		マタイ18:21-35	マタイ6:12
赦されている恵みを覚えて、人を赦せるように祈る			
3月13日 レント	主の祈り・ 神の子の勝利の祈り	問95	ウ小26,36,106、ハイデ127
		マタイ26:36-46	ヨハネ16:33
イエスキリストが天にいて私たちがいつも守ってくださるように			
3月20日 レント	主の祈り・ 確信の祈り	問96	ウ小107、ハイデ128
		歴代誌上29:10-20	テモテ二4:18
私たちのすべてを支えてくださる主をたたえる			
3月27日 レント	主の祈り・ 神の真実による祈り	問97	ウ小107、ハイデ129
		黙示録3:14-22	黙示録3:20
真実である方にすべてをゆだねる			

も く じ

2022年1・2・3月カリキュラム

まえがき 次世代に贈る言葉	二宮 創	4
巻頭によせて 「教会学校教案誌」休刊に寄せて	牧田 吉和	5
自閉症者「猷」から始まりつつあること	吉田 実	8
この小さな者の一人にしたのは 妻の涙を止めてくれた娘	小堀 昇	12
執事職について（4）	門脇 陽子	16
これからの教会学校 教案誌で考えたこと	長田 詠喜	18
献身のすすめ 今、石膏の壺を壊して	長谷川はるひ	21
信仰告白のあかし 洗礼に導かれて	牧野 巧	23
教会学校訪問 神戸長田教会ファミリー向けの礼拝	小河 敬太	25
教会学校教案誌創刊から休刊への道のり（上）	相馬 伸郎	32
聖書黙想・説教展開例・分級展開例		37
1月2日		38
1月9日		45
1月16日		52
1月23日		60
1月30日		66
2月6日		74
2月13日		82
2月20日		88
2月27日		95
3月6日		102
3月13日		108
3月20日		115
3月27日		122
聖句カード		129
救済史によるカリキュラム（69号～77号）		132
カテキズムによるカリキュラム（77号～84号）		144
教案誌自由募金案内		151
大会教育委員会出版物案内		152
あとがき		153

まえがき

次世代に贈る言葉

二 宮 創

草花も、虫たちも、時をわきまえている。夏の日差しが陰り始めると、コオロギたちは一斉に歌い出し、秋分の日が近づくと、彼岸花は河川敷を彩る。自分たちの生きる時間が過ぎ去ると、潔く姿を消す。そんな彼らに、命の気高さを感じる。わたしにもあなたにも命がある。この命を気高く生きるには、時をわきまえることが肝心。

人生は瞬く間に過ぎ去る。死はそれほど身近で現実的である。これが時をわきまえる知恵。コオロギの命、カエルの命、カゲロウの命。その小さく儂い命、されど気高く尊い命。それと何一つ変わらない命を与えられている恵みを、人は忘れてしまいがち。そこで造り主は、すべての人を試される。与えられている命の尊さと気高さを、その儂さと小ささをわきまえているか「吟味なさる」（聖書協会共同訳・コヘレト3：18）。人生の様々な経験の中で、神によって吟味され、人は命と死のわきまえを得させていただく。

子どもを産み育てながら、死者を出し続ける時の流れ。戦いと平和が目まぐるしく入れ替わる時代。平和の時に戦いが散発し、戦いの時に束の間の平和がある。相反する両面が共存する現実を生き抜く中で、人は命と死のわきまえを得ていく。一人の人の命が、虫一匹の命のように、瞬く間に失われてゆく。大勢の若者が、人生の喜びも楽しみも味わわないまま、儂い命を散らしてゆく。それでも、人の命の息も、動物の命の息も、死の時まで、地上に生きる。死んだ先ではなく、生きている今が重要なのだ。

死は人生の終わりとして決定的に重要であり、生涯の集大成として意味がある。「塵は元の大地に帰り、息はこれを与えた神に帰る」（聖書協会共同訳・コヘレト12：7）。これぞ「死そのもの」についてのわきまえ。小さくとも気高い命、儂くとも尊い命。それはまさに、死をもって完成する。ゆえに、今を生きることにこだわる。それでよい。

戦争並の感染爆発、災害級の医療危機。戦争を知らない世代にとっては、人生が始まって以来、かつてなかったほどの苦難。その只中であって、人はボートの漕ぎ手のように、自分の未来と死を背中に感じながら、今ボートを漕いでいることにこだわる。オールを握る手に伝わってくる湖の雄大さ、湖面に広がってゆく扇型の波、山々から吹き降ろしてくる瑞々しい風、山肌を覆っている樹々の深い緑、どこまでも広がっている空の清い青さ、それらを感じながら、深く息をしている自分を喜んで、楽しむ。しなやかに、したたかに、死ぬまで生き抜く宿命。死という終わりがあるからこそ、最後の一息まで人生は価値あるものとなる。「若者よ、あなたの若さを喜べ。若き日にあなたの心を楽しませよ。心に適う道を、あなたの目に映るとおりに歩め。これらすべてについて、神があなたを吟味なさると知っておけ。あなたの心から悩みを取り去り、体から痛みを取り除け。若さも青春も瞬く間なのだから。」（私訳・コヘレト11：9～10）

（太田伝道所宣教教師）

巻頭によせて

「教会学校教案誌」休刊に寄せて

牧 田 吉 和

1. 感謝

「教会学校教案誌」は2001年3月に「創刊号」が刊行されて以来、20年間にわたって年4回の季刊誌として刊行されてきました。しかし、この84号をもって文書としての刊行を休止し、以後はネットでその働きが継続されるということです。文書としての刊行を休止することはやはり「一つの大きな区切り」を意味しているでしょう。その意味で、一文の寄稿を求められましたので、思うところを記しておきたいと思います。

先ず20年という長期間の間、様々な困難があったことは容易に推察されますが、「教案誌」を刊行し続けてこられたという事実そのものが評価に値することです。奉仕してこられた関係者の皆さまのご労苦に心から感謝します。特にこの20年間、終始中心的な役割を果たし続けてこられた相馬伸朗牧師の労を覚えたいと思います。

2. 「教会学校教案誌」の意義

「教会学校教案誌」の刊行は地味な働きでしたが、改革派教会にとって歴史的意味を持つ働きであったとわたしは評価します。この「教案誌」が出される以前は他教派や超教派の教案誌が改革派教会内で使用され続けてきました。これは改革派教会の教会形成を考える時、将来を担う契約の子どもたちの教育という基礎的部分で問題を孕むことでした。しかし、この「教案誌」

が出されるようになって、改革派神学の基盤に立った契約子の教育や子ども伝道がなされるようになったと思います。特にカテキズム教育という点で大きな貢献をなしたとわたしは思います。この働きがあって『子どもと親のカテキズム～神さまと共に歩む道～』（教文館）も生まれました。また、「教案誌」の内容には、幼稚科、小学校下級、上級、中学科のそれぞれにおいてきめ細かな教材が提供されてきました。内容も充実していました。自分自身がそれを執筆してみると直ちにわかるように、それは大変な労力を要するものです。それを提供し続けてこられた多くの執筆者の労にあらためて感謝しなければならないでしょう。20年間の「教案誌」の中には、教材だけでなく、かなり内容のある論文や貴重な文章が多数含まれています。これをこのまま埋もれさせるのは非常に残念です。わたし自身は、ネット上の公表にとどまらず、それらを取捨選択し、まとめて単行本として出版されることを強く希望します。「教案誌」の20年間の財産を積極的に活かすべきだと思います。

3. 教会学校の危機的状況

「教案誌」が紙媒体として休刊されるに至ったことには、率直にいつて刊行を続けるのが困難になったという事情があるでしょう。その事情の根本には教会学校の極

度の不振という状況があると思われま

す。2001年の「教案誌」の発刊当時でさえ、すでに教会学校の不振という状況がありました。「教案誌」の刊行にはそれに対する危機感もあり、その状況の打破、“てこ入れ”という意図もあったと推察しています。「教案誌」発刊当時の2001年の統計では教会学校の在籍生徒数は851名でした(大会記録による公式統計)。2020年の統計では390名です。つまり「教案誌」発刊当時もすでに教会学校の状況は困難でしたが、その時から20年後の現在は半分以下の在籍数に減っているのです。改革派教会の全教会数138教会・伝道所で計算すると一教会3名に満たない数字です。しかも、上述の数字は在籍数ですから、実際の教会学校出席数はずっと少ないはずです。結論的に言えば、教会学校は事実上の崩壊状況にあるといっても決して過言ではないでしょう。つまり、「教案誌」の刊行を続けることの基盤が失われてしまっているという深刻な問題が存在するという事です。「教案誌」の休刊という事象の根っこにある問題を見つめなければならないと思います。

4. 今後の課題

以上のように考えてきますと、問題は「教案誌」の休刊の問題にとどまらない改革派教会自体の根本的危機状況でしょう。教会学校の崩壊にとどまらず、教会の高齢化、青年層の減少化も深刻です。これは改革派教会だけではなく、日本の教会全体が直面している状況でもあります。

筆者自身は四国の最西南端の典型的な地方小都市・宿毛の小さな群れの牧師をしています。四国に来てすでに15年近くになります。その間、四国地域の諸教会に限っても

いくつもの教会が閉鎖を余儀なくされました。人間的に言えば、これからも閉鎖が避けられない状況です。他の教派も同じです。例えば宿毛近辺のこの地方のかつては60～70名を擁していた由緒ある教会も現在では牧師夫妻の他2、3名だけで礼拝を守っている現実があります。状況はこれほど深刻ではないとしても都会地の教会も教勢の退潮は明らかでしょう。

このように記すことは単なる情緒的な嘆き節ではありません。一言で言えば、教会はこの現実を直視して、教会の在り方を根本的に整え直さなければならないということです。

特に改革派教会の場合には良い意味で教会形成的です。従って、説教や牧会も教会形成的にオリエンテーションされているでしょう。しかも改革派神学に従ってなされています。それは正しいことですし、強く心に留めなければならないことです。しかし、事態は教会形成すべき教会自体が危機にさらされているという事実です。教会の存続なしに教会形成もありません。

このような現実を直視するならば、現在の状況では教会の全エネルギーを伝道に向けるべきだと思います。その角度から教会の存在も活動も再点検されるべきでしょう。教師の働きも、まず伝道にエネルギーを注ぐべきです。説教もまた強く伝道に方向づけられるべきです。教会形成を目指すためにも、伝道に力を入れなければならないということです。改革派教会の場合には、どれほど伝道に方向づけられても、教会形成を忘れる心配はありません。ですから、意識改革としては伝道に全面的に方向づけられる必要があります。私たち働き人も“教師”という意識よりも、“伝道者”と

いう強い意識において生きるべきです。改革派教会の教会活動は“武士の商法”のごとです。待ちの姿勢ではなく、伝道の戦線に打って出るべきです。置かれた環境の中で知恵を絞り、伝道のあらゆる可能性を探し求め、試行錯誤で良いので実践したいものです。

教会学校の働きも現状の中で最善を尽くすべきことは言うまでもありません。その意味で、この「教案誌」がネット上で継続されることは望ましいことです。しかし、教会学校においても伝道に方向づけられるべきです。まずは子どもたちのへの伝道にエネルギーを注ぐべきだと思います。事態

は困難な状況であることは確かですが、時代の社会的現実、置かれた地域の現実を踏まえつつ、何とか知恵を絞り、具体的方策を講じなければならないでしょう。

「教案誌」の休刊の事態は、このような“危機の一つのしるし”として受け止めるべきです。同時に子どもたちへの伝道、また伝道そのものへの“強い促し”と受け止めるべきだとわたしは思います。わたし自身も老齢となり、できることは限られてきていますが、自分は伝道者として召されたと強く自覚しますので、最後まで伝道に情熱を燃やしたいと願っています。

(宿毛教会牧師)

連載

自閉症者「猷」から始まりつつあること

吉田 実

①自閉症とは

我が家の長男であります猷は重度の知的障がい^{ききぐ}を伴う自閉症という障がいがあります。言葉は全く話すことが出来ず、聞くことも単語や短い文章が少し分かる程度です。周りの状況や相手の感情を読み取ることが苦手で、独特のこだわりがあり、かなりましにはなりましたが突然原因不明のパニックを起こすこともあります。コミュニケーションをとることが難しく、療育に大変苦勞をしましたし、その苦勞の多くは今でも続いています。この自閉症という障がいは広汎性発達障がい（生まれつきの脳の働きが定型発達者と異なる独特の特性を持っており、その障がいの領域が多岐にわたっている状態）の一つであり、大まかに言って①言葉の発達の遅れ（人との会話が出来ない、言葉が出ても鸚鵡返しであったり自分の言いたいことだけ言う等）、②対人関係の難しさ（人の気持ちを察したり共感することが苦手で人の表情が読めない、その場の雰囲気や暗黙の了解事項が理解できない等）、③独特のこだわり（行動・物・場所など特定のものに強いこだわりを持ち、活動や興味の範囲が狭く同じ事を繰り返す、変化に対応することが苦手）の3つの特徴があると言われていました。自閉症者はおそらく理解できる情報の範囲が限定的で、全体像や大前提、暗黙の了解や文脈といった大きな事を捕らえることが難しいでしょう。その分取りこぼす情報が多いのですが、やっと得ることが出来た限られた情報を大切に、その情報を律儀に守り、

その限られた情報をつなぎ合わせて自分なりに理解しようとするので、そこに独特のこだわりや勘違いが生じたりするのだと思われま。また体温調節がしにくい、音を平板に聞き取る、痛みに対する感覚が部分的に敏感だったり鈍感だったりするなどの身体的な特徴を伴うことが少なくなく、その程度も範囲も個人差があります。身体機能の発達の仕方が定型発達者とは違う、異なる文化の中で生きる人たちなのです。

②治療法、犯人探し

猷は現在24歳で、住み慣れた神戸を離れて1年半になりますが、新しい障がい者施設にも慣れて、毎日落ち着いて暮らしています。子どもの頃のことを振り返りますと、彼は言葉の発語は遅かったのですが、一時は「おとうさん」「おかあさん」「アンパンマン」などと言っていた時期もありました。しかしその後言葉は次第に消えて行き、2歳半のときに「知的障がいを伴う自閉症」と診断されました。帰って来て報告しながら泣く妻に対してわたしは「神さまが僕たち夫婦にこの子を委ねてくださったのだから、一生懸命育ててゆこう」というようなことを口にしたことを記憶しています。しかしそれは心から確信を持って発した言葉ではなく、わたし自身もその事実を受け止めきれずに動揺していました。そして、何とか治る方法はないかと治療方法を探したり、何が悪かったのかと犯人探しのようなことをした時期もありました。特にキリスト教信仰は「言葉の宗教」と呼ばれるほど

「言葉」というものを大切にすることもかわらず、その言葉が理解できなければ神さまのことも伝えられないではないかと、一時は絶望的な気持ちになりました。そのような時期が一番つらかったと思います。けれども、そういう時期を経ながらも、次第にこの事実を神さまとの関係で積極的に受け止めることが出来るようになって行きました。そのきっかけとなったいくつかの出来事をご紹介します。

③「天国の特別な子ども」

今でも印象深く覚えていますのは、一つの「詩」との出会いです。学生時代に京都摂理伝道所に通っていたわたしは、教会の先輩から紹介していただいた一つの詩に感動し、母教会である板宿教会の青年会の会報で紹介したことがありました。そんなことはすっかり忘れていたのですが、30年の時を経てその会報を偶然発見し、あらためて大きな励ましと慰めが与えられたのです。エドナー・マシミラという方が書いた「天国の特別な子ども」という詩です。

天国の特別な子ども エドナー・マシミラ

会議が開かれました 地球からはるか遠くで

「また、次の赤ちゃん誕生の時間ですよ」

天においてになる神様に向かって

天使たちはいました

この子は特別な赤ちゃんで

たくさんの愛情を必要とするでしょう

この子の成長は

とてもゆっくりに見えるかもしれません

もしかして 一人前になれないかもしれません

そしてこの子は 下界で会う人々に特に気をつけてもらわなければならないでしょう

もしかしてこの子は 走らず笑わず
遊ばないかもしれません
この子の思うことは
誰にもわかってもらえないかもしれません
何をやってもうまくいかないかもしれません

そしてこの子は
一人前ではないと言われるでしょう
ですから私たちは どこに生まれるか
注意深く選ばなければなりません
この子の生涯が
満足すべきものであってほしいのです
どうぞ神様 この子のために
こんな両親を探してあげてください
神様のために
特別な任務を引き受けてくれるような両親を

その二人は
すぐには気づかないかもしれません
彼ら二人が
自分たちに求められている特別な役割を
けれども 天から授けられたこの子によつて

ますます強い信仰を より豊かな愛を
いただくようになります
やがて二人は 自分たちに与えられた
特別な神の思し召しを
悟るようになるでしょう
天から送られたこの子を育てることによつて

平和でおだやかな
二人の貴い授かりものこそ
天から授かった
大変特別な子どもなのです

④霊的なことを感じるアンテナ

私たち夫婦は結婚当初より、ある共産圏の国に聖書をお届けする超教派の活動に参加しているのですが、息子が5歳くらいの時に一緒にかの国に連れて行ったことがあ

ります。その時に、厳しい迫害の中を通過して来られた現地のキリスト者の方のご自宅を訪問させていただき、貴重な証しをお伺いすることが出来る機会が与えられました。それは大変嬉しいことでしたが、当時の息子は多動傾向が強く、もしも大騒ぎをしてご迷惑をかけることになれば、彼らを危険に晒すこととなります。そうなることを大変恐れたのですが、約2時間ほどの間、息子はニコニコ笑いながら椅子に腰かけて、穏やかに過ごすことが出来たのです。この出来事を通して、この子にもこの子なりに霊的なことを感じる心のアンテナがあるということを確認いたしました。そして聖霊なる神さまは、きっと彼の心のアンテナにも触れてくださり、彼が分かるような仕方で語り掛けてくださるに違いないと信じて、言葉が分からない彼がみんなと同じ礼拝の場に共に集うということに、積極的な意味を見いだすことが出来るようになりました。

⑤教会の成長

息子が12歳の時のことです。日曜礼拝が始まり、オルガンの前奏が静かに流れ始めた頃、息子が突然大声を上げてパニックを起し、会堂の入り口の大きなガラス戸をたたき割ってしまったことがあります。その原因は分かりませんが、新しいお友達が出来て興奮したのかもしれません。とにかくすでに礼拝は始まっていますので、牧師であるわたしが説教壇から降りるわけにはまいりません。「怪我はしなかったか!？」という心配と、「父親がこれから説教をするという時に、息子が一体なんてことをするのだ!？」という怒りの感情が入り混じって、何とも言えない複雑な思いで事の成り行きを見守りました。すると、執事さんを中心に数名の方が協力して割れ落ちたガラスを片付けてくださり、割れて危険な扉に

段ボールを張って応急処置をし、身振り手振りで「息子さん、怪我はありません。大丈夫!」と知らせてくださる方もあり、結局説教が始まる時には皆さん何事もなかったようにいつもの通り前を向いて座ってくださりまして、わたしはその姿を見て大きな感動を覚えました。そして「私たちの教会はこういう教会なのだ」と改めて思わされましたし、手前勝手な言い方かもしれませんが、息子の存在を受け入れてくださることで、私たちの教会は確実に成長しているということを実感することが出来たのでした。

⑥神戸から但馬へ

息子のおかげで同じような知的障がいを持つお友達とのご家族との出会いが与えられ、神戸長田教会では「ハレルヤキッズスペシャル」という障がいを持つお友達を中心とした集会も始まり、そんな中で教会に加わってくださったご一家もあります。そして今わたしは、同じような知的障がいを持つお子さまたちのことを特に覚えながら「小さき者を守る教会」をコンセプトに歩み始めた但馬みくに伝道所からの招聘を受け、2020年の春から大屋に移り住んでいます。但馬みくに伝道所は2019年に大屋伝道所と和田山伝道所が合同して誕生した伝道所です。わたしは正直に申しまして神戸長田教会から動くつもりはなかったのですが、「知的障がいを持つ子どもたちのためのグループホームを造りたい、そしてゆくゆくは色々な違いを持つ人たちが助け合いつつ共に生きる、キリスト者の村を造りたい。そのために力を貸していただきたい」との招聘委員の方々の熱いお言葉を聞いた時に、「主は長年の祈りにこのような仕方で応えようとしてくださっているのかもしれない」との思いが与えられ、祈り続ける中でこの招聘をお受けする決心が与えられ

たのです。そして今は神戸長田教会の代理牧師を務めつつ、但馬みくに伝道所の宣教教師として大屋・和田山地区に遣わされています。

⑦神の国を映し出す共同体を目指して

とかくこの世では、生産性や能力で人の存在価値が量られ、小さな弱い人たちが隅に追いやられるということが少なくないのではないのでしょうか。たとえそうではなくても「配慮が必要な気の毒な人たち」と見なされるのが少なくないのではないのでしょうか。しかしそのような中で、じつは息子のような知的障がい者は、その存在そのものを通して世に向かって大事なことを語り掛けるという、大切な役割が与えられているような気がしてならないのです。人の存在価値は能力や生産性によらず、神にかたどって造られた人間としての命の尊厳そのものにあり、人は競い合い蹴落とし合って生きるのではなく、助け合い支え合って共に生きる時にこそ、人間本来の素晴らしさが光り輝くのだということを、言葉にならない彼らなりの言葉で、語り掛けてくれているような気がしてならないのです。「比べ合うのはやめて、ぼくたちと一緒に歩んでくださいませんか」という、彼らの存在そのものから発せられるメッセージに耳を傾ける時に、神にかたどって造られた人間としての、本当の意味で人間らしい生き方が始まるのではないか。この世の価値観とは正反対の「神の国」を映し出す新しい生き方、人間本来の生き方を証しする共同体が、そこから生まれるような気がしてならないのです。主イエスは「あなたがた皆の中で最も小さい者こそ、最も偉い

者である」と言われ、そして「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」と言われたからです。

知的障がい者の親が抱く共通の願いは、おそらく「親が死んだ後も、この子が幸せでいてほしい」ということだと思います。キリスト者の親なら何よりも「親が死んだ後も、ちゃんとこの子が教会に繋がり、イエスさまに繋がっていてほしい」と願うことでしょう。私共夫婦もずっとそのことを願い、祈り続けてまいりました。そしてまだ具体的なことは何も始まってはいませんが、但馬みくに伝道所では、新会堂のリノベーションに取り組むとともに、近い将来有志によるNPO法人を立ち上げ、隣接する古民家を購入して知的障がい者のためのグループホームにしたいと願っています。そして教会とグループホームを中心に、色々な違いのある人たちが主にあって助け合い支え合いつつ共に生きる、神の国を映し出すような共同体形成、キリスト者の村づくりを目指しています。まだ具体的には何も始まっていませんし、それが簡単なことではないことを百も承知しています。また自分たちの知恵や力では決して出来ることではないということを深く自覚しています。しかし同時に、神さまが私たちの祈りを聞きあげてくださって、ここまで導いてくださったということをも、強く確信しています。この続きの物語を是非見せていただきたいと心から願いつつ、是非皆さまのお祈りの内に加えていただきたいと願い、教案誌の紙面をお借りして分かち合わせていただきました。

(但馬みくに伝道所宣教教師)

連載

この小さな者の一人にしたのは

妻の涙を止めてくれた娘

小 堀 昇

①妻の涙を止めてくれた娘

わたしは1988年秋に結婚しました。当時、わたしは27歳、妻はまだ大学を出たばかり、22歳の若さでした。本当に、今思えば、微笑ましくなってしまうほど若い夫婦生活のスタートでした。翌年の冬に長男が与えられて、私たちは、夫婦から家族へと変わっていきました。コリントの信徒への手紙二5章17節より、主によって新しく生まれ、主と共に生きていってほしいと願い、長男を新と名付けました。その時はまだ他教派の牧師をしていたのですが、長男が与えられた喜びも手伝って、私たち夫婦は、充実した日々を送っていました。

それから、ほどなくして、妻の胎に再び命が与えられたのでした。それは、私たちにとって大きな喜びでした。私たちは、その子が与えられたことを神さまに感謝し、御守りを祈りました。しかし、その子は残念ながら、生まれてくることはありませんでした。ある日、その子は妻のお腹の中で、死んでしまったのでした。流産でした。この事実を、私ども若い夫婦が受け止めるのは、辛いことでした。

わたしは、アパートの前で、入院先の病院から妻が帰って来るのを待ち続けました。全てが終わり、雨降る中、妻が帰ってきました。わたしは傘を差し出し、堪え切れず、その場で抱き合っただけ泣いたのでした。

若い夫婦にとって、特に、その出来事を

身をもって体験した妻にとって、それは心身共に本当に辛い出来事でした。以来、妻は暫くの間、自分の何がいけなかったのだろうか、何が足りなかったのだろうか、痛みが思い出されては考え、時に自分を責めることもあったようでした。もう子を授かることはないのだろうか、涙で枕辺を濡らすこともありました。しかし、月日が経つ中で、これも、神さまが御手の中で許されたことだと、現実を受け入れることができるようになっていきました。

そして数年後、沖縄で牧会に携わっている時に、家内にまた胎の実が与えられたのでした。わたしは、その子が生まれてくるまで、家内のお腹に手を当てて、毎日お祈りをしました。

待ちに待った1993年4月7日、沖縄県で長女が生まれました。私たち夫婦にとって、深い喜びでした。そして、神さまを賛美する子に育ってほしいと願って、詩編の「詩」を一文字取って、詩乃と名付けました。その願い通り、今でも、大きな声で、神さまを賛美する子へと成長してくれました。

どれくらい経った頃でしょうか、詩乃の遊び方は独特で、他の子と比べると言葉も遅く、歩みも遅いことが分かってきました。そうこうしている内に何度か熱性けいれんを起こし、ある日、熱が無いのに、けいれんを起こして運ばれ、検査の日々が始まったのです。そして詩乃に病気があることが

分かったのです。

どうして神さまが、私たちにこのようなことを許されるのか、分かりませんでした。しかし、ある日、二人で話し合ったのです。「この子はきっと、神さまが、どの家庭に預けようかとお考えになられて、この家庭なら大丈夫だ、この家庭に預けようと、私たち夫婦に与えられた子なのだ」

思いを分かち合い、ほどなくして、詩乃の病気を、二人で受け入れられるようになったのです。

『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである』
(マタイ25：40)

その時、この御言葉が心に響いてきました。そして、この御言葉は、以来、私たち夫婦のテーマ聖句となりました。

私たちが詩乃のために良いことをする、そういう一方的なことではありませんでした。何と、詩乃がお腹に与えられたことが分かった日から、妻の涙が止まったのです。流産してしまった子の顔を見ることはできなかったけれども、神さまは新しい命を与えて、育てることをもう一度、許してくださいました。妻の涙がその時から止まったのです。二人で力を合わせて、この子を育てていこうと、若い夫婦に、小さな希望の灯を、詩乃は灯してくれたのです。詩乃は、私たち夫婦にとって、癒しと希望の存在だったのです。

②自信をもって生きる事ができるように

詩乃は、小さな頃から、水遊びが大好きでした。その姿を見て、私たち夫婦の詩乃

を育てる方向性が何となく決まりました。まずは、家事が好きな子にしよう。身の回りの家事さえできれば、与えられた範囲の中で、何とか生きていくことができるだろう。たとえ他の子どもたちと同じ事ができなかったとしても、きっと生涯の自信になる。

他の子どもたちとの交わりの中で、速さの違う詩乃は、残念ながら、あまり自信を持つ事ができなかったのです。何か一つでも自信を持てるように、その世界を広げることができるようにと、神さまから知恵を頂きながら、試行錯誤の子育てが始まりました。出来ることが少なく、その範囲も狭かったとしても、一つずつでも、できる事が増えるように、又その幅が広がり、世界が広げられていくようにと。それを続けるならば、詩乃の生涯にとって、確かな自信になるに違いない。私たちは、そのことに心を注いでいったのです。

できることは何でもやってみました。良い医者を探すことは勿論のことでした。子どもバイブルと一緒に読むこと、絵本を読み聞かせること、詩乃の好きなキャラクターのパズル、シャボン玉や砂遊び、公園に積極的に連れ出し、他のお友達と触れ合うこと。公立の小学校に通いながら、毎日、家庭で詩乃のペースに合わせて読み書きを教えること等々、詩乃の世界が広がりそうなことは何でもやってみました。

そのような実に小さな少しずつの歩みの中で、詩乃の世界がわずかずつ広がっていったのです。そして成長の手応えを、親子共に確かに感じる事ができるようになり、詩乃の中にも、少しずつ自信が芽生えるようになっていったのです。

③良い出会いに恵まれて

詩乃を育てていくにあたって、実に良い出会いに恵まれました。今思えば、全てが神さまの御導き以外の何ものでもありませんでした。

当時、最高の治療をしてくれる専門の医療機関を紹介してくれたのは、彼女の祖母、わたしの母でした。そこで良い医師に恵まれて、10歳の時に完治しました。

また何より忘れてはならないのは、詩乃の兄の存在です。新は、障がいを与えられた妹を決して嫌がることなく、むしろ積極的に愛し、一緒に過ごすことを心から楽しんでくれて、今日まで、温かい心をもって受け入れてくれています。今でも、折々に電話やLINEで安否を問うてきてくれるのです。兄や祖父母だけではありません。親戚にも恵まれて、従弟たちも、小さい頃は、詩乃とよく遊んでくれましたし、大人になった今も折に触れて、何くれとなく心にかけてくれています。

幼稚園は、教会付属の幼稚園に恵まれて、先生方の行き届いた配慮の中で過ごすことができました。お泊り保育などにも参加することができ、良い思い出を残すことができました。小学校は六年間、普通学級で過ごしました。少子化で、各学年一クラスというこじんまりした小学校に、詩乃が二年生の時に、障がい児に理解のある校長先生が転任してこられ、詩乃の卒業まで見守ってくださいました。担任の先生方にも恵まれて、細やかな連絡のやり取りをしながら過ごした六年間でした。校長先生は、礼拝に来てくださることもありました。

学年を追うごとに遅れは明らかになったのですが、周りのお友達がぐんぐん成長して、詩乃のことを理解し、フォローしてく

れるようになりました。運動会、学習発表会など、普通学級の子どもたちと過ごした貴重な思い出が沢山できたのです。

また忘れてはならないのは、教会の兄弟姉妹方の温かい支えでした。私たち家族が導かれたどの教会でも、教会の兄弟姉妹方は、詩乃を温かく受け入れてくれたのでした。このことは、私たち夫婦にとって、深い慰めでした。

詩乃が安心して礼拝生活を送れますようにと私たち夫婦は祈っておりますので、どこにあっても良い教会に恵まれたこと、兄弟姉妹方に恵まれたことは、神さまからの何よりのプレゼントでした。

詩乃は、高校一年生の時に信仰告白をしました。試問には、だいぶ時間をかけました。特に、その時の小会は、分かりやすい言葉で試問をしてくださり、信仰告白文も、憲法第二委員会と連絡を取りながら、分かりやすい言葉で告白することができるようにしました。今でも詩乃は、神さまのことが大好きで、毎日のお祈りと毎週の礼拝を欠かすことはありません。おそらくは、私たち夫婦の方が先に天に帰らなくてはならないと思います。しかし、生涯に渡って神さまから離れてしまうことが無いように、教会生活から離れてしまうことが無いように祈り、これからも配慮を続けていきたいと思っています。

④Doingではなく、Beingを

わたしは元々、たいへん伝道熱心な教派の出身です。伝道と礼拝出席人数を非常に重んじる教派でした。特に最初、副牧師として仕えた教会の主任牧師は当時の福音派で名の通った方であり、短期間で瞬く間に、400名ぐらいの教会を建て上げた、本当に

素晴らしい牧師でした。その先生の影響を強く受け、わたしも、どのような教会を建て上げるかよりも、何人の教会を建て上げるかということに、心血を注ぐようになっていました。まさに、Doing です。

当時のわたしが持っていた価値観は、この世界の価値観と同じで、どれだけ集めることができるかできないか、だったのです。特に沖縄県で伝道していた時には、伝道開始から数年以内の教会の自立を求められていたので、ともかく一生懸命に伝道しました。わたしは人数を気にして、神に頼るよりも、何とかして自分の力や能力、自分の経験で、教会を建て上げようとしていたのです。Doing によって教会を建て上げ、何人を集めたかによって、自分自身の価値を測ろうとしていたのです。

しかし、詩乃が与えられ、詩乃を育てる中で、わたしの内に、神さまは変化を与えてくださいました。自分の力では、その世界を広げることも、他の人のように何かを成し遂げていくこともできない娘、私たち夫婦に依存しなければ、生きていくことすらも難しい彼女は、確かに Doing は、弱いかもしれないけれども、その存在そのもの

のが、私たちには嬉しくて、尊いのです。

私たち夫婦は、この三十年近くの間、詩乃を中心に、彼女と共に歩む中で、Being の尊さを教えられ、夫婦の絆も深められてきたのでした。詩乃が与えられたことは、わたし自身の牧会の方向性を変えるほど大きな神さまからの恵みなのです。

『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』
この名は、『神は我々と共におられる』
という意味である」（マタイ1：23）

私たちの主イエス・キリストご自身の名が、「インマヌエル」、私たちと共にいてくださる神なのです。

私たち人間が、神に背いたエデンの園のあの日から、ずっと待ち望み続けた救い主、イエス・キリストご自身が、私たちと共にいてくださる。これこそが、神さまが私たちにお与えくださった救いの恵みなのです。主イエスが共にいてくださる Being が、私たちの Being の尊さの源ではないでしょうか。（花小金井教会牧師）

連載

執事職について(4)

門脇陽子

これまで3回にわたり、吉田実先生が聖書の教えと政治規準に基づいて、「執事職」について丁寧に解説してくださいました。最終回は、現役執事が実践的な話をというのが、教案誌編集部のご意向でした。

自己紹介をしますと、わたしは1998年に東部中会の上福岡教会で執事に任職され、21年間、同職を務めました。2019年に長老に任職されましたので、現役執事ではありません。またわたしに語れるのは、自分の属する教会でのごく限られた経験にすぎません。しかしまた、執事の立場を離れて見えてきたものもある気がします。

2020年初頭からのパンデミックは、教会にとって、なくてはならないものは何かを実感する機会になりました。それまでの集会や活動を継続できなくなっても、主日の礼拝だけは固守すべきことを、すべての信徒が体験的に理解したことと思います。

同時に、礼拝しか行えなくなっても、教会を維持するためにどうしても必要な仕事も見えてきました。教会活動がミニマムになっても、毎週の礼拝献金と月定献金の管理や支払いは休むことができません。長欠者への印刷物のお届けも欠かせません。主日にしか人が集まらなくても、教会堂で雨漏りがすれば修繕の手配が必要になります。それらの仕事を担っているのが、執事です。またコロナ禍のために、衛生管理など、やるが増えた面もあります。

上福岡教会では、最初の緊急事態宣言の直後からオンライン礼拝、その後、グループ制礼拝（オンラインも続行）へと移行しましたが、その際、小会よりも執事会のほうが遅くまで会議をすることが、しばしばありました。小会は大きな方針を決めますが、執事会にはそれにとまって検討すべき細々とした事柄が山ほどあったのです。

教会全体の活動は減っても、執事の仕事はそうはなりません。執事は、いわば教会生活のライフラインを支える、エッセンシャルワーカーにあたるのかもしれない。

また執事は、教会のセンサーの役割をしているように思います。執事はお見舞いや出産のお祝いなど（今はコロナ禍で訪問はできませんが）、教会員の苦しみや喜びのときに立ち会う機会があります。そこから、その方やご家族の状況について、さまざまなことを感じとります。

誕生日や敬老の日のカードを書きながら言葉に詰まると、その方をよく知らなかったことに気づき、注意深くなります。献金の管理は単なる事務処理ではなく、教会員のちょっとした変化や配慮の必要に気づかされたりします。そのようにして執事が感じとったことが、よいかたちで牧師や長老と共有されていくと、教会全体の牧会に大きく貢献するのではないのでしょうか。

執事や長老は一度、任職されると何年も、

人によっては何十年も働きを続けます。長期にわたる奉仕では、折々に思いを新たにすることが必要です。任期満了の節目はそのひとつでしょう。

上福岡教会では、執事は2年、長老は3年ごとに任期満了の改選選挙をします。まず総会に先立ち、改選の年にあたる役員は一人ずつ、小会と面談をします。内容は、

1. 任期を振り返っての所感

自分の奉仕を振り返り、与えられた恵みや学んだこと、反省点などを話します。

2. 会員総会で改選された際の任務の継続

役員を続けるかどうかを改めて問われ、自分の口で意思を表明します。

3. 小会議員から当人への発言

牧師と長老から、執事へのねぎらいと感謝。ときには注文もあります。

執事をしていた頃は、何を言われることかとドキドキして、早くその場を立ち去りたかったのですが、長老の立場になってから別の景色が見えてきました。

かつてのわたしのように緊張している執事を前に、その方の2年間のご奉仕を思い返します。またその奉仕がなされた状況(健康、仕事、家庭など)に思いを馳せると、自然に感謝がわいてきます。また、一人ずつ面談しながら、主がそれぞれ違うすばらしい賜物のある執事を、教会に備えてくださったことに、感謝したくなります。

4. 当人から小会への発言

日頃、小会に対して思っていることや要望を伝えるよい機会です。

改選の面談はとても緊張しますが、面談を受ける側にとっては、自分の働きを振り返り、思いを新たにすることが、面談をする側にとっては、その方の働きをあらためて認識し、ねぎらい、今後の働きのた

めに祈る機会として用いられています。

会員総会の改選選挙では、まず執事の働きに関連する聖書箇所が朗読され、続いて、**政治規準10章「執事」**が読み上げられます。「執事の職務は、聖書によれば、主イエスキリストの模範に倣って、愛と奉仕の業を行い、聖徒の交わりを特に相互の助け合いにおいて具現するものである(56条:執事の職務)」この職務を担当する者は、霊的品性を持ち、模範となる生活を送り、家をよく治め、よい名声を持ち、あたたかい同情心と健全な判断力を持つ者でなければならない(57条:執事の資格)(58条:執事の任務は、この原稿では省略します)

毎回、身が引き締まるというより、身が縮む思いをします。求められていることと実際の自分との落差に、顔を上げられなくなります。主の憐れみと教会員の忍耐がなければ、奉仕を続けられないことを、あらためて覚えるときでもあります。その後、引退執事(長老選挙では引退長老)が選挙前の祈りを捧げ、投票に入ります。このように、改選選挙はとても厳かなひと時です。

最後に、執事の選挙でよく朗読される聖句として、「奉仕者の仕事を立派に果たした人々は、良い地位を得、キリスト・イエスへの信仰によって大きな確信を得るようになるからです(テモテ1:3:13)」があります。「仕事を立派に果たした」と言える日は、永久に来ない気がします。それでも、執事職にあることは、「キリスト・イエスへの信仰によって大きな確信を得る」恵みの訓練コースに入れられていることだと思います。この恵みの職に就く方が全国の教会で豊かに与えられますように。

(上福岡教会長老)

これからの教会学校

教案誌で考えたこと

長 田 詠 喜

教案誌の紙媒体での休刊に際して、75回年度の教育委員が「教会学校」の今後についての展望を記すという連載をさせていただきました。いよいよ最終号となりました。わたしなりに、教案誌や教会教育について記したいと思います。

教案誌の第8号に、「本誌の基本方針」という文章が掲載されています。本誌の立ち上げから今日に至るまで働きの中心となって来られた相馬先生の文章です。この文章はその後少しずつ手が加えながら、初期は年一回、大会移管後も時に応じて掲載してまいりました。教会学校教案誌は基本的にこの方針に則って出版されてきました。

そこで示されているのは、一言で言えば「礼拝共同体におけるみことばの説教による子ども伝道と教会形成」です。この方針にはいくつかの重要な要素があります。

まず一つは「みことばによる（子どもへの）伝道」です。教会に子どもが集まらなくなったと言われるようになって随分と経ちます。ただ聖書の話をしていても子ども伝道にはならないのではないかと。皆がそんな思いを持っているのではないのでしょうか。その中で、なお、聖書のみことばを語ることは、みことばが子どもたちにとって魅力があり、子どもたちを養い育てる力を持つという確信があるからです。この確信が、この教案誌作成の動機です。この点はこれまでも確信してきましたし、今後も確信を共有し続けられるでしょう。

ただし、その「子どもへの聖書のお話」が、「学校」ではなく礼拝共同体であるという観点は、昔はあまり省みられていなかったかもしれません。最近になって「子どもの礼拝」とか「子どもの教会」といった名前を聞くことが増えてきました。「教会学校」ではなく「子どもの礼拝」であるならば、教会はその礼拝を朝夕の礼拝と遜色なく、教会の中心的な働きとして位置づけ、これに取り組む必要があるでしょう。この点については、さらに全教会的な意識の変化が必要と思います。

この意識改革のために、教案誌は、子どもの礼拝に奉仕する教師たちの育成を志しました。基本方針で前面に打ち出したのは教師会の役割です。教師会が共同作業として子どもへのメッセージ取り組む結果、個々の教師のスキルアップが実現でき、子どもに資する礼拝メッセージを語るができるというのが、教案誌の確信でした。

わたしがまだ委員会に加わる前、当時の編集の先生に「教会学校教案誌はもっと手軽に簡単にならないか？」と尋ねたことがあります。その時の答えは、教案誌は高いレベルを保つことで、各教会の教師たちを訓練することを目標としているから、ある程度の難しさは必要であるといった答えでした。

一方的に教えるのではなく、教師も共に学び成長する。それによって、教会全体が成長する。それが教案誌の目指した教会の全体像でした。この点については、スローガンとして掲げるだけでなく、各教会で

実際に実行するための、より具体的な工夫の提供が必要だったかもしれません。

編集作業に関して記します。わたしが教育委員会に加わり、教案誌に関わるようになったのは、それまで関わってこられた先生方が他の役目に移られる等して教案誌の働きを離れたことによる、どちらかと言えば意図せぬ理由によるものでした。数年の働きを通して、改めて自身の賜物の足りなさを自覚させられました。他の委員の先生、執筆くださった先生方や兄弟方、印刷所、そして何より購読してくださった諸教会にご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫びします。

奉仕に関わって、単に作業の負担ということにとどまらず、出版という働きの大変さを改めて感じました。何事であれ出版し、世に問うことは大きな責任の伴うものです。「教案誌は（労力的に、質的に、その他の理由で）分不相応ではないか」ということは時々言われました。わたし自身もそう感じることもありました。しかしそれでも出版し続けることに意義があると考えてきました。

その理由として、一つは私たちの教派の教理教育と説教の実力を実際に結集することが大切だからです。

分不相応であるのは事実でも、「分不相応だ」というところに止まって何もしなければ、何も始まりません。理想を掲げるだけでなく、現に今持っているものを集めてしか教会の活動は始まらないのです。

もう一つ、そもそも教会学校教案のような教派全体にわたる活動を行うためには、教派全体にわたる「意思伝達の間」がなければなりません。この点、私たち改革派教会は、東部中会の「まじわり」に始まり、現在は大会教育機関誌委員会の「リジョイス」など、信徒が手軽に手に取れる教育に

資する冊子があります。これらの出版物は実際にわが教派の信徒教育に大きな役割を果たしてきました。教会学校教案誌も特に教会教育の側面でその役割を担うことができたと願ってきました。

これらの小さな発信を積み重ね続けることが持つ意味は決して小さくありません。現在準備している教案誌のアーカイブには、発刊以来二十年、一千余りの子ども向けのメッセージが蓄えられています。同じ聖書箇所メッセージも少なくありません。二十年の間に説教は古くなります。聖書学も進みますし、聞く側も変わり、提供の仕方も変化します。以前のメッセージを参考にしつつ、さらに新しいメッセージを積み重ねていくことは「常に改革し続ける」教派としては必然なのです。

同じことは、教案誌と共にこの時期大会教育委員会が作成してきた「子どもと親のカテキズム」「神さまと共に歩む道・子どもと親のカテキズム解説」にも言えます。こちらの書物も多くのご意見をいただきました。個人的には、カテキズムはこれで終わりとは思っていません。信仰基準でさえ「更ニ優レタルモノヲ作成スル日ヲ祈り求ムル」と宣言するわが教派が、一つのカテキズムを作ってそれでよしとするはずがありません。いずれの日か、新しい「子どものカテキズム」が作られるべきと思います。今回の教案誌とカテキズムは、確かに分不相応な貧しい一歩ではありますが、現時点での一歩を残したことで、次の働きはこの一歩から始めて、さらに前に進める筈と思います。

今後教案誌がどうなるのか、どんな形でどんな新しい働きがなされるのか、わからないことばかりですが、今後のために、教案誌に関わってきて、この種の働きの課題であると感じていたことを記しておきま

す。

第一に、対象となる子どもの多様性です。同じ学年でも、教会員の子どもと未信者の子どもでは必要なものが全く違います。その子どもの資質や賜物によっても違ってくるでしょう。年齢にとらわれない対応をするために、ここ二年ほどは分級展開例の学年表記を廃してみました。残念ながら、かえって対象がぼやけてしまったように思っています。子どもたちの発達のかたと、それぞれの段階にどのようなアプローチが有効であるかという研究は、信仰とは別の領域の課題です。より専門的な学びとそれを反映したカリキュラム作成が必要と思います。

さらに、教会学校教案誌が掲げつつも必ずしも十分に対応できなかった課題が、「全世代に対する教育カリキュラム」の提供です。「教会学校」「教会教育」とは単に子ども向けの聖書のお話や分級にとどまらず、教会の全世代に対する教会の教育活動全体を指す言葉であるということは、改革派教会の初期から言われていたことです。しかしどうしても教会学校という子どもを対象としたものだけと受け取られがちです。実際、教会学校教案誌もその大部分を子どもに対する働きが占めておりました。「うちの教会には子どもが来てないので『教会学校教案誌』は必要ないです」という声を何度も聞きました。けれども、大人にも読んでいただきたい、大人にも学んでいただきたいのが教会学校教案誌の目的でした。そのための連載にも意識して取り組んだつもりです。例えば、今号まで連載されてまいりました「執事職について」は教師、長老と続けてきた教会役員養成のためのカリキュラムの試みです。

願わくは、乳幼児から生徒、学生、青年という成長の段階に応じて、また結婚、夫

婦関係、子どもの養育という家庭形成に関わって、さらに仕事や高齢化、老後といった世代に応じた課題について、一貫したカリキュラムがあればと思います。また、新来者対応から、信仰生活入門、信仰告白や受洗準備、更には役員準備教育といった教会員としての様々な段階に応じたカリキュラムも必要です。これまでも個々の教師が取り組んできたと思いますが、教派としてその蓄積を活かす取り組みがなされる必要があるでしょう。

その際、課題となるのは「それぞれの段階において何を学び、何を知っておく必要があるか」という点についての共通認識です。実はこの点において教派内の議論はほとんどなされていないと思います。教会によって、牧師によって、受洗準備も役員教育も実に様々です。

これは教会教育が教派全体で一律でなければならないということではありません。それぞれの教会、対象となる人の状況によって、バリエーションや幅があるのは当然です。しかし、「基本となるのはここ」という一つの目安を作ることができれば、そのための共通の教材を作るために役立つでしょうし、教材作成は、牧師や一教会では対応できない行き届いた教会教育の助けになるはずです。

今回の教会学校教案誌の休刊は、決して「ある一定の役割を果たし終えた」というものではないと思っています。教会教育の役割は終えることができるものではないからです。個人的に誤解を恐れずに言えば、「刀折れ、矢尽きる」と言った思いです。いずれどなたかがこの折れた刀を拾い上げてくださるようにと願っています。

(新所沢教会牧師)

献身のすすめ

今、石膏の壺を壊して

長谷川 はるひ

【開かれた道】

「30年前に開かれていたら、行かれましたか？」ささやくように質問されて、わたしもささやくように答えました。「今からでも、間に合うと思います」。

2016年1月、中部中会信徒神学講座の後の、同年代のある姉妹との会話です。その講座では、神学校学監の袴田康裕教授から、女性役員についてのお話をお聞きしました。女性にも教師、長老への道が開かれたけれど、誰でもその道に進めるわけではない。召命の問題である。

「問題は、外的召命ですよ」とわたしがささやくと、「そうですよね」と姉妹も応じてくださいました。神さまがわたしを呼んでおられるということが、わたしの心の中だけでなく、外から見ても明らかでなければ、開かれた道を歩いていくことはかなわない。

神学校に入学できるの？ 入学したとして授業についていかれるの？ 家族を置いて、神学校の寮に入って大丈夫？ そもそも、神学校に行きたいと牧師に相談したときに、最初に言われた言葉は、「女性には招聘はないよ」。

けれど、道が開かれているなら、その召命を果たすために賜物を行行使する責任がある。今からでも、間に合うはず。そう思って、わたしは神学校に行くことにしました。

【入学試験】

神学校の入学試験は、聖書・キリスト教基本教理・英語の学科試験と、論文と面接。教会学校で奉仕をしていれば、聖書の試験

はそれほど難しくありません。「せいしよめいもくづくし」（本誌77号29頁掲載）を歌いながら66巻の書名を書いたり、十戒や主の祈りを書いたり、有名な聖句の箇所を覚えたり、聖書の後ろにある地図の地名を覚えたり。

教理は、ウエストミンスター小教理問答を暗記するよう言われました。わたしは苦手な英語の試験対策を兼ねて、英文のウ小教理を暗記しました。これは試験にも、その後の授業にも、とても役立ちました。

英語の試験は、聖書から一文、教理の解説本から一文、アメリカンジョーク的な小唄の一文を翻訳する問題でした。教理の解説には、ウ小教理の英文で覚えた単語が見つかりました。内容から英文を推測して翻訳するという荒技で、なんとか試験をクリアできました。

（註；わたしたちが入学後、試験問題が難しくなったという噂を聞きます。これから試験を受ける方は、現役神学生から最新の情報を入手してください）

【神学生は祈られる】

「神学生って学割あるの？」と何人かから聞かれました。神戸改革派神学校は一条校ではありませんから、公共交通機関等の一般の学割はもらえません。その代わり、教会の中では「神学生は無料」サービスがたくさんあり、食べ物もたくさんもらいました。寄贈図書の「古本市」は、なんと定価の95%引き！ 破格の値段で神学書を手に入れることができ、感謝でした。

派遣教会の皆さんは、神学生を祈って育

ててくださいます。小さな者の奉仕を喜んでくださり、励ましてくださいます。

課題が重なり、授業の準備が間に合わず、「もう無理～」と弱音を吐くこともありました。そんなとき、ぐったり疲れて寮に戻ると、差し入れが届いていることが、度々ありました。ポストに激励の手紙が届いていることもありました。神さまが、絶妙のタイミングで助けをくださる。神学生のために祈っている人を通して。

わたしを個人的に知っていて祈ってくださる方もいれば、わたしのことを知らなくても、女子神学生だから、という理由で祈ってくださる方もいました。そして多くの方が、女性だろうが男性だろうが関係なく、神学生だから、御言葉に仕えようとして学んでいるから、わたしのために祈ってくださっていました。いろいろなことがありましたが、多くの祈りに支えられて、神学校で学び続けることが出来ました。心から感謝申し上げます。

【ナルドの香油】

マルコによる福音書14章3～9節、「一人の女が、純粋で非常に高価なナルドの香油の入った石膏の壺を持って来て、それを壊し、香油をイエスの頭に注ぎかけた」。その香りは部屋中に広がったことでしょう。この、とんでもない行動に、イエスさまと一緒に食事をしていた人たちは、憤慨し、彼女を厳しくとがめます。しかし、イエスさまは「するままにさせておきなさい」と、おっしゃいます。「わたしに、良いことをしてくれたのだ」と。「この人はできるかぎりのことをした」と。

道が開かれているなら、その召命を果たすために、できるかぎりのことをしたい。他の人から、「もっと他にすべきことが

あるだろう」と非難されても、非常識だと厳しくとがめられても。

どうして神学校に行きたいの？

どうして牧師になりたいの？

長老じゃダメなの？

教会学校奉仕者じゃダメなの？

何度も問われました。他の人からも、自分自身からも。

特に最後の「教会学校奉仕者じゃダメなの？」は、自分からの質問としては、一番大きいものです。「神学校を卒業した教会学校奉仕者」で、なぜいけないのか？「教会学校奉仕者」が、自分のアイデンティティだったのではないのか？

【石膏の壺を壊して】

神さまからいただいた大切な賜物を、わたしは石膏の壺に入れていました。その壺は、「教会学校奉仕者」というわたしのアイデンティティです。その壺を壊して、わたしの賜物を全て、イエスさまの頭に注ぎかけたい。わたしのできるかぎりのことをしたい。そのことで、他の人からとがめられても、大丈夫。イエスさまは、「するままにさせておきなさい」とかばってくださいます。そして、たくさんの方が、祈ってくださいます。

あなたも、石膏の壺を壊して、イエスさまに「できるかぎりのこと」をしてみませんか？ 今までの自分から自由になって。古い自分を脱ぎ捨てて。

子育てが終わってからでも間に合いますが、より若い人が喜ばれるのも事実です(笑)。そして、あなたの人生で、あなたが一番若いのは、今なのです。

今からでも、間に合いますよ。

(坂戸教会協力伝道者・新潟担当)

信仰告白のあかし

洗礼に導かれて

牧 野 巧

(序文)

主イエス・キリストに接木された者、教会の一員に加えられたことを主なる神さまに感謝します。

わたしにとって洗礼式は、生涯忘れる事の出来ないかけがえのない一日になりました。洗礼入会式、その日のためにわたしを覚えて祈ってくださった、牧師ならびに教会の兄弟姉妹の皆さまに感謝します。そして、主なる神さまに最大の感謝をささげます。神さまは、わたしにキリスト教に理解ある両親を与えてくださり、神の家として名古屋岩の上教会を、牧師としてまた教師として相馬牧師を、そして兄弟姉妹の皆さまとの交わりをわたしに与えてくださいました。それは、わたしに「生きた真の三位一体の神」を教え、信仰を与え、信仰を養うために完璧でありました。洗礼入会式までのわたしの進歩、またこれからの信仰の歩みはすべて、神さまに帰せられるものです。

(洗礼に至るまでの歩み)

わたしが初めて教会に導かれたのは2019年9月8日でした。この日は、ローマ・カトリック教会などでは、伝統的に「聖母マリアの誕生日」として祝われている日だそうです。主の母マリアの誕生日として祝われている日に教会へと導かれ、イエスさまの誕生をお祝いする日に、洗礼入会へと導かれたのは、神さまの深いご配慮を感じま

す。教会に導かれる前のわたしは、学業のこと、人間関係のことで多くの悩みを抱えていました。現在、大学では哲学を学んでいます。この哲学に惹かれたキッカケはカール・マルクスの共産主義・社会主義思想でした。つまり、わたしは無神論者であり、神さまを信じたことも祈ったことも、もちろんありませんでした。自分にこびりついた悪徳、悪い習慣、神さまとの交わりがないこと、それらを改善しようと思ったことすらありませんでした。

教会に行こうと思ったキッカケは、大学でヨーロッパの哲学を学びながら、ヨーロッパの思想を知るにはキリスト教を知らなければ、というような学問的・知的好奇心からでした。その時のわたしは、まさか自分が受洗するとは夢にも思っていませんでした。しかし、主日に礼拝式に出席するうちに、いつのまにか、牧師とマンツーマンでのカテキズムの学びを受けるようになり、ついには洗礼へと導かれました。神さまの御計画は本当に予想がつきませんし、様々なキッカケ・機会を用いて進められるのだと驚かされます。

わたしが洗礼入会の決心へと導かれた聖句は『ペトロの手紙一1章8～9節』『あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているから

です」、という箇所です。なぜなら、この御言葉が、わたしの心の状態に完全に合っていると感じたからです。わたしは主イエス・キリストを見たことも、声を聞いたこともありません。しかし、それにも関わらずキリストを愛し、キリストを信じています。教会へ行くこと、礼拝をささげることによって大きな喜びを感じています。わたしは、主なる神さまから信仰が与えられ、魂の救いを受けていることを確信しています。洗礼を通して聖霊の助けによって、以前の罪は洗い流され、清められたわたしの魂には上から光が注がれました。今やわたしは神さまによって生かされ、神のもの、神の民

の一員となったことがわかります。

(最後に)

これからの信仰の歩みには、さまざまな誘惑や試練が多いことと思います。しかし、主なる神さまがわたしを選んでくださったこと、神さまが常にわたしの側にいてくださり支えてくださることを信じ、キリスト者として新しい人生を歩んで行きたいと思います。真の生きた唯一の神にのみ、イエス・キリストを通して栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

(名古屋岩の上教会)

教会学校訪問

神戸長田教会ファミリー向けの礼拝

小 河 敬 太

神戸長田教会は、昨年から教会学校ではなく第二礼拝として正式な礼拝の場となりました。オーソドックスな10時半からの第一礼拝に比べ、幼稚園生でも分かるファミリー礼拝を目指しています。2～3歳から80歳頃までの方が参加しています。第一礼拝と第二礼拝両方出席される方もおられます。

教会の紹介

神戸長田教会は1916年より神戸長田の地で活動を開始し、1926年に現在の蓮宮通に最初の会堂を建てました。教会と共に開設された長田幼稚園は20年程休園し昨年閉鎖しましたが、長年にわたり地域の幼児教育に貢献してまいりました。近年は吉田実牧師を中心に学童保育、未就学園児の預かり保育、知的障害児を中心とした集会、絵手紙教室、ハレルヤカフェなどの高齢者の方々の集い等「教会は地域のために何が出来るか」という祈りの中活発な伝道がなされてきました。現在はコロナの影響ですべて活動は休止されています。

昨年度から吉田実牧師の下で小河敬太定住伝道者が招聘され教会の一人一人が伝道者、牧会者という万人祭司の意識をもって教会員が主体的に賜物を出し合って成長する事を目指しています。

第二礼拝になるまで

なかなか伝道が進まない中 CS 教師たち

がどのようにしたら契約の子どもたちが喜んで礼拝し、信仰を継承できるのか。また子どもたちが自信をもって伝道出来る教会とはどのような教会なのかを考え何度も話し合われました。来ている子どもたちに聞くのが一番良いと言う結論になり、来ている子どもたちに聞いたところ、「礼拝の始まる時間が朝早すぎる」「説教が長くて難しい」「説教中にプロジェクターでイラストを写してほしい」「もっと遊んでほしい」などいろいろな意見を言ってくれました。

これらの内容を小会に相談し、9時半から行われていた教会学校が第二礼拝として正式な礼拝になり13時半からになりました。プロジェクターでイラストを写して説教がされるようになり、牧師の説教も20分から10分になりました。説教者は子どもたちから説教批評を受けます。「最近は大分分かりやすい話になって頑張っているよね」と子どもたちに言っていただけようになってきました。また、教会全体が児童伝道に本気になってくださり、卓球台、エアホッケー台、ビリヤード台、バトミントンセット、サンドバックを買っていただいたり献品がありました。また、青少年のために毎月1万円が教会から支給されてそこから食べ物や、レクリエーションなど青少年が喜ぶ事で自由に使用してよい事になりました。

第二礼拝の流れは週報通りのプログラムの礼拝をしその後、御言葉を暗唱してから分級に分かれます。分級後15時までCS教師たちと皆で遊びます（スポーツやカードゲーム）15時からおやつを食べて、解散です。でも17時まで教会を使用して怪我のないように遊んでよい事になっています。

分級

幼稚科、低学年、高学年、中高科、大人と別れて、子どもたちは聞いた説教を深めるためのワークをします。その後、近況報告、祈りの課題を出し合い、祈りあいます。教師は愛をもって子どもたちの声に耳を傾けます。また、子どもたちが実生活と御言葉が結びつくように教師たちが具体的な御言葉体験を証しします。

教師会

教師は5名、20代から40代の比較的若い教師会です。毎週礼拝が始まる前に集まって15分ほどミーティングと祈りの時を持ちます。子どもたち一人一人の魂の状態や、子どもたちが分級で御言葉を深められるように説教のポイントの確認をします。教師同士の祈祷課題を互いに祈りあい、聖霊の器として子どもたちに愛をもって関わられるよう祈りを一つにして礼拝にのぞみます。教師会は月に一度もたれます。教理、霊性、牧会の学びを続けています。教師たちが子どもの痛みに寄り添って子どもたちをありのままに受け止めることが出来るよう互いに訓練しています。分級、遊び、おやつの時間は祈り心をもって子どもたちが神の家族としてのリアリティを経験できるよう愛をもって心を配る時間として意識しています。このような学びと実践的訓練の中で教

師としての成長を目指しています。小学生の時にしっかりと関わりを持ち、難しいお年頃になったときにも、子どもたちに「教会の先生には話をしてみよう」と思ってもらえるような教師を目指しています。子どもへの洗礼準備などの学びなどもCS教師がします。

遊ぶ時間

コロナなのでなかなか外出が出来ないのですが、教会に畑があり、芋ほりをしました。普段はスポーツ（バトミントン、風船バレー、卓球、エアホッケー、サッカー）やカードゲームをします。人気なのは水風船バトルです。みんなびしょびしょになります。近所に安いかき氷屋さんがあつてみんなで食べに行ったり、3キロ散歩して駄菓子屋さんに行きます。費用は教会が出して下さいます。コロナが落ち着いたら但馬みくに伝道所（大屋、和田山）に行つて大自然の中キャンプをする予定です。

具体的な取り組み

集まっている子どもたちの中には夕ご飯を家族と一緒に食べる事が出来ない子どもたちがいます。そこで夕ご飯はディスタンスに気を付けて必要な子たちは温かなご飯を食べる事にしています。緊急事態の時はお弁当を買ってきてみんなで食べます。毎週手作りのご飯やお菓子を子どもたちのために作ってきてくださるご婦人たちもおられます。家庭内で寂しい思いをしている子どもたちが多い時代に、教会が神の家族として愛を体験できる温かな場所になれるよう教師たちとご婦人たちが心を配っています。

また、疲れた青少年たちがゴロゴロ教会で寝たりゆったりできる雰囲気大切にしています。このような青少年伝道が種まきで終わらずに信仰の仲間として長く関わり続けるにはどうしたらよいか模索中です。残念ながら部活などで中学や高校に入って教会に来れなくなった子たちもいます。そこで夕方からラインのビデオ電話で礼拝するようになりました。祈りと御言葉、教会の交わりから離れないようにこの取り組みが実を結べばと願っています。

また、教師たちは子どもたちの痛みに耳を傾けケアする事に集中しているので疲れることもあります。なので教師たちが集まってお互いを分かち合って励まし合い、教師たち自身がケアされる時を持つことも大切にしています。

第二礼拝にはよちよち歩きの赤ちゃんも来てくれます。じっとしてられなかったり騒ぐのは当たり前です。座っている小学生たちの回りをウロチョロします。はじめは小学生たちも気が散っていましたが、「お兄ちゃんお姉ちゃんが礼拝してる姿を見てこの子も礼拝できるようになるからね」というと元気のよいおしゃべり好きの子たちも背筋を伸ばして協力してくれるようになりました。

小さい赤ちゃんもお母さんも受け入れられている経験を礼拝でしていただけるよう願っています。子育て中で疲れているお母さんが礼拝できるよう赤ちゃんを教師たちが抱っこして礼拝に集中していただけるようにもチャレンジしています。

9月には園田教会の小野田良恵主事(KGK)をお呼びして結婚・恋愛・性について講演をしていただきました。青少年たちが聖書的世界観に生きられるよう今後も若い伝道者を招いて一緒に学んでいこうと願っています。

取り組みの中で見えてきたこと

子どもたちが集まりやすい時間に変更し、教師たちが子どもを愛し時間と労を注ぐ事で、契約の子どもたちが自信をもって友達を教会に連れて来てくれるようになりました。教師たちが学び訓練され続ける事で子どもたちが、定着し始めたと思います。先日近所の小学5年生の女の子が「私ね大人の中で一番信頼してるのは〇〇先生だからね」と20代の教師に恥ずかしそうに伝える姿を見て聖霊に用いられ子どもの心に届く教師の姿に心打たれました。

苦闘している事

部活や、様々な用事で教会に来づらくなっている子たちがいます。ラインビデオ電話等で礼拝も取り組んでいます。それでも魂をとらえきれない時があり無力さを感じています。また、教師の数が足りず教師たちの負担が多くなりやすいです。

祈りの課題

- ・CS教師の成長と教師をして下さる方がさらに与えられるように
- ・契約の子どもたちへの信仰継承と未信者家庭の子どもたちの救い

(神戸長田教会牧師)

第二礼拝プログラム

<p style="text-align: center;">たいにもいはい 第二礼拝</p> <p style="text-align: center;">2021年10月24日</p> <p>そりがく 神さまのまえに参りましょう まねきのごば しょうえい しとしんじょう さんび さあ、さんびしよう おいのり せいしよ Iサムエル16章7節</p> <p>おはなし 「選ばれたダビデ」 ごがわけいたせんせい</p> <p>さんびか わたしたちの、この日は りんきんかんしゃ しゅきさん しゅのいのり しょうえい しゅくふく</p> <p style="text-align: center;">◆ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ◆</p>	<p style="text-align: center;"><今宵結婚鐘声></p> <p>信仰は聞く事から始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。【ローマの信徒への手紙10章17節】</p> <p>十戒、七っかい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 神様はただ一人です。本当の神様だけを礼拝しない。 2) 木や石で神像を造って拝んではいけません。 3) 神様のお名前をふさげて使ってはいけません。(お祈りの時にふさげてはいけません) 4) 6日間働いて、7日目には休みがなさい。それは神様を礼拝するための特別な日だからです。 5) 両親を大切にしない。 6) 殺してはいけません。(戦争もけんかも) 7) 結婚している人は、いつまでも相手を大切にしない。 8) 盗んではいけません。 9) うそをついてはいけません。(うそをついてほかの人のせいにしてはいけません) 10) なんでも、ほかの人のものを欲しかってはいけません。 <p style="text-align: right;">たけなまのりょうかいせい いと あいはい 長田教会 第二礼拝</p>
--	--

第二礼拝ワーク

第2礼拝 「選ばれたダビデ」ワーク
1サムエル16章7節

- ①ダビデの名前ほどのような意味でしたか?
- ②神様は神様の心で見るとはどんな心で見えますか?
- ③私たちは何のために選ばれているのですか?
- ④今日のお話を聞いて神様はどのような方だと思いましたか?
- ⑤今日のお話を聞いて神様への祈りの言葉を書いてみてください。

礼拝



遊びの時間



遊びの時間 2



分級



分級2



KGK 小野田よしえ主事を招いた集会

ライン電話礼拝



教会学校教案誌創刊から休刊への道のり(上)

相馬伸郎

一年余前から休刊を予告してまいりました。ついに、本号をもって「休刊」いたします。

この信仰の事業は2001年4月の創刊より2022年4月の第84号まで、実に21年もの間、季刊発行を継続することが許されました。志を与えて実現させ、この期間を導いて下さいました教会の頭なる主イエス・キリストの御名を心から賛美いたします。また、購読し、用いて下さいました諸教会、伝道所の皆様にも心からの御礼と感謝を申し上げます。また、ご多用の中、心を込めて原稿をお寄せくださいました教師方、教会学校奉仕者の皆様には、心からの御礼を申し上げます。ほんとうに、本当にありがとうございます。

同時に、休刊に至った責任を深く覚えております。力不足でした。予告をしてのこととは言え、現場の皆様には大変なご迷惑をおかけすることを申し訳なく思います。ここからお詫び申し上げます。むしろ、この気持ちの方がはるかに強いものがあります。

一方で、確かに、紙媒体としての教会学校教案誌は「休刊」いたします。しかし、いつの日か再び、新しい世代によって復刊されますように願っています。その可能性は少なくないと考えています。その意味で「廃刊」とはしないことと致しております。

休刊としたもう一つの意味は、インター

ネット上で、これまでの21年間の膨大な教案やカリキュラムなどをアップする予定だからです。ひと昔前は、紙媒体でなければ利用できない、困難であるという強い前提がありました。しかしこの間、これはむしろ逆転しつつある状況が広がっています。同時に、一冊900円という教会への経済的負担も軽減されます。

(※今号にて、あらためて教会学校教案誌への募金を呼び掛けています。コロナ禍と休刊予告の中で募金は激減し、実は、最終号発行で赤字転落の危機にあります。)

ネットだからこそその聖書箇所やカテキズム箇所、執筆者などの検索可能なシステムとなって利便性が向上するはずです。加えて、これまでの「連載」等の学びのための文章も可能な限りアップして行く予定です。つまり、この働きが完全に途切れてしまうわけではありません。

ただし、今後はまさにそれぞれの教師会で、また個人で、これまで以上に創意工夫し、時間を捧げて、教会学校のために、子どもの教会の諸準備のために積極的にお使い下さいますようにと切にお願い致します。「休刊」は、紙媒体の制約を乗り越え、現代のニーズに即応しうる新しい体制となって再出発するとの思いもあります。実は、21年の歩みの早い段階でこれまでの全コンテンツをCDに焼いて用いることを進言して下さった教師もいらっしゃいます。しかし、創刊の志の中で、この「運動」

は定期刊行物として発行し続けることで、諸教会伝道所の子ども伝道、子どもの教会の働きに火を灯し続ける意図があることを表明していました。実際、これを楽しみに、頼りにしてくださる教会が少なくなかったからです。その意味で、もっとも危惧することは、現代の私どもの状況です。子どもたちが集っていないのです。20年前、教会の子ども伝道や契約のへの改革派信仰にもとづく教育に対する危機感に迫られてこの冒険に乗り出したのです。教育の内実においては一定の評価を頂けるものと自負致します。しかし、子どもたちが集っていない現実を前にあの時以上に厳しい思いを禁じえません。どうぞ今こそ、この状況を前に希望を失わず、むしろポジティブな新しい展開を皆様と共に祈り求めてまいりたいと切に願います。

思えば、私どものこの事業は、正しくユニークなものでした。「志だけ」で出発したという点です。ただ信仰の志のみで立ち上げられ、出発したのでした。

創刊号はなんと中部中会の定期会の議場で議案の資料として配布されたのでした。侃々諤々の議論の中、かろうじて多数可決され、40万円の予算をつけていただき船出したのです。常識的には、少なくとも一年前には委員会報告あるいは提案するものだろうと思います。

そもそも私自身、中部中会に加入してなお日も浅く中会教育委員会に加わったばかりの身でした。何故、日本キリスト改革派教会のように教育的伝道によって教会形成を進める教会に、定期刊行物としての教案誌がないのか、不思議に思っていました。教派教会を起すなら自分たちの教師の養

成機関たる神学校は必須です。それと同列にはいかないものの、例えば日本キリスト教会がそうであったように、やはり教会教育を教派として推進するなら定期刊行物としての教案誌の必要性は常識だろうと考えていました。

大会は1956年に「教育観確立委員会」を設置し1961年に廃止しました。この委員会の任務の一つは「将来、改革派信仰の立場よるカリキュラムを作成する」ことでした。その意味では、実は、教会学校教案誌や大会独自の教育カリキュラムの作成は宿願であったわけです。ただし私はその時に、これらを知らないままに、ある日の中部中会教育委員会の協議の中で「委員会で、季刊の日曜学校教案誌を発行すべきではないか」と提案したのです。委員会はこれを受け入れ、「検討するように」と一任していただきました。おそらく当時の委員の誰もがそれができるとは夢にも思っていなかったと思います。ところが、半年後、創刊号の見本を委員会に提示することとなったのです。こうして、上記のような中部中会教育委員会は、通常なされて来た「根回し」一切なしに提案したのです。こうして、教育委員会の監督のもと「日曜学校教案誌【編集部】」を私ども有志で新たに組織し、実務の一切を担うというあり方で出発したのです。

編集部の教師メンバーは、教育委員からは、言わば監督者として小生ひとり。そして木下裕也教師、望月信教師、春名義行教師という4名の教師体制で担われました。しばらくの間は、交通費すら自腹であったと記憶します。そもそも、もし中会から予算がおりなくても2年間のカリキュラムを終了するまでは出版費用等も自分たちで

担って担いましょうと言う覚悟をもって出発したのです。正に有志立です。逆から言えば、どれほど日本キリスト改革派教會的な企てではなかったということだろうと思います。薄給の教師たちがどうしてこのような乱暴な冒険に挑めたのでしょうか。

この企ては、とある集会の帰り道、木下教師を名古屋の駅前の小さな喫茶店に誘ったことに端を発します。テーブルの上に資料を置きながら教案誌発行の夢とその見通しについて語りました。もし、先生と一緒にやりましょうと応答されなければ、教会学校教案誌はまさに夢に終わったはずです。ところが、深く共鳴してくださったのです。俄然、勇気が湧きました。その後、ただちに教師に任職されたばかりの望月教師に声をかけました。現実推進する能力、賜物を持つ器として白羽の矢を当てたのです。なんと、即応してくださいました。そればかりか、さらに同じく任職されたばかりの春名教師をも誘い込んでくださいました。こうして教師の陣容を確立し、さらに四日市の伊藤治郎長老、豊明の山口英俊長老にもお声を掛けさせていただき、側面からお支え頂きました。

その後、ただちに望月教師とは、カテキズムカリキュラム作成のための土台となる「子どもカテキズム」を急ピッチで整えたのでした。

このように、改革派に加入したばかりの小生、なお若い木下教師、教師になりたての有志の教師方が呼び集められたのです。四人とも伝道所の宣教教師でした。傍から見れば、いかにも危うい体制であったかと思えます。一方で、上記のお二人はその後、神戸改革派神学校で教鞭をとられるようになったわけでその資質、実力は最初から

折り紙つきだったのだと思います。しかしそれでも本来、最低一人は専心する有給奉仕者が必要な大事業であることを思わないわけではありませんでした。

誤解を恐れずに言えば、伝道所の教師は、決して時間に余裕があるわけではありません。むしろ、奉仕の量は牧師に勝るとも劣らない状況にあります。教師の本務は、自らが仕える教会の形成、伝道牧会にあることは言うまでもありません。もし、中・大会の働きにその力や時間を奪われ、牧会伝道に支障を来たらせてしまえば本末転倒です。しかし、実に、それぞれが続々と教会設立を果たして行かれました。最後には、わたし自身も自給開拓伝道から19年目にして設立に導かれたのです。

前述のように、2年間のカテキズムカリキュラムまでは石にかじりついて継続しようとの思いでおりました。創刊の一年は、たとえば説教はほぼすべてわたしが担当しています。他のメンバーも編集作業をしながらそれぞれに膨大な量の執筆を一手に担っていました。痛々しいほどの責任感で推進していたのだと思います。

こうして3年後の救済史カリキュラムによる教案誌の発行を終える頃には、軌道に乗せることができるようになってきました。さらに、中部中会の教師方にも声掛けをして編集部に加わってくださるようになりました。何と言っても辻幸宏教師が加わって望月教師の実務の片翼を担って下さったことで安定的な体制となりました。

季刊発行のためにどれほどの精神的エネルギー（ストレス）と膨大な時間が捧げられたことでしょうか。私自身も徹夜や半徹夜は数えきれません。代理原稿に向き合ったことも一度や二度ではありませんでした

(若さの特権です)。いつでもどこでもメールチェックを気にして生きていたように思えます。すべては主がご存じでいて下さいます。

創刊10周年を前にしたとき、これまでの歩みを検証しなければならないとの強い問題意識がありました。ところが結局、毎回の発行作業以上の時間をとる余裕がなく、そのチャンスを逸してしまいました。つまり、軌道に乗ったと記しながら、実際には、みんなが「ギリギリ」の教会奉仕の状況のなかで、まさに犠牲的な奉仕なしに担うことができなかつた一例だと思えます。思えば、もしあの時、丁寧に検証し、それにもとづく改善がなされたら休刊に至らなかつたかもしれない、そのような思いもあります。

(※10周年の簡単な振り返りは第41号巻頭言参照)

第56号巻頭言には、中部中会から大会への移管についていささか興奮気味に記されています。

「遂に、私ども「教会学校教案誌・編集部」にとって歴史的な日を迎えました。2014年10月15日、大阪YMCAで開催された第69回定期大会で、弊誌を大会教育委員会に移管する提案が圧倒的多数で可決されました。編集部を代表して、これまで購読してくださっている諸教会・伝道所の教師の皆さま、また執筆のご奉仕を捧げて下さいました皆さま、物心両面に渡ってご支援くだ

さいました皆さまに心からの御礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました。同志の皆さまと共に心から喜びたいと思います。～万感胸に迫るものがありました」

そもそも、私どもの事業は、大会教育委員会によってこそなされるべきであるとの思いがありました。その計画がまったくないという事実を確認したからこそ中部中会で始める以外にないと覚悟を定めたのでした。忘れてならないのは、大会教育委員会は2002年に「日曜学校教案誌を教育委員会が発行することの提案」を提案したことがあります。中部中会の「日曜学校教案誌」(当時の誌名)を大会教育委員会として発行したいというものでした。しかし、議場から、さまざまな厳しい批判が出されました。「唐突に過ぎる」「経済他の準備があるのか」何よりも「中部中会の働きを言わば横取りするような安易な仕方ではないか」というような疑義が提起されたのです。こうして継続審議となりました。結果、翌年には謝罪しつつ取り下げの提案をするという事態となりました。

この年、大会教育委員会は三川栄二委員以外全員が交代され、小生も委員の末席を汚して今日に至ったのでした。しかしその後大会教育委員会は、中部中会の教会学校教案誌を教案として「推薦する」というスタンスを取るだけで精一杯の状況が続きました。(続きは、22年4月のネット上で)

Soli Deo Gloria !

(大会教育委員会委員長)

(高松教会牧師・大会教育委員会委員)

聖書默想・説教展開例・分級展開例

1月2日 サムエル記上3章1～18節(カテキズム問85)

【解説と黙想】

神の子らしい祈り

問85は祈りの定義が問われる。信仰生活とは神の御前に生きることであり、神の御前に生きることが何よりも表されるのが祈りである。祈りなしの信仰生活は成り立たない。

祈りは御言葉と礼典と共に恵みの手段に数えられる(問48)。祈りは神のためになされるものではなく、私たちに恵みをもたらす手段である。客観的に見れば自分たちの言葉を届けるという側面が強いが、祈りを通して神からの恵みが届けられる。

・祈りの対象

祈りにおいて、まず私たちは誰に向かって祈っているのかをいつも心得ておかなければならない。カテキズムは「まことの神さま」と述べる。それは世界を造り、私たちに造り、今も生きて支配しておられる方である。私たちの祈りはこの方へ向かう。

・「心を向ける」

祈りは神に「私たちの心に向け」ることから始まる。機械的に言葉を発することが祈りなのではない。言葉を発してはいても私たちは別の思いが心に浮かぶ。ご飯のこと、不安なこと、なんでもないことが次々と湧き出る。祈りは確かに、誰にでも与えられている恵みではあるが、特に心を向けることにおいては修練が必要であると言える。

・「神さまとの交わり」「神さまのお話し」

『子どもと親のカテキズム』では、祈りが「神さまとの交わり」、「神さまのお話し」

し」であることを記す(ウ小教理にはない表現)。人間は神のかたちに似せて造られた。人間は神に向き合う特別な存在である。しかし、罪がこの関係を決定的に歪めてしまった。イエス・キリストはこの関係を回復してくださる。私たちは主イエスの名において、祈りの交わりが与えられる(問86)。そして神は、私たちとの祈りにおける交わりを喜んでくださる。祈りは「交わり」「お話し」であるので、私たちが一方的に話すことではない。神が祈りの言葉を与え、祈りの中で私たちは神と「交わり」「お話し」をする。

・聖書テキスト

預言者サムエルの歩みの最初の出来事が記されている。「お話しください。僕は聞いております」というサムエルの言葉(10節)は、私たちが做すべき祈りの姿勢である。「神さまとの交わり」「神さまのお話し」「心を向ける」というカテキズムのキーワードとの繋がりを見出せる。

・説教へ

一年の最初に祈りの意義を学ぶことは非常に有益である。カテキズムはこの後、主の祈りを一つ一つ取り扱うが、そもそも祈りとは何なのか、何のために祈るのかという前提となる事柄をしっかりと学びたい。「しずけき祈りの時はいとたのし(讃美歌310)」という歌詞に思いを重ねることができるよう、祈りの恵みを語りたい。

(大宮季三)

《教理問答》 ウエストミンスター小教理問答問9

1月2日 サムエル記上3章1～18節

【説教展開例】

神の子らしい祈り

◇..... 単元のねらい◇

カテキズムに基づいて、祈りとは何であるかを理解する。

「祈りって何」

序

今日は2022年の最初の教会学校ですね。今年も教会学校と一緒に神さまを礼拝しましょう。

「一年の計は元旦にあり」という言葉があります。この言葉は一年の最初に考えることがとても大切だということ意味しています。今日、一年の最初の教会学校で何を聞くか、とても大きな意味があります。今日のカテキズム問85と一緒に読んでみましょう。

問85 それでは、祈りとは何ですか。

答 祈りとは、まことの神さまに私たちの心を向け、神さまとの交わりの中で神さまとお話することです。

2022年最初の日曜日である今日は「祈りとは何か」を一緒に考えましょう。

さて、私たちが神さまを信じて生きていく時に、神さまがどのように恵みを与えてくださるか覚えていますか？御言葉と礼典(洗礼、聖餐式)と共に、神さまは祈ることを通して恵みを与えてくださいます。私たちがお祈りするのは、神さまのためではありません。私たちのために祈りするんですね。

聖書箇所

先ほど、サムエル記上の3章を読みました。サムエルはイスラエルの王さま、サウルやダビデに油を注ぐというとても大きな働きを神さまに与えられた人です。そのサムエルの少年時代のことが書かれています。神殿で寝ていたサムエルに、神さまが語りかけられる場面です。サムエルは、聞こえてくる声が神さまの声だということが最初はわからなかったんですが、エリという祭司に「その声は神さまからの声だよ」と教えられました。そして、サムエルは次に声が聞こえた時に、エリに教えられた通り神さまの声に対して「どうぞお話しください。僕は聞いております」と言うことができました。

サムエルのこの姿勢は、今日私たちが学んでいる祈りについて、とても大事なことを教えてくれます。

「心进行ける」こと

サムエルは「どうぞお話しください。僕は聞いております」と言いました。サムエルの心は神さまに向かっていた。

「祈りとはまことの神さまに心进行ける」ことです。皆さんは、自分一人でもお祈りすることができるようだったり、みんなの前や家族の前でもお祈りすることができるようになり、お祈りすることに少しず

つ慣れてきていると思います。主の祈りを覚えたり、ご飯の時のお祈りや献金の時のお祈りも「難しくない!」「自分でできる!」と思うようになってきたと思います。それはとても素晴らしいことです。

でも、お祈りの言葉がスラスラ出てくることよりも大事なことは、心が神さまに向いているかどうかということです。これを忘れてはいけません。お祈りをする時、いろんなことを考えてしまうことがあります。学校のことや、この後のご飯のこと、昨日見たテレビのことや友だちのこと、ゲームのこと、自分の中で考えているいろんなことで頭がいっぱいになって、神さまに心を向けることがなかなかできないときがあります。「自分の心が神さまに向いている」ことがお祈りにおいて欠かせないことなんですね。神さまに心を向けることからお祈りは始まります。

「交わり」「お話し」

サムエルはここで、直接神さまの声を聞きました。でも私たちは、今皆さんが先生の声を聞くようには神さまの声をこの耳で直接聞くことはできませんね。お祈りでは、実際に自分たちの声は出しますが、神さまの声を聞くという感覚はあんまりないかもしれません。ですが、私たちがお祈りをするということは、神さまが先にお祈りができるように聖霊の働きを与えてくださっているということです。神さまに向かって言葉を発しながら神さまの言葉を聞くんですね。

人間は、「神のかたち」に似せて造られたということを少し前に学びましたね。「神のかたち」に似せて造られた人間は、神さ

まに向かって、神さまとの交わりが与えられている特別な存在です。それがお祈りにおいて実現しているんですね。

そしてお祈りは、「神さまのお話し」と書かれています。私たちはお話をすることによって相手のことがよくわかるようになります。お話しをしないことにはなかなか相手のことがわかりません。同じように、神さまとの関係はお祈りによって深められていくんですね。

「まことの神さま」

さて、最後に当たり前のことを確認しておきましょう。それは、お祈りは一体誰に対してしているのかということです。そうです。「神さま」に向かって私たちはお祈りするんですね。カテキズムでは「まことの神さま」と書かれていましたね。本物の神さまに向かって私たちはお祈りしているんですね。

お祈りの最初に私たちは「天の神さま」とか「天の父よ」と呼びかけますが、その時、私たちが祈っている方は「世界を造り私たちが造り、今も生きておられ、今も世界を支配しておられる神さま」なんですね。私たちは祈りにおいていつでも「まことの神さま」と「交わり」「お話し」することができるんですね。

2022年、神さまとの関係がお祈りにおいて深められるよう神さまに期待をしましょう。

神さまは、祈りを通して皆さんと交わり、お話しすることを喜んでくださるお方です。(大宮季三)

《今週の暗唱聖句》

主は来てそこに立たれ、これまでと同じように、サムエルを呼ばれた。「サムエルよ」サムエルは答えた。「どうぞお話しください。僕は聞いております」

(サムエル記上3章10節)

1月2日 サムエル記上3章1～18節

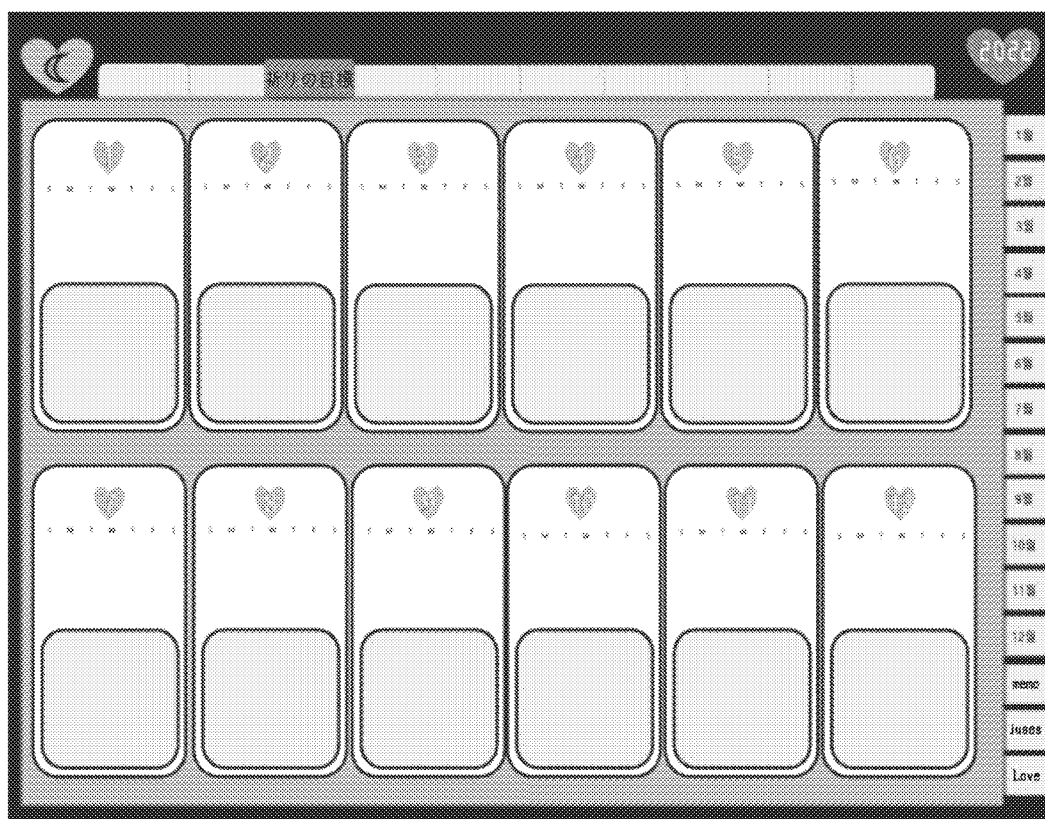
【分級展開例A】

神の子らしい祈り

【話のポイント】

少年であったサムエルは、まだ神さまと会話をする方法を知らなかった。神さまの声を知らず、3回も祭司エリの声だと勘違いしていた。しかし、少年サムエルが信じている神さまが自分と話しかけられているということを知った後、サムエルは心を尽くして神さまの声に耳を傾けた。神さまの一つ一つの言葉をしっかりと心に受け止めた。まだ、幼い僕たち私たちも、神さまと会話していくことが難しいと思う。しかし、神さまは優しい方なので、神さまに話しかけ、神さまの答えを聞く練習をしてみる1年になってほしいと願う。

以下の2022年度のカレンダーを使って、毎月の祈りの目標（神さまと話したい主題）を決めて、自分の言葉で書いてみよう。全部書いたカレンダーを一番よく見える場所に貼って毎日祈ってみよう。



1月2日 サムエル記上3章1～18節

【分級展開例B】

神の子らしい祈り

「ハンナ」という女の人を知っていますか？ なかなか赤ちゃんが与えられなくて、泣きながら祈った人です。神さまはハンナの祈りに答えて、男の子を与えてくださいました。ハンナは嬉しくて、その子に「サムエル（その名は神）」という名前をつけて、神さまに心から感謝しました。そして、「この子が与えられたのは、神さまの恵みです。どうぞサムエルが、神さまの御用のために働く人になりますように」と願って、神さまにおさげしたのです。こうしてサムエルは、祭司エリに預けられ、神さまにお仕えしていました。

ある夜のこと、サムエルが寝ていると、
「サムエルよ」

と呼ぶ声がしました。サムエルは、エリに呼ばれたのだと思って、
「ここにいます」

と答えて、エリのもとに走って行きました。でも、エリは、こう言ったのです。
「わたしは呼んでいない。戻っておやすみ」

ところが、またサムエルは名前を呼ばれて、エリのもとに行きました。同じことが三回繰り返されました。そして、エリは、サムエルを呼んでいるのが、神さまだと分かったのです。

「もしまた呼ばれたら、『主よ、お話しください。僕は聞いております』と言いなさい」

サムエルは、戻りました。すると、また同じように呼ばれました。
「サムエルよ」

「どうぞお話しください。しもべは聞いております」

こうしてサムエルは、神さまの御言葉を聞き、答え、皆に伝える人に成長していったのです。

皆も、聖書のお話を聞いていて、「あれ？ これ、ボクのことだ」、「あれ？ どうして先生は、わたしのことを知っているのかな？」と思ったことはありませんか。それは、聖書の御言葉を通して、神さまがあなたに語りかけてくださっているのです。そんな風を感じた時には、素直に神さまにお答えしてくださいね。

嬉しい時には喜びを、感謝したい時には「ありがとう」を、謝りたい時には、「ごめんなさい」を、思った通りのことを言葉にして、神さまに祈りましょう。神さまは必ず聞いてくださいます。そして、あなたをお導きくださいます。神さまは、生きておられる本当の神さまです。

1月2日 サムエル記上3章1～18節

【分級展開例C】

神の子らしい祈り

祈りについて先回問84で、その規準が主の祈りであることが示されました。問89からは主の祈りの各祈祷箇条の解説になります。

問85はキリスト教の祈りとは何であるかという定義です。ちなみに問86は人間の罪との関係で「子とされる」ということについて、問87は、他の宗教の祈りとの比較で、キリスト教の祈りの特徴である「御心」との関係について触れています。それぞれ関連深いことですので、整理して伝えるようにしましょう。

聖書に書かれていることと明らかに異なる考え以外は、無理に正すのではなく、「わたしは（先生は）こう思うけどね」と話し合うように心がけましょう。

あなたは、キリスト教のお祈りについて、どんなお祈りを知っていますか。また、実際にやっていますか。

礼拝の中にはどんな祈りがあるでしょう。礼拝以外ではどんな祈りをしますか。

考えてみましょう

- ・ どうして、私たちの心の中まで全てご存知のはずの神さまに、わざわざ祈るのだと思いますか。
- ・ 「良い祈り」とはどんな祈りだと思いますか。
- ・ 祈る時に、どんなことに注意するべきだと思いますか。

1月2日 サムエル記上3章1～18節

【分級展開例D】

イスラエルを取り巻く偶像世界

主なる神に選ばれたイスラエルの民は、周辺の諸民族に取り囲まれて、様々な偶像に触れることになりました。イスラエルは唯一の神、主と契約を結んで、真の神だけを礼拝するように求められましたが、異国の神々に誘惑されて偶像崇拜の罪を犯しました。今でも世界にもこの日本にも偶像は満ちていますが、旧約聖書の時代にイスラエルの人々が直面した偽りの神々のことを思い出しておきましょう。右と左を線で結んでみましょう。

〈 民族 〉	〈 偶像 〉
・ アンモン	・ アシェラ
・ カナン	・ アシュトレト
・ フェニキア (シドン)	・ ケモシュ
・ ペリシテ	・ ダゴン
・ バビロン	・ バアル
	・ マルドウク

エジプトの神々も有名ですが、ここでは聖書に出てくるものだけを選んでいきます。今日ではこうした偶像が考古学で発掘されている場合があります。インターネットで検索すると画像が出てきますので、見て確認しておきましょう。

1月9日 ルカによる福音書11章1～13節（カテキズム問86）【解説と黙想】

祈りに生きる道・神との会話

・教理の解説

問86 私たちは罪人なのに、神さまと交わり、神さまとお話しすることができるのですか。

答 はい、できます。私たちは、イエスさまによって罪を赦され、神さまの子どもとされ、神さまと交わり、お話しできるようにされています。ですから、私たちはイエスさまのお名前によって、子どもらしく素直になんでもお祈りします。

以下は、日本キリスト改革派教会大会教育委員会著「神さまと共に歩む道『子どもと親のカテキズム』解説」229～231頁をもとにまとめたものです。

・人は神さまの前に立てない

人間は、神さまとの交わりに生きる者として創造され、豊かな交わりの中に置かれていました。しかし、アダムが罪を犯した結果、すべての人間は罪人となり、神さまとの関係が壊れてしまいました。それ以来、人間は神さまとお話しすることができなくなりました。

・祈りは神さまからの恵み

この神さまとの断絶の責任はすべて人間の側にあり、神さまには何の責任もありません。しかし、神さまは、私たちが慈しんでくださり、私たちが神さまとの交わりに生きることができるようにしてくださいました。旧約時代には、預言者、祭司、天使などを用いて私たちに語りかけてくださ

り、最終的にはイエスさまを、贖い主、救い主としてこの地上に遣わしてくださいました。イエスさまが私たちの罪の償いのためにご自分のお命を十字架でささげてくださいましたので、私たちは罪を贖われ、神さまに大胆に近づくことができるようにされました。さらに、復活のキリストは天に昇り、今もなお生きて、天で私たちのために執り成してくださいました。このキリストの働きによって、私たちは罪ある存在であるにも拘わらず、神さまに近づくことが許されているのです。それゆえ、私たちは祈るたびに、祈ることを可能にしてくださいましたイエスさまによる贖いを思い出し、感謝の思いを新たにしつつ、「イエス・キリストの御名によってお祈りします」と言います。これは、単なる決まり文句ではありません。祈りは、キリストの名によってはじめて実現するのです。

・子としていただいた者の祈り

イエスさまは、ルカによる福音書11章11～13節で、私たちの祈りに応えられる神の心を自分の子どもに対する人間の父親の心にたとえて教えておられます。欠けある人間の父親であっても、自分の子どもに悪い物を与えることはしません。まして天の父は、求めて祈る者に良い物をくださいます。だから私たちは、父なる神に絶対的信頼を置いてお祈りすることができるのです。神さまとの関係において、私たちが愛されている子であることを最も鮮やかに知ることができるのが、祈りなのです。（小澤寿輔）

《参照聖句》 ルカによる福音書11章13節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問98、ハイデルベルク信仰問答116、117

1月9日 ルカによる福音書11章1～13節

【説教展開例】

祈りに生きる道・神との会話

◇..... 単元のねらい◇

私たちは、創造者であり全能者である神さまによってすべてを支えられています。また、私たちを執り成してくださるイエスさまが神の御子であるので、私たちも神の子どもとされています。そのような私たちは純粋に神さまの愛と善意に信頼を置いて、自分のすべてを神さまに委ねて良いのです。子どもが父の愛を絶対的に信頼するように、自分の願いに父なる神が必ず応えてくださることを確信し、自分のすべてを父なる神に委ねてお祈りして良いことを、子どもたちに伝えてあげましょう。

「父に対する信頼をもってすべてをゆだねて祈る」

導入

おはようございます。皆さんは、お祈りをしたことがありますね。では、「お祈り」って何でしょう。何をすることを「お祈り」というのでしょうか。そうです、神さまとお話しをすることを「お祈り」というのですね。それを聞いて、「え？神さまとお話しができるの？」と思ったお友だちがいるかもしれませんね。はい、ぼくたち私たちは、神さまとお話しをすることができます。

前によって、子どもらしく素直になんでもお祈りします。

今日のカテキズムからのお話し

では、まず子どもと親のカテキズムの問86と一緒に読んでみましょう。

問86 私たちは罪人なのに、神さまと交わり、神さまとお話しすることができますのですか。

答 はい、できます。私たちは、イエスさまによって罪を赦され、神さまの子どもとされ、神さまと交わり、お話しできるようにされています。ですから、私たちはイエスさまのお名

人間は、天地創造のとき、神さまとお話し（お交わり）ができるようように造られました。ちょうどぼくたち私たちがお父さんやお母さんとお話しをするのと同じように、神さまと豊かな会話を楽しんでいました。ところが、アダムが神さまに対して罪を犯してしまいました。すると、すべての人間に罪が入ってしまい、神さまとの関係が壊れてしまいました。それからは、人間は神さまとお話しすることができなくなってしまいました。これは、人間のせいです。けれども、神さまは、それでもぼくたち私たちが愛して、神さまとお話しができるようにしてくださいました。どのようにって？まず、神さまとの交わりを壊してしまった「罪」をどうにかしなければなりません。それで、父なる神さまが、御子イエスさまを救い主としてこの地上に送ってくださいました。そして、イエスさまがぼくたち私たちの罪の償いとして十字架にか

かって命をささげてくださったので、私たちは罪を赦されて、神さまに近づくことができるようにされました。それだけではありません。イエスさまは十字架に死なれた後、よみがえられて天に昇り、今は天の父なる神さまの右におられます。そして、ぼくたち私たちが神さまに祈るとき、そのお祈りをイエスさまが「お父さん、どうぞ〇〇ちゃんのお祈りを聞いてあげてください」と言って執り成してくださいませ。それで、ぼくたち私たちが、お祈りするときに、いつも「イエスさまのお名前によってお祈りします」と言うのだね。

今日の御言葉からのお話し

ところで、皆さんは、どんなことを神さまにお祈りしていますか。ある人は健康のためにお祈りするかもしれません。ある人は、家族の幸せを、またある人は、何か問題があるときに解決をお祈りするかもしれません。お祈りしたいことはたくさんありますね。でも、ぼくたち私たちがお祈りを、神さまは聞いてくださるのでしょうか。ときには、何度もお祈りするのに全く何も変わらなくて、「聞かれていないんじゃないの？」と思うことがあるかもしれません。

イエスさまは、先ほど一緒に読んだルカによる福音書11章で、一つのたとえをお話しされました。夜遅く、ある人の家に急にお客さんが来ました。自分の家にはお客さんをもてなすためのパンがないので、お友だちの家の戸をたたいて、「パンを三つ貸してください」とお願いします。でも、そんなことを言われても、お友だちは困ります。小さな部屋に家族全員が寝ています。暗い中で、ぎっしり寝ている子どもたちが目を覚まさないように気を付けながら起き

て、パンを探して、戸を開けるのは大変なことです。それで、お友だちは家の中から「面倒をかけないでください」と言って断ります。ところがイエスさまは言われます。「根気よく頼めば、その友だちは起きて必要なものをくれるでしょう」と。

このたとえ話から、イエスさまは、ぼくたち私たちが祈るときに、どうしたらいいかを教えてくださっています。それは、根気よくお願いすると、神さまは恵みをくださるということです。

ぼくたち私たちがお祈りをするときに、まるで神さまが寝ておられるのかと思うほど、祈りの答えをいただけなくて、むなしさを覚えるときがあるかもしれません。しかし、お祈りには根気と熱心さが必要なのですね。何度祈っても全然答えが与えられないという絶望のときにも、なおあきらめずに神さまにお願いするのだね。

もう一つ大切なことを、イエスさまは教えてくださっています。11節から13節で、「あなたがたの中に、魚を欲しがらる子どもに、魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。また、卵を欲しがらるのに、さそりを与える父親がいるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子どもには良い物を与えることを知っている（11：11～13）」と言われます。

皆のお父さんは、「魚が欲しい」と言うのに、魚の代わりに蛇をくれる、なんてことはありませんよね。良いものを欲しがったら、悪いものをくれるなんてことは決してありませんよね。人間のお父さんでも、自分の愛する子どもに悪い物を与えることはしません。まして、天の父なる神さまは、求める人に必ず良い物を与えてくださいます。神さまは、ぼくたち私たちのことを、

心の底から愛してくださっています。そして、ぼくたち私たちに一番必要な物が何なのか、よーくご存じです。だからぼくたち私たちは、神さまに信頼してお祈りすることができるのですね。

お祈り

天の父なる神さま、今日は、イエスさまから二つのことを教えていただきました。一つは、お祈りするときには根気と熱心さが必要だということ、もう一つは、人間のお父さんが子どもに悪い物ではなくて良い物をくれるのと同じように、神さまも、ぼ

くたち私たちを愛してくださり、願いに必ず応えてくださることです。それも、私たちにとって一番良いものを与えてくださるので、ぼくたち私たちは、神さまに信頼して自分のすべてを委ねてお祈りして良いことも学びました。感謝します。ぼくたち私たちが、神さまに愛されていることを感謝して、神さまとのお話を毎日楽しむ子どもとして成長することができるようにしてください。このお祈りをイエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

(小澤寿輔)

《今週の暗唱聖句》

このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子どもには良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。

(ルカによる福音書11章13節)

1月9日 ルカによる福音書11章1～13節

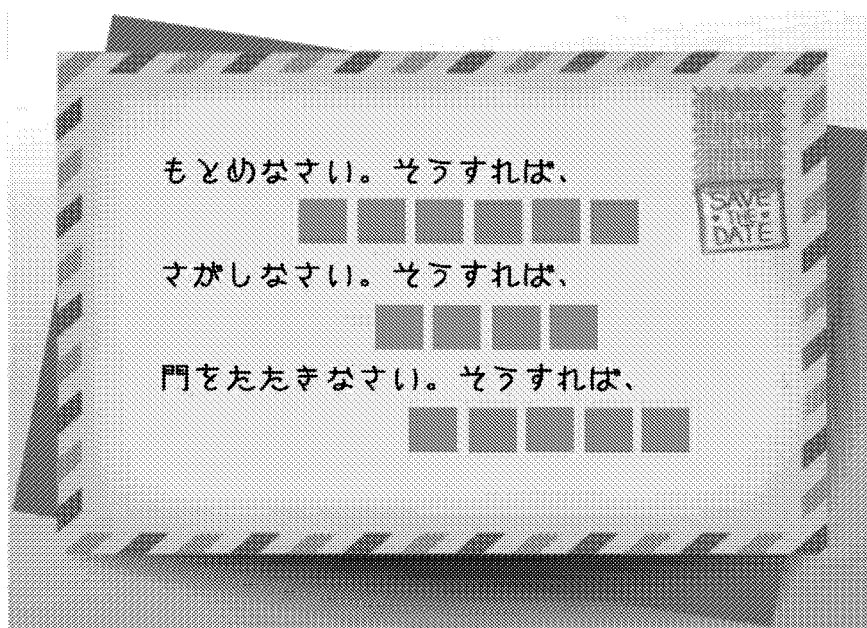
【分級展開例A】

祈りに生きる道・神との会話

私たちは神さまに祈ることが難しいと思うときが多い。しかし、祈りはとても単純なものである。祈りというのは、お父さんである神さまと子どもである私たちが話し合うことである。子どもである私たちはたまに大人のお父さんの言葉を理解できないときもあるが、分からないときは子どもの特権としていつでも聞くことができる。

私たちのお父さんである神さまはいつでも私たちの声が聞きたいお方である。そして、子どもである私たちの願いを聞いてあげたいと思われる方である。そのお父さんである神さまに私たちがすべきことは、願うことを何度も話し合っていくこと、祈っていくことである。祈りは自分のお父さんと話し合っていくように、話し合うことである。一方的な話しかけではなく、共に話し合う会話である。何度も何度も話し合っていく子どもの心を主はちゃんと知り、子どもの願いに反応するようになる。お父さんと話をしない子どもはいくらお父さんであっても親しくなることはできない。それは、天の神さまとも同じである。神さまと話（祈り）をたくさんする子どもがお父さんである神さまと親しくなることができるのだ。神さまと親しく話し合っていく子どもの願うことを、神さまは答えようとされる。それがまさに祈りである。

* 神さまに送る手紙の内容を完成してみよう（ルカ11：9）。



1月9日 ルカによる福音書11章1～13節

【分級展開例B】

祈りに生きる道・神との会話

ある真夜中のことです。トントン、トントン。家の扉を叩く音がしました。そして、こう言うのです。

「パンを三つ、貸してください。旅行中の友だちが、うちに寄ったのですが、何も出すものがないのです」

それは、友だちの声でした。でも、真夜中です。起きて出て行くのも面倒な時間です。「もう戸は閉めたし、子どもたちはわたしのそばで寝ています。起きてあなたに何かをあげるわけにはいきません」

と答えました。

トントン、トントン。

「お願いします。パン三つで良いのです。どうか貸してください」

「もう真夜中だ。明日、また来てください」

トントン、トントン。

「お願いします。どうかパンを三つだけ」

トントン、トントン。

とうとう、寝ていた人は起き上がり、パン三つと、その人が必要な物を全部、持たせてあげたのでした。

イエスさまは言われました。

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」

「魚を食べたいです」という子に、蛇を与え、「卵を食べたいです」という子に、サソリを与えるお父さんはいませんね。私たちの神さまは、優しい天の父なる神さまなのです。かならず、私たちに一番良いものを与えてくださるのです。父なる神さまに信頼して、祈りましょう。

1月9日 ルカによる福音書11章1～13節

【分級展開例C】

祈りに生きる道・神との会話

祈りは、私たちと神さまが個別に最も密接に向き合う行為です。当たり前のように思いがちな祈りについて、祈ることができること自体、神さまの恵みに基づくものであることを感じられると良いでしょう。

私たちは罪人です。私たちが罪人であることが私たちと神さまの関係にどのような影響を与えるか、以下の聖書箇所などを確認できます。

創世記3：8～10、3：23～24（罪の結果による神への恐怖と追放）

出エジプト記19：10～25（神さまの臨在に近づいてはいけない）

出エジプト記29：1～37、レビ記8：1～36（神さまに近づく祭司を清める手順）

サムエル記下6：6～11（うかつに神さまに近づくことで罰せられた例）

詩編6、32、38、51、102、130、143（七つの悔い改めの詩編）

神さまは、罪を嫌い、遠ざける方です。罪人は神さまに近づくことができません。では、神さまは罪人を滅びるままに見捨てますか？

子どもと親のカテキズム 問25を思い出してみましよう。

考えてみましょう

・どうして、罪人は神さまに近づくことができないのでしょうか。

・なぜ神さまは、私たちが神さまに直接語りかけることを許してくださるのでしょうか。

1月16日 ルカによる福音書17章11～19節(カテキズム問87)【解説と黙想】

祈りに生きる道・主の御名による祈り

・はじめに

「祈り」という行為は万国普遍的なものであるとして、しかし、その意味するところは必ずしも一様ではない。「苦しい時の神頼み」、「人窮すれば天を呼ぶ」、「今際の念仏誰でも唱える」等々、人間の身勝手な宗教心をあらわす、この類のことわざは多い。そのような「祈り」は私たちにも心当たりがあるはず。

他方、宗教改革者のカルヴァンは「祈りは人と神とのある意味での交流である。……主の福音が我々の信仰に示して直視させる宝を祈りによって掘り出すということは真実である」(『キリスト教綱要』3.20.2)と語る。

「祈り」とは、自分の願いを神に託すに留まらず、神の願いを聞き取り受け取ることこそ軸足が置かれたものであるようだ。なるほど、罪に満ちた自分の願いが叶えられるよりも、憐みに満ちた神の願いに従い生きるほうがわたしたちは幸いな道を歩むであろう。

・前後の文脈

主イエスはエルサレムへの旅の途上にある。直前の箇所には「主人は僕に感謝するだろうか」(17:9)とある。そこでは、神の恵みを消費だけして、感謝することのない人間の罪深さが語られていた。しかし、その罪深い人間に、神は不思議にも信仰を与えてくださり、「実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」(17:21)と教えら

れる。神のご支配はその恵みを感謝し賛美するところに広がりゆくものである。

・サマリア人の祈り

主イエスは、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」(17:13)と叫ぶ重い皮膚病を患っている十人に対して、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」(17:14)とだけ言われた。十人の患者はその言葉に従う。その道中で、皆が清くされた。しかし、「大声で神を賛美しながら戻って来た」(17:15)のは一人のサマリア人だけであった。

重い皮膚病を患っているなかにあつては、皆が主イエスの言葉に希望をかけ、その言葉の示すがままに従った。その意味で彼らは主イエスの弟子になった。藁にも縋る思いを持たざるをえないとき、人は誰もが信仰者となる。病や苦難、挫折といった人知を超える壁にぶつかったとき、人は誰もが敬虔な祈りを献げ、行動する。しかし、その壁を越えてもなお神と共に歩む信仰者であり続ける者は少ない。平穏は人を傲慢にする。それは、罪ある世界の悲しい現実であるかのように見える。そこで、恩知らずな人間に対する正当な裁きがあつてしかるべきであるようにも思う。しかし、ルカによる福音書が見つめるのは、帰って来なかった九人ではなく、帰って来た一人のサマリア人である。その人のみが聞くことのゆるされた主イエスの言葉があつた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が

あなたを救った」(17:19)。この神の言葉を聞く幸いが祈り続ける信仰者には与えられる。それは、自分の願いが実現したこと

以上の喜びを見る道、神の国に生きる道である。(柏木貴志)

-
- 《参照聖句》 ヤコブの手紙5章16節、詩編19編15節、ルカ22章42節、テモテ4章5節
- 《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問98、99、ハイデルベルク信仰問答問117

1月16日 ルカによる福音書17章11～19節

【説教展開例】

祈りに生きる道・主の御名による祈り

◇..... 単元のねらい◇

お祈りをするとはどういうことであるのか。神さまにお願いをすることは大切なことであるとして、しかし、そこで留まらない祈りの豊かな世界があることを子どもたちに知ってほしい。祈りは神と人との交わりである。神が主イエスゆえに、その祈りをゆるし、自分の願いよりも神の御心をこそ願い、聞きより歩むことを求めておられる、その豊かな歩みのうえに子どもたちと共に立ちたい。

「お祈りってとても奥が深いんだよ」

・はじめに

皆さん、「苦しい時の神頼み」ということわざを聞いたことがありますか？ ふだんは、神さまの「か」の字も考えたことがない人が、苦しいときや困ったときにだけ、「神さま！ 助けてください!!」とお祈りすることを言います。

苦しいときに神さまにお祈りすることは、とても大切なことだけれど、お祈りをするのはその時だけでしょうか。そもそも、お祈りとはどういうものなのでしょう。今日の聖書のお話を学びながら、考えてみることにしましょう。

・重い皮膚病を患う十人の人

イエスさまがエルサレムへの旅を続けられるなかで、サマリア地方とガリラヤ地方の間ぐらいにある、とある村に入っていた時のことです。重い皮膚病を患っている十人の人たちが出迎えてくれました。「重い皮膚病」がどういう病であったのかは今となってはもう分からないんだけど、皮膚に湿疹や斑点ができる病であったとレビ記に記されています（レビ13：2）。問題

は、その病にかかった人が「汚れている」と言い渡され、村の外で生活をしなければいけなかったことです。「汚れ」はうつると考えられたからです。ですから、その病にかかった人は、家族やお友だちとも離れ離れに生活しなければいけなくなりました。もし、誰かが近づいてきたら、「わたしは汚れた者です。汚れた者です」（レビ13：45）と叫んで、人を遠ざけなければいけません。当然、その人たちは「汚れた者」とされましたから、神さまからも遠く離された人たちと考えられました。こんなに寂しく悲しいことがあるでしょうか。

そういう人たちが集まり、暮らしている村があった。しかもその村はユダヤ人とサマリア人とが一緒に暮らしていたようです。仲が悪いはずの両者が身を寄せ合うように暮らしていた。イエスさまがこの時、行かれたのはそういう村です。ふつうは人が遠ざける村です。その村にイエスさまは入って行かれたのでした。そこで、病を背負った人たちの叫びを聞かれます。彼らは「遠くの方に立ち止まったまま」（ルカ17：

12) です。彼らは病を負っていない人に近づいてはいけなからです。「汚れ」をうつさないために。距離を保って、そこから叫びます。しかし、その汚れは「わたしは汚れた者です」と人を遠ざけるためのものではなく、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」（ルカ17:13）という助けを求めるものでした。彼らはイエスさまに救いを求めたのでした。その十人に対して、イエスさまは「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」（ルカ17:14）とだけ言われます。これもレビ記に定められていることです。「汚れ／清い」という判定は祭司さんの手に委ねられていました。いわば霊的な健康診断です。「重い皮膚病」の悲しみは、神さまとの交わり、家族や親しい人との交わりが「汚れ」の名のもとに断たれることにこそありました。たとえ「病」それ自体が癒されても、祭司に「清い」と判定されなければ、交わりは断たれたままです。ですから、イエスさまは、御自分に一生懸命にすぎり、憐みを求める十人に祭司のところに行くことを求められました。その判定をもって家族やお友だちとの交わりを回復する道が開かれていくはずで。

イエスさまの言葉に、十人はそのまま従います。その時にイエスさまが直接、癒してくれたわけでもない。それでも、彼らはイエスさまの言葉に従ったのでした。サマリア人はゲリジム山の神殿に向かったのでしょうか。ユダヤ人はエルサレムの神殿に向かったのでしょうか。彼らは、イエスさまの言葉を信じました。そして、その道中で「清くされた」のでした。

・すぐに戻って来た一人のサマリア人

重い皮膚病を患っていた十人は、それぞれの神殿に向かう途中で、清くされました。それこそ、十人の人たちが願っていたことです。イエスさまにお願いしたことです。それが叶えられました。けれども、それで、めでたしめでたしと、このお話は終わりません。15節、16節の御言葉を一緒に読んでみましょう。「その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した」。

イエスさまの言葉のおかげで清くされた人のうち、一人だけがすぐにイエスさまのところに戻ってきました。もう「わたしは汚れた者です」と大語で叫ぶ必要もありません。清くされたんですから。イエスさまの傍近く、足元にまで近づいて感謝をするんです。

他の九人の人たちも決して間違った行動をしているわけではないんだと思うんです。その人たちはおそらくそのまま神殿に向かったんでしょう。それで、祭司さんたちに霊的な健康診断をしてもらって、神殿に献げ物もして、それから帰ればいいとでも考えたんでしょう。イエスさまにお礼を言うのはその後でもいいかなと考えたんでしょう。どっちみち、祭司さんに診てもらわなければ、交わりの中には帰れません。途中でイエスさまのところに戻って、また神殿に行くというのもちよっと効率的ではありません。ですので、九人の人たちは常識的で効率的な判断をしたと言えます。

しかし、ただ一人、サマリアの人だけが、常識や効率に優先させて、何にも優先させて、神さまを賛美し、イエスさまに感謝をするために戻って来ました。これが、「祈り」

というものです。お祈りは、苦しい時に神さまにお願いごとをすることです。でも、それで終わりではありません。言いつ放しではない。一度お祈りをして、願い事が叶うまでお祈りをして、終わりではありません。すぐに「神さま、ありがとうございます！」「神さま、あなたの導きはすばらしい!!」、と感謝と賛美を献げる、それがお祈りです。カルヴァンという人が“お祈りは人と神さまとの交わりである”と言っています。神さまは、皆さんのお祈りを聞いてくださっています。そのお祈りを皆さんが願うようにかどうかはわかりませんが、必ず一つの形としてあらわしてください。それを聞き取り、その時に、ありがとうございますと応答すること、それがお祈りです。お祈りは、一度して終わり、時々して終わり、というものではなく、毎日、呼吸をするように生涯続けるものです。そのお祈りをし続ける人にだけ、イエ

スさまから与えられる祝福があります。唯一、すぐに戻って来たサマリア人だけが聞くことができたイエスさまの言葉がありました。この御言葉も一緒に読んでみましょう。19節。「それから、イエスはその人に言われた。『立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った』」。

その言葉を聞くことができたのは、すぐに戻って来たサマリアの人だけです。その人だけが、イエスさまから「立ち上がって、行きなさい」とこれからの毎日に向かって、祝福の言葉で送り出されていきます。その人だけが「あなたの信仰があなたを救った」と、神さまに信頼し続けることの大切さ、その信仰がこれからも自分を守り続けてくれるものであることを教えられます。ただ、お願いだけをして終わるのではない、神さまに感謝と賛美をもって祈り続ける人にだけ、聞くことがゆるされる信仰の奥義があります。(柏木貴志)

《今週の暗唱聖句》

だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。
正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。

(ヤコブの手紙5章16節)

1月16日 ルカによる福音書17章11～19節

【分級展開例A】

祈りに生きる道・主の御名による祈り



【話のポイント】

今日のお話の中には、10人の皮膚病を持っている人々が出てくる。彼らは自分の病気を治してほしいと声を張り上げてイエスさまに救いを求めている。イエスさまは彼らの切な声を聞いて憐みを覚えられる。そして、10人の皮膚病を持っている人々は、主から救いを受けるようになる。ここで、私たちは彼らが声を張り上げてイエスさまに自分たちの病気を治してほしいと願っていた切な心を主が見てほしいと思う。彼らの心にはイエスさまに助けを求めると必ず救われるという信仰があった。その信仰の心が声を張り上げていく勇気を与え、イエスさまを振り向かせるようにしたのだ。彼らの切な心からの声がまさに私たちの祈りにならなければならない。私たちの祈りは彼らが声を上げて主を呼んでいたように、切な祈りにならなければならない必要がある。

【質問コーナー】

1. 10人の皮膚病を持っている人々はなぜイエスさまに声を張り上げて叫んでいたのか。
()
2. イエスさまを呼んでいる彼らの心にはどんな信仰があったのか。
()
3. 私たちの祈りには何が足りないと思うのか。
()

1月16日 ルカによる福音書17章11～19節

【分級展開例B】

祈りに生きる道・主の御名による祈り

イエスさまがある村に入ると、重い皮膚病の人が10人、遠くからイエスさまを迎えました。この病気にかかったら、人に近づいてはいけないと言われていたからです。

「イエスさま、先生、どうか、私たちを憐れんでください」

10人の人たちは、大きな声を出して、心からイエスさまに願いました。

イエスさまは、言われました。

「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」

祭司に体を見せて、どうなるのだろうか？ イエスさまに病気を治してほしかったのになあ。

でも、10人の人たちは、イエスさまの言う通り、祭司のところに向かいました。

すると、どうでしょう。道の途中で、みるみるうちに、皮膚がきれいになったではありませんか。病気が治ったのです。

「ああ、イエスさまが治してくださったのだ！」

その中の一人が、神さまを賛美しながら、イエスさまのところに戻って来ました。そして、イエスさまの足もとにひれ伏して、感謝しました。

どうして、ひれ伏したのでしょうか？ イエスさまが神さまだと分かったからです。「イエスさま、あなたは本当の神さまです！わたしを治してください、ありがとうございます！」と、心からイエスさまを礼拝したのです。

イエスさまは、私たちの罪の罰を代わりに引き受けて、十字架にかかってくくださったほどに、私たちを愛してくださる神さまです。力ある本当の神さま、イエスさまの御名によって、感謝して祈りましょう。

1月16日 ルカによる福音書17章11～19節

【分級展開例C】

祈りに生きる道・主の御名による祈り

キリスト教が他の宗教とは本質的に異なる「真の宗教」であること、キリスト教の神さまが他の神々とは本質的に異なる「真の神さま」であり、キリスト教の祈りが、他の宗教の祈りと本質的に異なる「真の祈り」であること。これらはどれほど強調してもし過ぎることがない真理です。教会学校は子ども達にこの真理を徹底的に伝えなければなりません。

しかし、自分たちの持つ価値を伝えるときに、他のものと比較し、それらを批判したり貶めたりすることは、相手に対して誤解や不快感を与えることがあります。特に未信者の家族を持つ子ども達が家庭に帰ってから親とどのような会話をするかはわかりません。「キリスト教が自分たちの信心を中傷している」と受け取られることがないように注意する必要があります。

考えてみましょう

- ・あなたは、神さまに何かして欲しいことや実現してもらいたいことを祈りますか。
- ・何かを実現したい時には、自分でも努力をします。でもクリスチャンは、同時に神さまに祈ります。それはなぜでしょう。
- ・神さまは願ったことを全て実現してくださるでしょうか。
- ・どうして、神さまに祈っても実現しないことがあるのでしょうか。
- ・どうして実現しないこともあるのに、私たちは神さまに祈るのでしょうか。

1月23日 使徒言行録16章16～34節（カテキズム問88） 【解説と黙想】

祈りに生きる道・祈りの内容

子どもと親のカテキズム問88は主の祈りの中にある具体的な祈りの項目に入る前に、全体の内容を説明しているところです。

主の祈りの前半は「み名をあがめさせたまえ」、「み国をきたらせたまえ」、「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」という祈りで、「御名」、「御国」、「御心」という神ご自身の事柄へと向かい、神を賛美する内容となっています。

後半は「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」、「我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ」、「我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」という祈りで、「私たちの糧」、「罪の赦し」、「悪からの守り」という人間の現実に関わる事柄について、神に必要なを求め祈りとなっています。

カテキズムはまず主の祈りの内容として、「それは、神さまへの賛美、感謝」と述べています。神への祈りにふさわしいのは、何よりも賛美だということです。この単元の聖書箇所は使徒言行録16章16～34節が選ばれています。この箇所はフィリピでパウロとシラスが伝道をしていた時の物語です。二人は占いの霊に取りつかれている女奴隷に何日も付きまとわれたので、たまりかねて、イエス・キリストの名によって彼女に取りつかれている悪霊を追い出しました。しかし、主人はこの女を利用して金儲けをしようと企んでいましたので、悪霊を追い出したパウロたちを恨み、二人を責め立て、とうとう二人は牢に入れられてし

まうのです。牢の中で二人は祈っていましたが、注目すべきなのは彼らが「賛美の歌をうたって神に祈っていい」たのです。（使徒16：25）

困難に直面したときの祈りも賛美から始めることができるのです。

また、「主の祈り」には直接、「感謝」という言葉が出てきませんが、神が私たちに糧を与え、罪を赦し、悪から守ってくださるという祈りを覚えるならば、必然的に神への感謝が土台にあると思います。「感謝」は祈りの大事な要素です。

次にカテキズムは「私たちの罪の赦し、願いごとく、他の人たちのためのとりなし」が主の祈りの内容の要素だと述べています。

祈りの中で「罪の赦し」を求めることは極めて重要だと思います。罪を悔い改め、神が罪深いわたしを許してくださるという感謝によって、私たちは神の御前に砕かれます。神の御前に砕かれない限り、祈りは自己中心的なものへと傾斜してしまうでしょう。この意味でこのカテキズムは「罪の赦し」の後に「願い」を述べているのだと思います。

そして「願い」は自分だけのことにとどまりません。「他の人たちのとりなし」も祈りの重要な要素です。神はもちろんわたし自身を愛してくださっていますが、同時に私たちの隣人も愛してくださっています。従って、私たちも隣人を愛し、隣人のために祈るのです。（高内信嗣）

《参照聖句》 ダニエル2：20、ネヘミヤ1：6、ヤコブ5：14

《教理問答》 ウェストミンスター信仰告白21章8節

1月23日 使徒言行録16章16～34節

【説教展開例】

祈りに生きる道・祈りの内容

◇..... 単元のねらい◇

主の祈り全体の内容にはどのような要素があるのかを説明している単元である。単元のねらいは子どもたちが祈りの意味を知り、主に感謝し、主の前に砕かれて祈ることが出来るようになることである。

「神さまに感謝し、友のために祈ろう」

皆さん、おはようございます。今日も教会に来てくれましたね。ありがとう。

先週に引き続いて「お祈り」についてお話ししたいと思います。今日もこの礼拝の中で「お祈り」をしましたね。僕たちはこの礼拝だけではなくて、ご飯を食べる前や、寝る前など、生活の色々な場面でお祈りをするよね。「お祈り」は僕たちの生活にとって欠かせないものです。

それでは今日もカテキズムから学びたいと思います。子どもと親のカテキズム問88を開いて読んでみましょう。

問88 イエスさまが祈りの手本として教えてください。くださった「主の祈り」の内容は何ですか。

答 それは、神さまへの賛美、感謝、私たちの罪の赦し、願いごと、他の人たちのためのとりなしなどを含んでいます。

イエスさまは「お祈りする時にはこのようにお祈りしたらいいよ」と言って、お祈りのお手本を教えてくださいました。それは僕たちがよく祈っている「主の祈り」です。

カテキズムは主の祈りの内容として「神

さまへの賛美」、「感謝」があるって言っています。

「賛美」って何だろう。それは「神さま、あなたは素晴らしいお方です」って言って、神さまを褒めたたえることです。僕たちはお祈りの中で、どれだけ「神さま、あなたは素晴らしいお方です」って言っているかな。「賛美」はお祈りのとても大切な言葉です。

今日は使徒言行録16章16から34節を読みましたね。ここはパウロさんとシラスさんが、イエスさまの素晴らしさを伝えるためにフィリピという町に来ていた時のお話です。

何日も、何日も、占いの霊に取りつかれている奴隷の女性が、パウロさんとシラスさんの後を、叫びながらついてきていました。たまりかねたパウロさんは、女性に取りついていてる占いの霊に直接、「この女から出て行け」と言いました。すると、占いの霊は女性から出ていったのです。ですが、この女性の主人は、この女性の占いを使ってお金儲けをしようと企んでいました。その望みを失い、激しく怒って、パウロさんとシラスさんを捕らえて、高官たちに引き渡したのです。パウロさんとシラスさんは

服をはぎとられ、何度も鞭に打たれ、牢に入れられてしまいました。僕らがこんなことされたらどうでしょう。本当に怖いですよ。

大変な目にあった二人でしたが、真夜中、二人は「賛美の歌をうたって神に祈って」(25節) いました。もちろん、「神さま、助けてください」というお祈りもしていると。ですが、二人は何よりも神さまの素晴らしさを褒めたたえながら、お祈りをしていました。これは本当に大切なことだと思います。

僕たちは生活していく中で、時に、自分では想像もしていなかったことに直面することがあります。自分ではどうすることもできない壁に当たることもあるかもしれません。

パウロさんとシラスさんも予想していなかったことに直面したのです。

でも、僕たちはそのような時に祈ることができます。神さまにより頼むことができます。神さまは私たちの祈りを聞いてくださり、助け出してくださるお方です。素晴らしいお方です。だから、私たちは神さまを賛美するのです。

そして神さまに「感謝」することも大事です。神さまは僕たちに必要な物を与え、守り、助けてくださるお方です。みんながお祈りの中「神さま、ありがとう」と言う

ならば、神さまはとても喜んでおられます。ただ願いごとを言うことだけが、お祈りではありません。イエスさまは僕たちの罪を赦すために十字架に架かってくださいました。罪人である私たちが罪赦されているからこそ、僕たちは神さまにお祈りをするのできるのです。

罪を赦してくださるイエスさま、神さまに感謝しながら、お祈りをささげていきたいと願っています。

そして、最後に、自分のことだけを祈ることがお祈りではありません。カテキズムは「他の人たちのためのとりなしなどを含んでいます」と言っていますね。

お祈りは、自分だけじゃなくて、家族、友だち、教会の人たちのために祈りすることが出来ます。いえ、全く会ったことがない人のためにもお祈りすることができます。

ぜひ、自分だけじゃなくて、他の人のことを覚えて祈ってあげてください。困っている友だちや、悩みを抱えている方、入院されている教会の方のために祈ってあげてください。神さまは素晴らしいお方です。必ず、みんなのお祈りを聞き上げてくれます。

祈りながら、神さまに感謝しながら、神さまに頼りながら、新しい一週間を送っていききたいと思います。(高内信嗣)

《今週の暗唱聖句》

真夜中ごろ、パウロとシラスが賛美の歌をうたって神に祈っていると、ほかの囚人たちはこれに聞き入っていた。(使徒言行録16章25節)

1月23日 使徒言行録16章16～34節

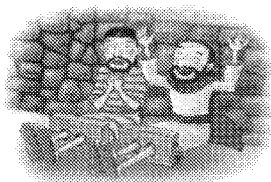
【分級展開例A】

祈りに生きる道・祈りの内容

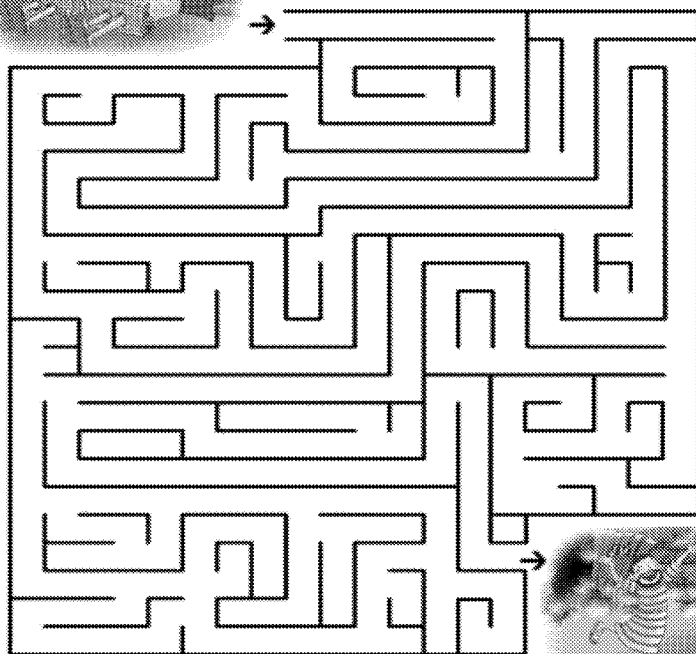
【話のポイント】

ある日、パウロとシラスは古いの霊に取りつかれている女奴隷に出会い、彼女を悪霊から救った。しかし、その女奴隷によってお金をもうけていた主人は、パウロとシラスを訴え、彼らは牢獄に入れられた。むちを打たれ、ボロボロの体をもって、牢に入れられているパウロとシラスは、ただ神さまに向かって喜びあふれ、賛美と祈りを捧げた。そうすると、突然、大地震が起り、牢の土台が揺れ動き、パウロとシラスは牢から解放され救われた。

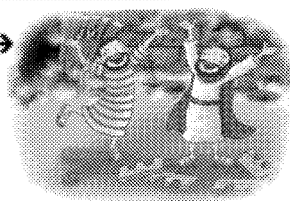
パウロとシラスは、自分たちの状況とは関係なしに、天の神に感謝の賛美と祈りをささげた。その感謝と喜びの祈りは天まで捧げられ、神さまの心を感動させた。祈りの力は牢に入られて死を待っている人々を救う。神に祈れるというのは本当に素晴らしいものである。



「真夜中ごろ、パウロとシラスが賛美の歌をうたって神に祈っていると、ほかの囚人たちはこれに聞き入っていた。」 使徒16:25



*祈ってから迷路を脱出してみよう！



1月23日 使徒言行録16章16～34節

【分級展開例B】

祈りに生きる道・祈りの内容

弟子のパウロとシラスが、ある町で、救い主イエスさまのことを話していた時のことです。

ある人たちが、二人を捕まえて、

「この人たちは、私たちの町を混乱させている悪者です」

と嘘をつき、パウロとシラスを役人に引き渡してしまいました。

役人は、二人を鞭で打ち、牢屋に投げ込んで、逃げないように足枷をはめました。牢屋の前には、看守という見張りの人が立っています。

パウロとシラスは、どうなってしまうのでしょうか。心配ですね。

ところが、二人は牢屋の中で、賛美の歌を歌い、神さまに祈っていたのです。それは、牢屋に入っている他の人たちも、うっとりするほど美しい賛美でした。

神さまは、素晴らしいお方だ。それは、私たちが牢屋にいても変わらない。神さまは、私たちに、救い主イエスさまをお与えくださったのだ。神さまは、かならず一番善いことをしてくださる。パウロとシラスは、そう信じて、神さまを賛美して祈っていたのです。

すると、突然、大地震が起こり、牢屋の戸が全部開き、牢屋にいる他の人たちの足枷も、全部外れてしまいました。見張りの人はびっくりしました。皆が逃げてしまったら、見張りの人は死刑にされるのです。

パウロは大声で、見張りの人に言いました。

「私たちは皆、ここにいる」

見張りの人は、あまりの出来事に震え、パウロとシラスの前にひれ伏して言いました。

「先生がた、救われるために、わたしはどうしたらよいのでしょうか」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます」

パウロとシラスは、見張りの人と、その家族全員に、イエスさまの救いを話しました。見張りの人も家族も、全員がイエスさまを救い主と信じて、すぐに洗礼を受けたのです。そして、神さまを信じる者になったことを、全員が心から喜んだのでした。

神さまを信頼して祈る中で、ますます神さまを信頼し、神さまを愛してついていくように、私たちは成長させられていくのですね。

1月23日 使徒言行録16章16～34節

【分級展開例C】

祈りに生きる道・祈りの内容

祈りという行為自体は、どんな人でもできることです。たとえ言葉にできない思いであっても神さまはその思いを汲み上げてくださいます。言葉を整えたり選んだりすることなく、自分の思いを全て神さまに投げかけることができます。たとえそれが神さまに対する不平や私たちの勝手な思いであっても、神さまに受け止めていただくことが許されています。

しかし、祈りの内容を意識し、その内容に沿った祈りを整えるよう心がけることは、祈りの大切な役割である、救いの恩恵を私たちに実現するためにより強く働くことができます。私たちはより豊かに養われるように、意識して自分の祈りを整えることが求められます。

自身の祈りを整えるのに大切なのは、主の祈りをはじめとする聖書の多くの祈りを読むこと、また他の人と共に祈り他の人の祈りを聞くことです。教会学校は子どもたちが最初に経験する家族以外の人と共に祈る場面です。この機会を大切にしましょう。

考えてみましょう

- ・カテキズムに教えられている、祈りの要素は何でしょう。確認してみましょう。

- ・各々の要素は、具体的にはどんなものでしょう。この一週間の自分の生活の中で、それぞれの要素に当てはまることを書き出してみましょう。

- ・実際に、それぞれの要素をもって祈ってみましょう。

1月30日 マタイによる福音書6章5～9節（カテキズム問89）【解説と黙想】

主の祈り・私たちの父よ

子どもと親のカテキズム問89は「主の祈り」の呼びかけの言葉を教えている。答に「私たちは、神さまの子どもです」とあるように、神さまの子どもとして「天のお父さま」と呼びかけることを学びたい。

・神さまの子ども

ハイデルベルク信仰問答の問33はこう教えている。

問：わたしたちも、神の子であるのに、なぜ、キリストは、神の「独り子」と呼ばれるのですか。

答：なぜなら、キリストだけが、永遠からの本来の神の御子だからです。わたしたちは、この方のおかげで、恵みによって、神の子とされているのです。

本来、神の子であるのは独り子キリストだけであるが、恵みによって、御子キリストの十字架の贖いのゆえに、私たちも神の子どもとされたという事実を教えている。この恵みが、「父よ」という呼びかけの言葉の土台にあることをまずは確認したい。「御父がどれほどわたしたちを愛してくださいるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです」（ヨハネー3章1節）

・「父よ」：神さまとの近さ

ペトロの手紙一2章10節に「あなたがたは、『かつては神の民ではなかったが、今

は神の民であり、憐れみを受けなかったが、今は憐れみを受けている』のです」とある。かつては神の子どもじゃなかったけれども、今は恵みによって神の子どもとして受け入れられていることを教えている。私たちが神さまを「父よ」と呼べるということは、それだけ神さまと私たちが親しい関係・近い関係になったということをお教えるものである。

私たちは、自分のことを全く知らない神に祈っているのではない。このわたしに無関心なお方に祈るのでもない。母の胎にいる時から、わたしを見ておられた「父なる神」に祈るということ。マタイによる福音書6章8節にある通り、この父は、私たちが願う前から、私たちに本当に必要なものをご存知であって、それを備えてくださっている近しいお方であるということ。これが一つ私たちの祈りの土台である。

・「天におられる」：神さまとの遠さ

しかし、その父は「天におられる」お方である。祈りの呼びかけの言葉ははっきりそのことを教えている。私たち人間が住む「地」に対して、神さまは「天」におられて、全てのものの上におられて、全てをご支配なさっているお方なのである。

ある意味で、「父よ」という言葉が神さまとの「近さ」を表しているのに対して、その父なる神が「天におられる」ということは、神さまとの「距離」を感じさせる言葉ではないだろうか。しかし、父なる神が、

私たちの手の届かないほど遠く偉大なお方であって、天からすべてを治めておられるお方であるからこそ、私たちはあらゆる問題の解決をこのお方に求めることができるのではないか。

天におられて全てを見渡しておられる「父」が、私たちに本当に必要なものをご存知である。その父に親しく祈ることができる恵みを心に覚えて祈りたい。

(小橋口貴人)

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問100、ハイデルベルク信仰問答問33、120

1月30日 マタイによる福音書6章5～9節

【説教展開例】

主の祈り・わたしたちの父よ

◇..... 単元のねらい◇

「主の祈り」の呼びかけの言葉を学ぶことを通して、神さまに「父よ」と祈ることができる恵みを伝えたい。神の子どもたちにとって、祈りは義務ではなく驚くべき特権である。

「天におられるわたしたちの父よ」

呼びかけの言葉「お父さん」

今日は「主の祈り」の呼びかけの言葉を学びましょう。普段は礼拝の中で「天にまします我らの父よ」と祈っていますか。教会によって少し違う言葉で祈っているところもあると思いますが、意味は同じです。「天におられる私たちのお父さん」という意味です。「天のお父さん」と呼びかけて、父なる神さまに祈るようにイエスさまが教えてくださいました。

皆さんが、最初に覚えた言葉は何だったのでしょうか？ 帰ったらお父さんやお母さんに聞いてみてください。生まれた赤ちゃんたちは、やがて言葉を覚えてしゃべるようになりますよね。人によっては「ママ」とか「パパ」という言葉を最初に覚えたかもしれません。今までしゃべらなかった赤ちゃんが、ある時「パパ」とか「ママ」とかしゃべったら、家族の中には喜びがあふれると思います。特にお父さんやお母さんは大喜びです。

それと同じように、今まで祈ることを知らなかった者たちが、ある時「天のお父さん」と祈り始めるならば、天の御国では大きな喜びがあると思います。

この世に生まれた赤ちゃんが、やがて言葉を覚えて少しずつ話すようになるように、新しく神の国に生まれて、神の子どもとして生きはじめた者たちも、少しずつ話すことを覚えます。それが祈りです。はじ

めは「パパ」「お父さん」「父よ」という呼びかけの言葉くらいしかしゃべれないかもしれないかもしれませんが、それは、神さまの子どもとして生きはじめた人たちの言葉です。そして、少しずつ祈りの言葉を覚えて、やがて神さまに自由に祈れるようになっていきます。

ですから、皆さんも決して難しい祈りをする必要はありません。神さまに「父よ」「お父さん」と呼びかけることから始めましょう。

どんなお父さんに祈るの？

皆さんが、困ったときに頼りにするのはお父さんですか。お母さんですか。普段の生活の中でよくしゃべるのはお父さんですか？ お母さんですか？

実は人によってはお父さんがいないという人もいるかもしれません。日本でも生まれた時にはもうお父さんがそばにいないで、一度も会ったことがないという子どもたちがたくさんいることがわかっています。そういう人たちにとって「父よ」という呼びかけの言葉は、素直に言えない言葉、あるいは戸惑いを覚える言葉かもしれません。あるいは、お父さんはいるんだけど、とても頼れるような存在じゃなかったとか、一緒に遊んでくれたこともなかったし、しゃべることも少ないから、あまり信頼して「お父さん」と呼べないという人も

いるかもしれないですね。

でも、イエスさまは「父よ」と祈りなさいと教えておられます。じゃあ、天におられる私たちの神さまは、どういう「父」なのでしょう。私たちの天の父は、「その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」（ヨハネ3：16）お父さんです。罪の奴隷として生まれて、罪の奴隷として苦しんでいた私たちを、イエス・キリストという独り子を身代金としてお与えくださるほどに、愛してくださった。私たちをご自分の子どもとして買い戻してくださった。そういうお父さんだよと聖書は教えています。「神は、その独り子をお与えになったほどに世を（私たちを）愛された」。

また、詩編139編にこうあります。「あなたは、わたしの内臓を造り、母の胎内にわたしを組み立ててくださった」（139：13）「胎児であったわたしをあなたの目は見ておられた。わたしの日々はあなたの書にすべて記されている。まだその一日も造られないうちから」（139：16）。

ここを読むと、実は、わたしという存在を形づくった本当の親がどなたであったのかがわかりますね。地上の親がわたしを見るより先に、わたしのことをよく知っておられた天の父がいるということです。親より先にわたしを見ておられ、母の胎のうちにいる時から、あるいはもっと前からわたしを知っておられ、わたしを見ておられた天の父は、罪人として生まれてきたわたしの「父」となるために、御子キリストという大きな代価を支払われました。「わたしの子どもとして生きていきなさい」ということです。

ですから私たちは、自分のことを全く知らない神さまに祈っているのではありません

ん。わたしに無関心で、わたしのことを何とも思っていないような「冷たい父」ではありません。母の胎にいる時から、わたしを知っておられ、「私たちが願う前から、私たちに本当に必要なものをご存知である」そういうお父さんに祈るということです。

天におられる私たちの父

そのように私たちを愛し、私たちをよく知っておられる「父なる神さま」が天におられます。「天にまします我らの父よ」と呼びかける。これが祈りのはじめの言葉です。

天におられるということは、全てのものの上におられて、全てのものをご覧になり、ご支配されているということです。ですから、天の父は、私たちすべてを目に留めるために見晴らしの良いところにおられるということですね。

「主は天から見渡し、人の子らをひとりひとり御覧になり 御座を置かれた所から、地に住むすべての人に目を留められる」（詩編33：13～14）とある通りです。

私たちを愛しておられる父が、すべてを見渡せる天におられて、この地を生きているわたしに本当に必要なものをご存知である。そしてそれを与えようとしておられる。そういう「父」が、私たちの祈りに耳を傾けてくださるというのは、どれほど素晴らしいことでしょうか。

神の子どもたちにとって、祈りは決して義務ではありません。特権です。見晴らしの良いところから、すべてを見渡して「あなたにはこれが必要だよ」と、私たちの必要をご存知の神さまに祈れる幸いを学んでいきましょう。（小橋口貴人）

《今週の暗唱聖句》

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。

（ヨハネによる福音書3章16節）

1月30日 マタイによる福音書6章5～9節

【分級展開例A】

主の祈り・私たちの父よ

【話のポイント】

イエスさまは、神に祈るとき、人々に見えるところではなく、隠れている自分と神さまだけの場所で祈りなさいと教えられている。それは、祈りは神さまと私たちだけの秘密の話だからである。わたしには秘密の話ができる人が何人いるだろうか。自分でもとても少ないと思う。お父さんとお母さんや親しいお友だちの何人かしかいないのだろうか。神さまは皆が聞こえるところではなく、自分と神さまだけの場所で、二人だけの秘密の時間を過ごしたいと願うのである。そのために、私たちはイエスさまと自分だけの場所を探して毎日会える約束をする。二人だけの秘密の場所で二人だけの話（祈り）をしていくところを作るのである。イエスさまを信じるということは、イエスさまとの二人だけで話をしていく、これからイエスさまと親友になっていく祈り（会話）の時間、交わり話し合っていく時間を作っていく人生を歩むことである。そのとき、イエスさまは私たちに会ってくださり、私たちの人生をゆたかに祝福してくださる。

* イエスさまと二人だけの秘密の祈りをする「ぬりえ」をしてみよう。
(コピーして子どもたちに渡してください)

あなたは祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、
隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。マタイ6:6



1月30日 マタイによる福音書6章5～9節

【分級展開例B】

主の祈り・私たちの父よ

私たちは、誰に祈るのかな？

そう、神さまに祈るのですね。

では、お祈りする姿をわざわざ人に見せたり、お祈りを人に聞かせたりする必要はある？

いいえ、その必要はないですね。

神さまは、誰にも見えない、誰も知らない私たちの祈りを、ちゃんと聞いていてくださるし、うまく言い表せない私たちの心の中まで、ちゃんと知っていてくださいますものね。

神さまは、私たちのお祈りの言葉が多ければ多いほど、お祈りに答えてくださるのかな？

いいえ、そんなことはありません。それではまるで、くじ引きみたいですね。

神さまは、私たちがお願ひする前から、私たちに必要なものを知っておられます。

だから、安心して、イエスさまが教えてくださった、「主の祈り」を祈りましょう。

主の祈りの最初は、何かな？

そうですね。「天におられる私たちの父よ」、ですね。

私たちは、天の父なる神さまに祈るのです。

私たちが造り、私たちのことを何でも知っておられる父なる神さまに、祈るのです。

だから、安心してね。少しの祈りでも、大丈夫なのです。

そして、一人でお祈りしていても、「わたしは一人ぼっちじゃないのだな」と分かります。

だって、「私たちの父」ですものね。

天の父なる神さまの大きな家族の一員として、私たち一人一人は、神さまに覚えられているのですものね。なんだか、とっても嬉しいですね。

主の祈り、「天におられる私たちの父よ」、

この続きは何だろう。ちょっと、楽しみになってきましたね。

1月30日 マタイによる福音書6章5～9節

【分級展開例C】

主の祈り・私たちの父よ

主の祈りの冒頭の「呼びかけ」には、二つの要素があります。「天にまします」という説明の言葉と「父よ」という呼び名です。一言で言うと前者は神さまの至高性、包括性、全能性等を、後者は神さまの無償の愛、絶対的信頼、人格的關係性を表しています。詳細は『神さまと共に歩む道』237ページ以下を参照ください。

特に「父性」の理解に関しては、それぞれのジェンダー理解、家族観、社会観の違いが現れます。聖書は2000年前の表現や理解を使っていること、個別の父子関係は多様であることなどを前提に話し合しましょう。

考えてみましょう

- ・私たちが祈る神さまは「天にまします（おられる）」とされています。天とはどんなところで、そこにおられるのはどのようなお方だと思いますか。
- ・私たちが祈る神さまは「我らの父」と呼ばれています。父と呼ばれる方と私たちとはどんな関係だと思いますか。
- ・私たちが神さまを、この二つの呼び掛けをもって呼ぶ時、私たちはどんな気持ちで、神さまに語りかけていると思いますか。

2月6日 詩編33編1～22節(カテキズム問90)

【解説と黙想】

主の祈り・御名を崇める祈り

・御名をあがめる祈りの必要性

「御名をあがめさせたまえ」という祈りには、短くとも深い意味が込められています。まず御名について。これは言うまでもなく神さまのお名前のことです。御名に限らず名前とは、それが指し示す存在そのものです。ですから「御名をあがめさせたまえ」とは、神さまをあがめることができることを求める祈りなのです。

主イエスがこれを主の祈りに加えられたのは、人が神さまをあがめることのできない現実があるからです。私たちは、御名を忘れ、神さまを失い、自分勝手に生きています。神さまをあがめることすらも、自分の都合よくねじ曲げようとするのです。それゆえに、御名をあがめさせたまえという祈りは切実なのです。

・神を知ることの大切さ

では、御名をあがめるためには何が必要でしょうか。それはまず御名が指し示す存在であられる神さまを知ることが必要です。これは単に知識を多く蓄えることではありません。神さまがわたしに対してどう関わってくださるお方かを知ること。これが何よりも大切なのです。

では、私たちはどのようにして神さまを知ることができるでしょうか。聖書をおいて他にありません。そしてその中心である主イエスの十字架をとおして、私たちは神さまを知ることができるのです。十字架をとおして示されるのは、自分勝手に生きて

いる私たちを救うために独り子をも与えてくださったほどに、私たちを愛してやまない神さまのお姿です。ヨハネによる福音書3章16節に「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」とあるとおりです。

・神を知ることから神をあがめることへ

神さまを失い自分勝手に生きてきたわたしに注がれた神さまの愛の大きさを知るとき、私たちは御名をあがめることへと導かれます。自分の都合のよい神を求めるのではなく、純粋にこのお方をあがめることを祈り願うことができるようになるのです。そのときこの祈りは、わたし自身の全存在におよびます。主の祈りを祈るときだけ、日曜日に教会で礼拝するときだけの祈りにはなりません。自らの生活すべてをとおして、御名をあがめることへと導かれます。こうしてわたしの生活すべてが、神さまへの感謝へと変えられるのです。

・すべての人が神をあがめるために

この祈りは、わたしひとりが神をあがめて終わるものではありません。主の祈りは、「我らの父よ」と呼びかける祈りであり、共同体の祈りです。わたしの生活すべてが御名をあがめることへと至るとき、それはわたしの周りにいる人々にも広がっていくのです。わたしが神さまからいただいている恵みを、周りの人々にも与って欲しい。そう願うことが、自然なことなのです。

わたしだけでなくすべての人が御名を知り、愛の神さまを知ることができますように。それによってすべての人が御名をあげ、神さまをほめたたえることができますように。これこそ御名をあげさせたまえ

という祈りの、究極的な願いです。全生活において神への感謝をささげることへと導かれた私たちは、切にそれを祈り求めて生きるのです。 (三輪 誠)

《参照聖句》 ヨハネ3章16節、コリントー6章20節、10章31節、詩編67編3, 4節
《教理問答》 ハイデルベルク信仰問答問122、ウェストminster小教理問答問101

2月6日 詩編33編1～22節

【説教展開例】

主の祈り・御名を崇める祈り

◇..... 単元のねらい◇

神をあがめることを願う祈りから、自らの力では神さまをあがめることのできない自らの姿を覚えつつ、それでも自らに注がれた神の愛と、神をあがめることのできる恵みを知る。この喜びが周りの人々へと広がり、すべての人々が御名をあがめることができるよう求める思いを与えられたい。

「み名をあがめさせたまえ」

今日は主の祈りの「み名をあがめさせたまえ」について一緒に考えてみましょう。「み名」とは神さまのお名前のことです。みんなにも一人一人お名前がありますよね。わたしが誰かのお名前を呼べば、呼ばれた子は振り向きまゝ。自分の名前が褒められればうれしくなります。自分の名前というのは、自分の分身みたいなものなのです。ということは、神さまのお名前である「み名」は、神さまの分身ですね。ですから「み名をあがめさせたまえ」と祈るということは、神さまをあがめ、礼拝することができるようにしてください、と神さまにお願いしているということです。

ところでみんな、今こうして礼拝に出席していますよね。毎週礼拝に出席してくれている子は、神さまを礼拝するなんて当たり前のように思っているかもしれません。でもそれは当たり前のことではないのです。なぜならもともと私たちはみんな、神さまのことを失っていたからです。毎週教会に来ていたとしても、神さまに従うのではなくて、自分の好きなようにしたいと思う心が、誰にでもあるのです。どこかに、神さまなんて礼拝せずに自分の好きなよう

にしたいという思いが、私たちの中にはあるのです。だからこそ私たちは、「み名をあがめさせてください」と祈ることが絶対に必要なのです。神さまがこのお祈りを聞いてくださっているから、今私たちは神さまを礼拝できているのだということを、まずはみんなに知っておいてほしいのです。

では、私たちがみ名をあがめるためには何が必要でしょうか。それはまず、み名が指し示している神さまを知らなければなりません。どこの誰だかわからない神さまだけれども、その神さまを礼拝する、なんてことはできませんよね。もしかしたら、ひどい神さまかもしれない。もしかしたら、わたしにいじわるする神さまかもしれない。そう思いながら神さまのお名前を、心から喜ぶことはできません。だからまず、神さまがどのようなお方かを知ることが大切です。それならば、私たちはどうやって神さまを知ることができるのでしょうか。聖書をおいて他にありません。私たちは聖書に記されている神さまのお言葉をとおして、神さまを知なのです。知るといっても、学校の勉強で暗記するみたいに神さまの知

識を蓄えることではありません。神さまが、このわたしのために何をしてくださったのか、このわたしにどのように関わってくださるお方か。このことを知ることが大切です。

では聖書には、神さまがどのようなお方として記されているのでしょうか。それが最もよく分かるのが、イエスさまの十字架です。イエスさまは私たちの身代わりとなって十字架にかかって死んでくださいました。それは私たちがいい子だったからではありません。さっきも言いましたが、私たちはみんな、神さまに従いたくない、自分の好きなように生きたいという心を持っています。そんな自分勝手な私たちのために、神さまは独り子である大切なイエスさまを与えてくださいました。その神さまの思いが、ヨハネによる福音書3章16節にこう書かれています。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」

ここに、聖書に記されている神さまのお姿が示されています。それは、私たちを心から愛してくださっている神さまです。

神さまが、どれほど私たちを愛してくださっているか。そのことを私たちは、聖書をとおして知ります。神さまは僕たち私たちのことを、こんなにも愛してくださっていたのだ。このことを知ることができたならば、私たちはもう「神さまに従いたくない、神さまと関係なく自分の好きなように生きたい」と思うことなどなくなるので

す。

これは何も特別なことではありません。自分が困っているときにいつも助けてくれるお友だちがいたとしましょう。その子に意地悪したいと思いますか。思わないでしょう。反対に、その子が何かしてほしいと思うことがあったら、力になりたい、何とかしてあげたいと思うのは当然ですよね。神さまに対しても同じです。神さまはこんなにもわたしを愛してくださった。私たちが聖書をとおしてこのことを知ったとき、み名をあがめ、神さまを礼拝することへと導かれていくのです。

ここで「神さまを礼拝する」といいましたけれども、それは日曜日に教会に来て礼拝しているときのことだけではありません。なぜなら神さまへの感謝の思いは、教会で礼拝しているときだけのものではないからです。教会から外に出ても、神さまありがとうございますという思いが急になくなることはないでしょう。神さまへの感謝の思いは、家にいるときも学校にいるときも変わりません。私たちが神さまの愛を知ると、教会にいるときだけではなくて、わたしの生活すべてが「神さまのために何かしたい」という思いに変わっていくのです。

さらに言うならば、その思いはわたしだけで終わるものでもありません。子どもと親のカテキズム問90にも、このことが教えられています。「すべての人が神さまのお名前をあがめ、ほめたたえるようになることを祈り求めます」とあります。わたしがこれだけ神さまに愛してもらって、嬉しい気持ちになっている。だったら、わたしの周りの人にもこの嬉しい気持ちが広がって行ってほしい。そう思うのも、自然なこと

ではないですか。

このことは、今日の聖書箇所である詩編33編にも表れています。そこには、「全地」とか「世界に住むものは皆」とか「諸国の民」という言葉が出てきます。自分だけが神さまに従って、それで満足ではないのです。みんなが神さまに従ってほしい。世界中の人々が、この神さまの愛を受け取って欲しい。そのような思いの中で、この詩編33編は記されているのです。

これと同じ思いで、私たちも「み名をあ

がめさせたまえ」と祈るのです。祈るだけではありません。私たち自身が、神さまの愛を知って嬉しい気持ちを大切にすること。そして、わたしの周りの人にもこの嬉しい気持ちが広がってほしいと願いながら一日一日を歩むこと。それによって、「み名をあがめさせたまえ」という私たちの祈りは神さまに聞かれるのです。このようにして、み名をあがめる人たちがみんなの周りに、そして世界中に起こされていくのです。 (三輪 誠)

《今週の暗唱聖句》

全地は主を畏れ 世界に住むものは皆、主におののく。(詩編33編8節)

2月6日 詩編33編1～22節

【分級展開例A】

主の祈り・御名を崇める祈り

歓迎を伝え、子どもの様子を知る

挨拶：声をかけ輪になって集まる。挨拶の歌（83号、11月7日展開例A参照）をみんなで歌う。

お祈り：短く感謝と分級のためのお祈りをする。

小さな子どもたちが神さまを喜びたたえる姿は、それを見聞きする人々に喜びと、神さまの素晴らしさを覚えさせます。神さまは、小さな私たちの生活すべてを通して神さまの栄光をあらわす力を授けてくださいます。それは、大切な家族や大好きなお友だちも同様です。だから「御名をあげめさせたまえ」と祈るとき、わたしとそして他の人たち（家族やお友だち、また世界中の人たち）も、正しく神さまを知り、神さまを讃えるようになるようにとの思いをもって祈るよう導く。

対話

（準備） 分級の子どもたちを覚えて祈り、テキスト・黙想・説教展開例などを読んで、このことだけは伝えようと思うことをまとめておく。（1ポイントに絞る）

当日、説教者のお話を聞きながら、いくつかの質問を用意する。

用意した質問をし、応答しながら、いちばん届けたいメッセージを確認し届ける。

その子が理解し、受け取れる言葉を選ぶ。

ワーク

例1：それぞれ得意なこと（絵をかく。字をかく。折り紙。逆上がり。人を笑わせる。歌など）を聞いて、行う。それをみんなで見たり聞いたりして、神さまをほめたたえる言葉をかけ合う。

例2：神さまをたたえる讃美を練習して、礼拝後などに前で讃美する。（事前に小会に確認）

例3：礼拝に來れないご高齢の兄弟姉妹や、病気の兄弟姉妹にお葉書を書いて送る。

子どもたちが絵や字を書く。（楽しかったことや、嬉しかったことなどを伝える）

終わりのお祈り

天のお父さま、この小さなわたしを通して神さまの素晴らしさをあらわしてください。大好きな家族や教会の人たち、また世界中の人たちも神さまの素晴らしさを知って神さまをほめたたえるようになりますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

2月6日 詩編33編1～22節

【分級展開例B】

主の祈り・御名を崇める祈り

主の祈り：イエスさまが弟子たちにじかに教えてくださった祈り（マタイ6：9～13）

〔構成〕 序言（呼びかけ）

前半3つ：神さまについての祈り

後半3つ：私たちの必要に関する祈り

結びの言葉

【本日の学び】 前半第1祈願 「ねがわくは、御名をあがめさせたまえ」

☆「あがめる」：神聖なものとする、聖別する

【今日の聖書箇所から】（詩編33：16～19より）

☆この世での勝利は「ちからの強さ」で決まる：声の大きさ、味方の数、力の強さ、武器
の数（兵士や馬）など

☆神さまが与えてくださる勝利はこの世の勝利の基準とはぜんぜん違う。

「数が多い・力が強い」でも勝つとは限らない、

ましてや正しいとされるとは限らない。

救いが与えられるかどうかはまったく別の話

☆神さまはこの世の常識をはるかに超えて、神さまは私たちに目を留め（14節）

見分けてくださる（15節）お方です。

人間の常識では考えることもできないこと、神さまにしかできないことです。

それが神さまの力強い命の約束なのです。

☆このことに私たちは驚きつつも心に深い安らぎを与えられます。

これは本当にうれしいことです、条件付きの愛情ではないのですから。

私たちの側に何かすごい能力があったから、というわけではありません。

神さまに創られた私たちが神さまを信じ従うこと、

ただそれだけで、神さまが慈しみ愛してくださるということです。

☆こんなに安心して素直に喜べるようなことは、人間の生活ではあまりないので、

信じられないかもしれませんが、本当なのですよ。

このことを素直に喜び、私たちは喜びのうちに感謝して御名ほめたたえましょう。

この神さまの愛にこたえて、私たちも神さまのご栄光をあらわすことができる

ように生活させてくださいと願い祈るのです。

2月6日 詩編33編1～22節

【分級展開例C】

主の祈り・御名を崇める祈り

罪人である私たちが神さまに祈りを献げ「名」を呼ぶことができること自体大きな恵みであることは、問86で確かめました。神さまの名を崇めることは神さまご自身を崇めることであり、それは、私たち人間にとって最も大切な「神さまと共に歩むこと」の内容である「神さまの栄光をあらわし……歩む」ことそのものです（『神さまと共に歩む道』問2解説 p25参照）。

祈りの中で、まず取り上げられているこの祈りの項目が、神さまと私たちの関係において最も大切な事柄であることを確認しましょう。

確かめてみましょう

- ・聖書の中で、人が神さまの名を呼ぶ箇所を確かめてみましょう。そこにはどのような関係があると思いますか。

創世記4：26（始まり）、12：8（アブラム）、26：25（イサク）、
32：30（ヤコブ）、出エジプト3：13（モーセ）、士師記13：17（マノア）、
詩編80：19（命）、105：1（感謝）、116：17（感謝）、
イザヤ42：8（わたしは主）

- ・相手から名前を呼ばれるとどんな気持ちになるでしょう。先生や他の大人と「下の名前」で呼び合ってみましょう。

2月13日 マタイによる福音書12章22～32節（カテキズム問91）【解説と黙想】

主の祈り・御国を求める祈り

・テキストの解説

マタイ12章22節以下に記されている、悪霊追放と、目の見えない人と、口の利けない人の癒しは、イザヤ書35章5節の預言の成就にあたる。これらの奇跡は、神の国が主イエスにおいて既に始まったという証拠である。来るべき永遠の神の国が、主イエスにおいて今、既に来ている。その具体的な出来事として、奇跡が起きている。28節の「神の霊で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ている」とは、主イエスによる神の国の到来の自己承認。

人々は主イエスを「ダビデの子」即ち、ユダヤ人の待望したメシアではないかと言った。しかし、ファリサイ派の人々は、聖なる神の癒しの奇跡を目の当たりにしながら、それを悪霊の頭の力に帰する。主イエスは、そのような批判を、聖霊に言い逆らう者の、ゆるされない冒涇の罪であると、指摘される。

・教理問答による解説

ウェストミンスター小教理問答は、主の祈りの第二の祈願である「御国を求める祈り」を「サタンの国が滅ぼされるように」、「恵みの王国が進展させられるように」、「私たちが他の人も入れられ、守られるように」、そして「栄光の国がすみやかに来る」というように説明している。御国と神の国は同じことを指しており、神が恵みをもって、王として支配される国である。御国は主イエス・キリストの贖いの御業（恩恵の契約）

によって回復し、拡大、進展して行っている恩恵の王国である。そして、終末において栄光の王国として完成する。即ち、既に来ている側面と、やがて来る側面を持つ。

また、御国（＝神の国）は、主イエスの十字架の贖いの御業と復活の勝利、聖霊による有効召命によって、私たちに回心させ、私たちの心の内に実現してもいる。そして、主イエスを信じる人たちを通して、御国（＝神の国）は進展し、建設されていく。そして、主イエスの再臨の時、即ち、終末において、完全な裁きがなされ、罪が完全に取り去られ、栄光の王国が到来するとき完成する。今は、完成途上にある。

子どもと親のカテキズム問91は、第二の祈願を、教会論的に捉え説明している。即ち、教会と私たちが、神さまの御言葉と聖霊によって支配されるように、福音宣教と愛の業を通して神さまの支配が広められ、再臨の時、完成されるようにと祈るのだと説明している。

・メッセージ

御名を崇め、神さまの栄光のために私たちが生きる中で、御国は拡大する。私たちは、恩恵の手段である御言葉と礼典と祈りを通して、成長させられる。御国の実現は、神さまの永遠の御計画と限りない力によって為される。しかし、私たちが、永遠の御国の建設に共に参加させて頂けるようにされている。私たちの小さな働きを通して、恵みに満ちた御国を実現してください。

（袴田清子）

《参照聖句》 マタイ福音書6章10節、ヨハネの黙示録11章15節、21章1～4節、22章5節。

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問102、ハイデルベルク信仰問答問123

2月13日 マタイによる福音書12章22～32節

【説教展開例】

主の祈り・御国を求める祈り

◇..... 単元のねらい◇

世界に神さまの支配が及ぶように祈る。

「御国が来ますように」

私たちは、主イエスが教えてくださった主の祈りの中で第二の願いとして、「御国を来たらせたまえ」と祈るように教えられています。

「御国」とは何でしょうか。「御国」とは、神さまの国のことです。神さまが王さまとして治められる国のことです。「神の国」とも言います。

それでは、「御国を来たらせたまえ」と祈るとき、どういうことを祈っているのでしょうか。

第一に、神さまに反対する悪魔の国が滅ぼされるようにと祈っているのです。

聖書に、このようなお話が書かれています。あるとき、主イエスのところに、悪霊に取りつかれて目が見えず、口の利けない人が連れて来られました。主イエスは悪霊を追い出し、その人を癒されました。主イエスに敵対していたファリサイ派の人わたしは、悪霊の頭の方で悪霊を追い出しているのだと、悪口を言いました。

それに対して、主イエスは、言われました「わたしは悪霊を追い出していますが、それは、神の霊で追い出しているのです。神の霊で追い出しているのなら、わたしによって神の国は、あなたたちのところに来ているのです」。

主イエスが来られたということは、神の国、神さまの王国が来たということなのです。悪魔は、主イエスには勝つことはできません。そして、主イエスは終わりの時に悪魔を完全に滅ぼされます。

第二に、「御国を来たらせたまえ」と祈るとき、神さまの恵みの王国が大きくなり、私たちも、他の人も神さまの国に入れられ、守られるようにと祈っているのです。

主イエスは、御自分が十字架に掛かることを通して、私たちの罪の罰と呪いを取り去ってくださいました。主イエスによって、私たちは神さまとの関係が回復され、主イエスを信じることで、私たちは、神さまの子どもにして頂きました。主イエスは聖霊を送り、私たちを助けてくださいます。

神さまは、私たちが恵みの王国において守られるように、主の日ごとに私たちを集め、御言葉を聞かせてくださいます。そして、教会の交わりに加え、礼典（洗礼と聖餐式）をもって養い、礼拝と祈りにおいて、御国の祝福の前味を味わわせてくださいます。

私たちは、この祝福に、自分わたしだけでなく、他の人々も入れられ、その中で守られるように、また、教会が神さまによって保たれ、進展するように祈るのです。

そして、第三に「御国をきたらせたまえ」で私たちは、栄光の神さまの国が早く来ますようにと祈っているのです。終わりの日にならないと、神さまに背く全ての悪しきものが討ち滅ぼされることはありません。しかし、終わりの日には神さまの正しい裁きがなされ、悪魔は完全に滅ぼされ、完全に罪が取り除かれた、栄光に輝く神さまの御国が到来します。その日が早く来ますようにと祈るのです。栄光の御国では、神さまが全ての全てとなられ、神さまの支配が、全ての全てに及びます。命に満ち、正義と愛に満ちた、罪のない、神さまの御国が完成するのです。

神さまの御国は、主イエスが再臨される終末の時に、完全な形でやって来ます。しかし、今はまだ、途中です。しかし、私たちは、ただじっと待っているというだけではありません。待っている間、私たちは、主イエスに従うことを通して御国を進展させるという面があるのです。どうしたら、そんなことができるのでしょうか。

神さまの御名を崇め、神さまの栄光のために生きる人々によって、神さまの御国は拡がります。もちろん、私たちが自分の力で、それができるといえるものではありません。

神さまの恵みによって、御言葉と聖霊によって導かれ、助けられて、この働きができるようにされるのです。御言葉と聖霊によって、罪の性質がきよめられて、少しずつですが、神さまに喜ばれるように変えられます。神さまの愛を頂き、神さまの力を頂き、神さまからの様々な賜物を受けて、聖霊なる神さまの助けによって、神さまに喜ばれることを願うようになります。そのことによって御国が進展するのです。

私たちの僅かな小さな愛の業も、神さまの御国のために用いてくださいます。神さまを愛し、隣人を自分自身のように愛する思い、そして愛の業によって、また、福音を伝えることを通して、私たちは、神さまの御国を建て上げる働きに参加させて頂けるのです。そして、御国が来ますようにと祈ることは、世界に神さまの支配が及ぶように祈ることまで拡がります。世界は主イエスのものだからです。特に世界中が大変な時には、私たちが祈らなくてはなりません。主イエスは、私たちがそのように、祈ることを喜んでくださいます。感謝に満ちて、心から「御国が来ますように」と祈り、主に従いましょう。(袴田清子)

《今週の暗唱聖句》

神の国はあなたたちのところに来ているのだ。(マタイによる福音書12章28節)

2月13日 マタイによる福音書12章22～32節

【分級展開例A】

主の祈り・御国を求める祈り

歓迎を伝え、子どもの様子を知る

挨拶：声をかけ輪になって集まる。挨拶の歌（11月7日展開例A参照）をみんなで歌う。

お祈り：短く感謝と分級のためのお祈りをする。

小さな子どもたちも神さまの御言葉と霊の支配の中にある平安なときと、悪い霊の支配が強い中にある不安や恐れ、不穏な空気を日常生活の中で肌で感じているのではないかと思います。そんな中で子どもたち自身が、この「御国をきたらせたまえ」との祈りを通し、教会と私たち一人一人が神さまの御言葉と神さまの霊によって支配されるよう共に祈り求めることへと導く。

対話

（準備） 分級の子どもたちを覚えて祈り、テキスト・黙想・説教展開例などを読んで、このことだけは伝えようと思うことをまとめておく。（1ポイントに絞る）

当日、説教者のお話を聞きながら、いくつかの質問を用意する。

用意した質問をし、応答しながら、いちばん届けたいメッセージを確認し届ける。

その子が理解し、受け取れる言葉を選ぶ。

ワーク

例1：（準備） 聖書からイエスさまの言葉（例えば、「あなたがたに平和があるように」ヨハネ20：19、「御国が来ますように」マタイ6：10）子どもたちにも分かりやすい言葉を抜き出しカード（白い紙）を作っておく。色画用紙と可愛いシールなどを用意しておく。

それぞれ、子どもたちが自分の好きな言葉を選んで色画用紙にその御言葉を書いた紙を貼る。シールを貼るなどして飾りつける。

例2：家や園で気になること、怖いとか嫌だなとか（けんかをしている友だちがいるとか、嫌なことを言ったり、したりするお友だちがいるなど……）思っていることがあったら、それを話してもらい、その気持ちを受けとめつつ、どうなることを願っているか聞いたりしながら、祈りに導く。

終わりのお祈り

天のお父さま、いつも私たちの心を神さまの御言葉と神さまの善い霊で包んでください。大好きな家族や教会の人たち、お友だち、また世界中の人たちにも神さまの御国が来ますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

2月13日 マタイによる福音書12章22～32節

【分級展開例B】

主の祈り・御国を求める祈り

【本日の学び】 前半第2祈願 「御国をきたらせたまえ」

【今日の聖書箇所から】

Q：イエスさまの業を見た時の登場人物の反応は？

A：イエスさまに癒された人 ～喜んだ
 群衆 ～驚いた、感動した、喜んだ
 ファリサイ派の人々 ～文句を言った、攻撃した、いいがかり、
 これはようするに「ねたみ」

「悪霊を追い出せたのはイエスが悪霊でそのトップだから。

聖霊の力で追い出せたのではない」

「悪霊同士の内輪もめだから頭のイエスが勝つのは当たり前だ」

この言い方こそが、悪霊の仕業。

人々を惑わし、イエスさまの業を見てもねたむだけで、神の国を信じない。

しかも、聖霊をののしっている。

人々を罪の中に引き戻すはたらきを失ってしまっている。

ねたみは罪。罪ある人間はこのなかにどうしても引き込まれていく。

【子どもたちの質問から】

Q：天国（神の国、御国）は、ぼくたちが行くんじゃないかってここまで来るの？

呼んだらむこうから来てくれるの？

A：神の国＝神のご支配 のこと

☆今日のお祈りの意味は、短いけれど3つの意味が込められています。

一つは、天国＝終わりの時。イエスさまが再び来られる完成の時を待ち祈ること。

二つは、神さまがすべてを支配しておられるのですから、人間のこの世の苦しみや悲しみや悪いものも取り去ってくださいと祈ります。

三つは、神さまのことばをきいて信じて生活している私たちは、将来だけでなく、いますでに神さまがはたらいてくださっていること、良いものや安らぎや喜びを与えてくださることも知っています。ですからさらに、いまこの世でも神さまのご支配がますます広がり、恵みと慈しみが増していきますようにと祈るのです。

2月13日 マタイによる福音書 12章22～32節

【分級展開例C】

主の祈り・御国を求める祈り

現代の私たちは、国の主権者は一人一人の国民であると言うのが原則です。また「自己決定権」すなわち、自分の生き方や生活について、他者からの干渉を受けることなく自らの事について決定を下すことができる権利が、基本的人権の要素と考えるのが今日の標準的な考え方です。その中で「御言葉と聖霊によって支配されるように」と自分以外の存在に自分が支配されることを祈ることは時代錯誤的に感じるかもしれません。

私たちが神さまの支配を必要とするのには大きく二つの理由があります。第一は、私たち人間が、救われてもなお罪の影響を受けており、自分だけの判断と能力では自分自身においても、対人対社会関係においても「善い」選択をすることができないことです（「子どもと親のカテキズム」問20～24）。第二の理由は、神の支配は強権的な人の自由意志を抑圧するものではなく、むしろ人の意思を包み込み、それを用いて、人自身が願う以上に善い、ふさわしいものとし、完成まで導いてくださる「愛の支配」であることです（問25～28、35～39）。神さまの力と愛を前提にすることが必要です。

考えてみましょう

- ・主の祈りで願う「御国」は、「神の国」「神の王国」「神の支配」のことです。この言葉からどんな印象を持つでしょうか。
- ・神さまの王国で暮らす生活はどんなものだと思いますか。何が良いところでしょうか。
- ・御国が広がるために、私たちはどんなことをしたら良いと思いますか。

2月20日 ローマの信徒への手紙12章1～2節(カテキズム問92)【解説と黙想】

主の祈り・御心を求める祈り

子どもと親のカテキズム問92は主の祈りの第三の願いである御心を求める祈りについて教えています。

問92「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」とあり、答のはじめに「天においては神さまの御心が完全に支配しているように、地においても、すべてのことにおいて神さまの御心が支配するように祈り求めます」と書かれています。

天の父なる神は、私たちを天と地を創造され、人間をお創りになられたお方で、その支配者であります。その神の御心は、完全に実現している天におけるように、地上においても実現していきます。

つまり私たち人間に働きかけ、私たちの間で、私たちの中で実現していきます。それゆえ私たちはすべてのことにおいて、神の御心がこの地を支配するように祈り求めます。

神の御心と言われると、私たちにとって何か遠くかなたになる雲をつかむようなもの、地の深いところに隠されているものであるように思われるかもしれません。

子どもと親のカテキズム問56、57を見ると問56「神さまの子どもとされ、神さまと共に歩む私たちに、神さまが求めておられることは何ですか」と問い、感謝のうちに神と人とを愛し、祈りつつ歩むのです、と答え、さらに問57でそれをどのようにして知ることができるか、という問いに、「聖書を通してです」と答えます。

つまり神の御心は、雲のようなものでは

なく、神のみ言葉においてはっきりと私たちに伝えられているというのです。神の御心を祈ることは、み言葉を丁寧に熱心に聞き続けていくこととセットにして考えなければなりません。

そして問92の答えの続きに「また、神さまの子どもである私たちは、御心に聞き従い、喜んで神さまのお役に立てるように祈ります」とここに「従う」「お役に立つ」とありますように、神に全く服従する姿勢が教えられています。

み言葉は聞いて終わりではなく、どう生活に結びついていくかが大切です。しかししばしば私たちは神に対して従い、服従するという点において不十分、不徹底であることがあるかもしれません。神の御心を第一とすると言いながら、神の御心ではなく自分の思い通りに生きようとする私たちであります。

まず私たちは主イエスの十字架を信じ、罪の支配から解放され、神の恵みの御支配のもとで、古き人から新しい人へと変えられたことをしっかりと心に留めなければなりません。その上でみ言葉に聞き、神に従い、お役に立つことができるように、御心を祈り求めたいと思います。

「求めよ、そうすれば与えられる」と主イエスは祈りの心を教えてくださいました、神に心から信頼しながら、私たちのわがままではなく、神の御心のままに生きることができるように、心から祈り求めていきましょう。(國安 光)

《参照聖句》 ペテロの手紙一3章22節、ヨハネの手紙一5章14～15節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問103、ハイデルベルク信仰問答問124

2月20日 ローマの信徒への手紙12章1～2節

【説教展開例】

主の祈り・御心を求める祈り

◇..... 単元のねらい◇

イエスさまを信じ従う人は、古い生き方から新しい生き方に変えられたことを覚え、自分のわがままな思いではなくて、神さまの願われることを祈り求めることが大切である。子どもたちが、神さまに愛されていることを信じながら、イエスさまの姿に倣って神さまの御心を祈り求める、聖なる者として歩むことができるように励ます。

「御心を待つ祈り」

古いものから新しいものへ

先週、わたしは新しい靴を買いました。とても履き心地がよくて、気に入っています。前に履いていた靴が古くなって穴が開いてしまったので、新しいのに買い替えなければなりません。

新しい靴を買ったら、もう古い靴は脱がなければなりません。古い靴を履いたまま、新しい靴を履く人はいないです。私たちの生活の中にも、これと同じように言えることがたくさんあるのではないのでしょうか。

古いものを処分して、新しいものを取り入れる。前のことが終わって、次に新しいことが始まる。赤ちゃんはハイハイを覚えて、その次に立ち上がって歩くようになります。同じように、みなさんも一年ずつ学年が上がっていきます。

神さまと私たちとのつながりも、このように言えると思います。神さまを信じて、従って生きようとしたとき、古い自分を捨てて、新しくなるのです。生まれ変わったように、よくないことや間違った考えを捨てて、神さまに喜ばれることをするように心がけるようになります。

今日読んだみ言葉でこのように言われて

いる通りです。「あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかわきまえるようになりなさい」(ローマ12:2)。

救いを与える神さまの御心

今日学んでいる主の祈りの第三の願い「御心の天にあるごとく地にもなさせ給え」というお祈りは、新しくされた人の祈りであり、私たちが生活の中で神さまの御心に従って生きることができるよう、願い求める祈りです。

では神さまの御心って何でしょうか？何を神さまは願っていらっしゃるのでしょうか？一つは私たちの救いです。イエスさまはたとえ話をなさいました。「ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。はっきり言うておくが、もし、それを見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう」(マタイ18:12～13)。

イエスさまは、神さまを羊飼いのような方だとおっしゃいます。神さまは迷っていない九十九匹についてより、一匹がご自分のもとに戻って来るなら、それを喜んでくださるというのです。

自分のわがままばかりを求めてしまう私たちは迷える羊です。そのような私たちのために神さまはイエスさまを送って、十字架にかけてまで救ってくださいました。神さまはそれほどに私たちの救いを熱心に願っておられます。神さまの救いが私たちに染みわたるように、「御心の天にあるごとく地にもなさせ給え」と祈りなさい、とイエスさまは教えてくださいました。そのことを覚えて祈りましょう。

自分を差し出す祈り

それからもう一つ御心について、神さまに自分を差し出すということを知りたいと思います。イエスさまからそのことを教えられる。イエスさまは十字架におかかになる前に、ゲツセマネで祈られたときに、汗を流しながら、「苦しいのです、できることならわたしをお救いください。でもわたしの願いではなく、あなたの願い通りになりますように」こうお祈りなさいました。

イエスさまは自分の願い通りになりますように、ではなくて、ご自分をささげながら神さまがおっしゃる通りに、その願いをわたしが行うことができますようにお祈りしました。神さまの思いに自分を合わせていかれたのです。イエスさまのように私たちも自分をささげて、神さまの思いを行うことができるよう祈りたいと思います。

聖なる者となることを願う

そのときに神さまの思いとはどのようなものを理解しておくことが大切です。神さまは私たちがだんだんと聖なる者となっていくことを求めておられます。「実に、神の御心は、あなたがたが聖なる者となることです」(テサロニケ一4:3)とみ言葉にあります。

聖なる者となるというのは、イエスさまが歩まれたように神さまを愛し、人を愛して生きる者となる、ということです。実際はなかなか難しい、自分は聖なる者にならない、中にはそう思ってしまう人もいるかもしれません。

でもイエスさまはそのような私たちを知っていてくださる方として、大丈夫、聖なる者となれるから、祈ってみるように、招いてくださっています。できるかできないか、なれるかなれないか、自分で決めないで、あきらめないで、神さまはあなたを愛してくださっているのだから、神さまに信頼して、神さまの願われるように歩みたいのです、そうやって祈ってみる。その祈りは聞かれるから、祈ってみる。そうイエスさまは私たちに呼びかけてくださいます。

心から願い求める

さっきイエスさまのゲツセマネの祈りの話をしました。この場面を見ると、実はイエスさまが「御心が行われますように」と三回祈っておられます。最初の祈りでは、「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに」。正直な思いと一緒に、御心に従いたいということイエスさまは祈られました。

二度目に、「父よ、わたしが飲まないかぎり、この杯が過ぎ去らないのでしたら、あなたの御心が行われますように」。ここでは自分の願いではなく、神さまの願うことを願います、と祈られます。そして三度目に「御心が行われますように」とまた同じ言葉で祈られました。

どうしてイエスさまは何度も神さまの願いどおりのことを祈ります、と祈られたのかというと、イエスさまはそれほどに神さまにすがっておられたからです。十字架に進む道はつらいし、苦しいので逃げ出したいと思うけれど、でも神さまに信頼して、すがっていたので、御心になりますようにお祈りをなされたのです。

私たちもこのイエスさまに倣いたいと思います。聖なる者になりたい、でもこんな

自分はきっとダメだ、思うかもしれませんが。自分にはできなくても、神さまにはできます。その神さまに聖なる者として歩みたいです、願いながら、どうかこのようなわたしですけれども、あなたが助けてください。失敗してしまうこともありますけれども、あなたを信頼しますので、どうか救ってください。そうやって願いながら、神さまに頼る思いを新たにさせていただきたいと思います。

神さまは羊飼いのような方です。一匹の迷える羊が自分のもとに帰って来るなら、本当に喜んでくださいます。「御心の天にあるごとく地にもなさせ給え」私たちは祈りながら、神さまの深い優しさを感じつつ、聖なる者として一步一步歩み続けていきたいと思います。 (國安 光)

《今週の暗唱聖句》

心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかわきまえるようになりなさい。

(ローマの信徒への手紙 1 2章 2節)

2月20日 ローマの信徒への手紙12章1～2節

【分級展開例A】

主の祈り・御心を求める祈り

歓迎を伝え、子どもの様子を知る

挨拶：声をかけ輪になって集まる。挨拶の歌(83号11月7日展開例A参照)をみんなで歌う。
お祈り：短く感謝と分級のためのお祈りをする。

神さまは、自分の思いにしがみつきやすい私たちを愛してくださり、自分の思いから神さまのみこころを求め、知り、喜んで従う者へとつくりかえてくださいます。そして、一人一人に固有の賜物を与え、神さまのみこころを行わせてくださいます。(天の御使いのように！)

「みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ」の祈りでは、その神さまに、すべてのことにおいて神さまのみこころが実現することを祈り求めます。どんなに小さくても、喜んで神さまのみこころに従い、自分の賜物を用いて出来る限りのことを捧げて歩めるように導く。

対話

- (準備) 分級の子どもたちを覚えて祈り、テキスト・黙想・説教展開例などを読んで、このことだけは伝えようと思うことをまとめておく。(1ポイントに絞る)
当日、説教者のお話を聞きながら、いくつかの質問を用意する。
用意した質問をし、応答しながら、いちばん届けたいメッセージを確認し届ける。
その子が理解し、受け取れる言葉を選ぶ。

ワーク

例1：(準備) ハガキ、色えんぴつなど

寒い季節です。子どもたちの身近な方で、おじいちゃんやおばあちゃん、病気でお休みのお友だちや、教会のご高齢の兄弟姉妹に絵や暖かい言葉を書いて送る。

例2：神さまのみこころ(神さまの思い)について、いっしょに考える。神さまはどんなことを願っておられるかな？ 日常生活、教会の中で、神さまの喜ばれることを確認して、自分たちに出来ることをいっしょに見つけて、実際に行く。(それぞれの賜物が生かされることを祈り、導きながら)

終わりのお祈り

天のお父さま、小さな私たちも天の御使いのように神さまの思いに喜んで従い歩めますように。ひとりひとり出来ることは違いますが、小さな私たちも神さまの思いに用いてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

2月20日 ローマの信徒への手紙12章1～2節

【分級展開例B】

主の祈り・御心を求める祈り

【本日の学び】 前半第3祈願 「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」

先週、神さまは将来だけでなくいまこのときすでに、生きてはたらいてくださっていることをききました。それでは私たちはどうなのでしょう。

イエスさまを信じて神さまの子どもにさせていただいた私たちもまた、この地上にあってイエスさまのようにはたらけるといいですね。

今日はそのような願いの祈りを学んでいきます。

【今日の聖書箇所から】

☆いけにえ：神さまへの供え物として生きているまま捧げるもの 転じて
神のためにいのちや名誉・利益を投げ捨てること
(例：創世記22：1～9 「イサク奉献」など)

☆聖なる：区別されたものとしてとっておく
「自分の体を……献げなさい」(1節)

☆正反対な二つのことばを確認しよう

(この世に) 倣う・ならう：手本として従う、まねる

(なにが神の御心か) わきまえる：見分ける、道理などを十分に心得る

☆そもそも神さまのみこころはなんだろう？ どうしたらわかる？

私たち人間には罪がじゃまをして、かんたんにわからなくなっている。
しかし、幸いなことに聖書のなかに示されている。

その意味をわかるためには聖霊の助けと導きをいただくことが必要。

神さまはお祈りをとおして私たちと対話して下さり、
ご計画をお示しになってくださる。

☆神さまのみこころを、地上に生きる私たちにもなさせてください

天では天使たちが神さまのみこころをまったく自然に行っています。

私たちも先週の第2祈願をさらに広げて、そのように喜んではたらくものになりたいと願います。この第3祈願では、

「……心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、
何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるか」(2節)

わきまえるものとなるように教えてください。

2月20日 ローマの信徒への手紙12章1～2節

【分級展開例C】

主の祈り・御心を求める祈り

神さまは全能の創造主ですから、世界の全ての存在も全ての出来事も、神さまを根拠としないものはありません。原理としては、この世界に神さまの御心によらないものはありません。しかし現実の世界には、愛と慈しみに満ちた神さまの意思とは思えない出来事もたくさんあります。この世の不条理や苦しみがなぜ存在するのかという説明は幾つかありますが、一つの説明だけで全て納得できるわけではありません。それぞれの説明の利点や意味を理解することが大切です。

考えてみましょう

- ・なぜわたしの思いではなく、まず神さまの御心を求めるのでしょうか。
- ・自分の希望と神さまの意思が違うとしたらどうしたら良いと思いますか。
- ・祈る時に自分の思いを祈ることは悪いことでしょうか。
- ・どうしたら、神さまの御心を求めるようになれるでしょうか。

2月27日 ヨハネによる福音書6章22～40節（カテキズム問93）【解説と黙想】

主の祈り・ゆだねる祈り

・「今日」、神の恵みの分与を祈り求める

今日の学びから、「主の祈り」の後半に入る。前半の3つの祈りは、「御名」「御心」「御国」を求めて祈る祈りであり、いわば、私たちの祈りは、第一に、神さまの栄光を求めて祈るものであることを教えられた。

後半の3つの祈りは、「日毎の糧」「罪の赦し」「悪の誘惑」について、弱い人間にとって必要不可欠なことを祈り求めることを教えられる。主イエス・キリストは山上の説教において、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」と命じられ、「そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」と約束された（マタイ6:33）。この「これらのもの」とは、第四の祈り、「われらの日用の糧^{かて}を今日もあたえたまえ」との「日用の糧^{かて}」（別訳「毎日のパン」）であり、それは、衣類（衣）と食事（食）と住居（住）のみならず、心身、霊肉に必要なすべてのもの、そのための平穏な生活。それらを、すべての良きものの造り主であり、人びとに分け与えてくださる、創造主なる神に、「今日」祈り求めることが教えられている。

それは、たとえすでに多くを与えられ、多くの蓄えがあったとしても、それを、毎日、正しく分け与えられた分に満足し、楽しむことを含んでいる。だからこそ、正確には「今日も」ではなく、「今日」この一日に、神が適切に良き賜物を分け与えてくださるよう、祈り求める。

・「今日」の労苦を、神に「ゆだねる祈り」

主イエスは、「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない」（ヨハネ6:35）と言われた。主の祈りの第四の祈りを学ぶにあたり、もう一つ大切なことは、この祈りは、墮落した世界のただ中における祈りであることを覚えることである。つまり、天から降って来られた御子の贖いの命をもって、信じる者たちには、ただ生きる命ではなく、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶ命、すなわち、「救いの命」が与えられること。この命を、先に贖われた者たちは、全人類の救いを祈り求めつつ、日々、労苦するのである。

この意味で、「朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である」（ヨハネ6:27）と命じられていることに心を留めることが大切である。それは、出エジプトにおいて40年の間荒野でイスラエルの民に与えられた天からのマンナにまさって、朽ちる体に与えられる永遠の命、キリストに至る「福音の真理」のため忠実に生きることに尽くすことである。「今日」、御子の贖いによる、真の平和を求め、「御手に労苦と悩みをゆだねる」（詩編10:14）祈りを、心を尽くして、全能の神、「主」にささげたい。（宮武輝彦）

【参照聖句】 申命記8章3、17、18節、詩編10編14節、37編11節、95編7節、詩編127編1、2節、箴言30章8節、マタイによる福音書6章11、24～34節、ルカによる福音書12章16～34節、テサロニケの信徒への手紙2章10～13節、ヘブライ人への手紙3章7、8節

【教理問答】 ウェストミンスター小教理問答問104、ハイデルベルク信仰問答問125、ジュネーブ教会信仰問答問275～279、ウェストミンスター大教理問答問193

2月27日 ヨハネによる福音書6章22～40節

【説教展開例】

主の祈り・ゆだねる祈り

◇..... 単元のねらい◇

- ①「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」との一つ一つの言葉の意味を確認することから始める。
- ②どうして、私たちが、毎日、神さまの与えてくださる「食べ物」を求めて祈らねばならないのを子どもたちといっしょに考える。ただし、日常的に、孤食、過食、拒食の子等には配慮すること。
- ③「食べ物」だけでなく、私たちに神さまが与えてくださっている「良きもの」が何であるかに心を留めて、自分たちの必要のためだけでなく、人々が平和に暮らせるように祈る。
- ④イエスさまが「天からの命のパン」としてご自身の命を与えてくださったことを信じる。

「天からの命のパン、イエスさまにゆだねて」

イエスさまが、弟子たちに教えてくださった「主の祈り」を学んできました。今日は、4つ目の「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」です。これまでの3つのお祈り、1つ目、「天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあがめさせたまえ」、2つ目、「み国を来たらせたまえ」そして、3つ目、「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」とのお祈りを学んできました、最初の3つの祈りで、私たちは、神さまの名、国、こころのことを祈り求めることを教えられました。

それは、私たちが、自分の願いごとを一番にするのではなくて、神さまのこころ、みこころを一番にしてお祈りすることを教えています。

そして、4つ目のお祈りでは、「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」と教えてくださっています。そして、5つ目、6つ目のお祈りでは、「我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ」、「我らをこころみにあわせず、悪よ

り救い出したまえ」と教えられています。

「我ら」とは、「私たち」ですね。「私たちの日用の糧」「私たちに罪を犯す者」そして、「私たちをこころみにあわせないように」と、私たちにとって大切なお祈りを教えてくださいました。

それでは、「私たちの日用の糧」とは何でしょうか。この「日用」という言葉は、「にちようび日曜日」の「にちようにちよう」ではなく、「にちようひん日用品」の「にちようにちよう」という意味です。

日用品というと、たとえば、お皿や、おはし、コップ、下着や、着物、歯ブラシ、歯磨き粉、石鹸、シャンプーなどなど、毎日の生活にかかせないものです。

そして、「かて糧」とは、もともと、「パン」のことで、「食べ物」のことです。

つまり、イエスさまは、毎日、食べ物だけでなく、欠かせないものを、神さまに祈り求めるように教えてくださったのです。

それは、神さまが、すべての良いものを造られた方であることを忘れないためです。そうでなければ、私たちは、おなかいっ

ばいたべて満足することがあっても、神さまに感謝することをしないと、本当に、よく学んだり、よくお手伝いしたいしたり、よく助けたりすることができませんね。

また、他の人とくらべて、もっとよいもの、もっと高いもの、もっとすごいもの、と求めていくと、お友だちに、自慢することばかりがふえても、こころは満たされることはないのですね。

そのように、神さまがつくられたものは、全部よいものですが、それを神さまが与えてくださった神さまに一つ一つ感謝するときに、私たちは、コップの水一杯でも、お茶碗一杯でも、お魚一匹でも、本当に、よくあじわって、おいしく、神さまに感謝をささげることができるようにかえられていきます。

ところで、みなさんは、戦争中のことを、だれかに聞いたり、何かで見たことがありますか。毎日、お芋ばかり食べたり、麦飯ばかりを食べたりしていたそうですね。今、高級レストランで食べるようなフルコースの食事は、中世のヨーロッパの王さまよりも、ぜいたくな食事だそうですよ。

世界の裕福な国では、毎日、食べ残しがたくさんでています。一方で、毎日、食べ物がなくて飢えている人たちがいます。子どもたちも飢えて亡くなっています。

このように、毎日、一食、一食、適切な食べ物を大切にいただくことは、とても大切な習慣であるだけでなく、世界の平和と関係があります。

世界の人々にまんべんなく食べ物がいきわたって、毎日、同じように食事ができればよいのですが、悲しいことに、戦争があったり、また、貧富の差があったり、して、そのようになっていないのですね。

ですから、私たちが、「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」とのお祈りは、毎日、あたりまえのように食べられている時には、なかなかその本当の意味がわからないかもしれませんが、本当に、神さまが、毎日、一食一食を与えてくださっていると信じる時、感謝があふれてくること、そして、自分たちのことだけでなく、色々な理由で、食べることができない子どもたち、世界の人々のことにも、目を向けられるように、お祈りすることも大切にしたいですね。

イエスさまは、食べ物だけでなく、すべての良いものを私たちに与えてくださっています。そして、今日読んだ聖書の言葉で、イエスさまはこのように言われました。「はっきり言うておく。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ。朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくなる命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。父である神が、人の子を認証されたからである」。

また、「はっきり言うておく。モーセが天からのパンをあなたがたに与えたのではなく、わたしの父が天からのまことのパンをお与えになる」「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない」。「神のパンは、天から降って来て、世に命を与えるものである」と約束してくださいました。

このイエスさまの言葉は、「永遠の命に至る食べ物のために働きなさい」と命じます。それは、神さまの栄光のためにお祈りすることよりも、自分の欲を満たすために

願い事をしがちな「罪人」^{つみびと}にとって、本当になくてならないものを教えています。それは、いつもイエスさまといっしょに生きること、「永遠の命」です。この「命」をいただいて生きることができるために、イエスさまは、ご自身の「命」を十字架の上になげうってください、身代わりの死をなしてあげてくださいました。そして、十字架の死から三日目に復活してくださいました。

十字架の上にささげられたイエスさまの「命」を信じる時、私たちは、自分の「命」を、「救われた命」としてイエスさまにおゆだねします。それは、イエスさまの「命」を引き換えに与えられた「新しい命」であ

るからです。

教会の礼拝で守られている「聖餐式」^{せいさんしき}は、このイエスさまの「命」を「パン」と「杯」によってしめしています。それは、たとえ、わずかな、「パン」と「ぶどう汁（酒）」であっても、イエスさまが、どんな時も、私たちといっしょにおられ、すべての良いものをもって養っておられること、そして、救いの命を信じることを大切することに導かれる「礼典」^{れいてん}です。教会でも、お家でも、イエスさまの与えてくださっている良いものと、救いと、命を大切にして、一日一日、神さまの栄光と私たち、世界の人々のためにお祈りしましょう。 (宮武輝彦)

《今週の暗唱聖句》

イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない」

(ヨハネによる福音書6章35節)

2月27日 ヨハネによる福音書6章22～40節

【分級展開例 A】

主の祈り・ゆだねる祈り

歓迎を伝え、子どもの様子を知る

挨拶：声をかけ輪になって集まる。挨拶の歌（83号11月7日展開例A参照）をみんなで歌う。

お祈り：短く感謝と分級のためのお祈りをする。

神さまは、私たちの必要と思ひ煩いをよくご存じです。肉体的な必要もよく知っています。だからこそ、憐れみ深いご配慮をもってこの「日用の糧を今日も与えたまえ」の祈りを与えてくださいました。1日1日、私たちの身も心も養ってくださる天の父の愛（マタイによる福音書6章25～34節）に信頼して、この祈りを日々祈り、神さまの子どもらしく、神さまから与えられている正当な分を感謝して受け、神さまの祝福を喜び楽しんで歩むよう導く。

対話

（準備）分級の子どもたちを覚えて祈り、テキスト・黙想・説教展開例などを読んで、このことだけは伝えようと思うことをまとめておく。（1ポイントに絞る）

当日、説教者のお話を聞きながら、いくつかの質問を用意する。

用意した質問をし、応答しながら、いちばん届けたいメッセージを確認し届ける。

その子が理解し、受け取れる言葉を選ぶ。

ワーク

例1：（準備）①人の形を書いた白い紙、②画用紙、ペンや色えんぴつなど、のり、はさみ

①に髪の毛や目鼻口など自分の顔を書き、服を書いたり、靴を描いたりする。それを切り取り、画用紙に貼る。周りに、自分に与えられているもの、毎日生きていくために必要なもの、持っていて嬉しいもの、喜びや楽しみを与えてくれる人やもの（お友だちやおもちゃ、絵本など）をいっしょに思い出して描いていく。

例2：何か心配事があるか聞いて、もしあれば、いっしょにそのことをお祈りをする。

終わりのお祈り

天のお父さま、いっしょに生きる家族や教会、そしてお友だち、住む家や、食べ物、飲み物、着る服や靴、暖かいストーブも……毎日、たくさんの恵みを与えてくださりありがとうございます。1日1日、必要なものを与えてくださる神さまに信頼してお祈りし、心配しないで神さまの恵みの中を歩ませてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

2月27日 ヨハネによる福音書6章22～40節

【分級展開例B】

主の祈り・ゆだねる祈り

【本日の学び】 後半第1祈願 「われらの日用の糧を今日も与えたまえ」
主の祈りの後半は、私たちの必要に関する祈り。

【今日の聖書箇所から】

A 身体（肉体）のためのパン

人は身体をもって生きている、肉体に必要なパンも神さまにちゃんとゆだねる。

B 霊的支えのパン＝みことば

Q：これはAとB、どちらのことかな？

①満腹したことでイエスさまを信じて追いかけた

「信じますから、いつもパンをちょうだい！」

→ 答え：A

②イエスさまはまことの命のパン

「わたしを信じる者は決して飢えず、決して渴かない」

神のパンは世に命を与えるもの

→ 答え：B

☆神さまはAもBも両方ともくださるお方。

神さまは私たち一人ひとりに、良いものを必要なだけ十分にくくださるお方。

神さまに信頼してゆだねることが大切、心配して欲を出す必要はない。

そうすれば隣人の命を養う分まで横取りし、むさぼりの罪を犯すこともない。

☆とくにこのお祈りは、隣人のためにも祈っていることを覚えておこう。

今日の学んだお祈りは人間の生活に必要なものをお願いする祈り、しかし

「われらの、われらを、われらに」というように、

教会に集う私たちが、自分のことだけではなく一人ひとりのみんなのために、

しかもみんなが一つとなって心をあわせて祈るところでもあるのです。

(「教会共同体の祈り」)

☆私たちは毎日の生活の中でもとすると神さまを見失ってしまい、この世の中で

ひとりぼっちになってしまったように感じることもあるかもしれません。

しかし神さまが主の祈りで教えてくださっているのは、そうではありません。

聖霊によってイエスさまに結ばれてひとつとされた私たちは、神さまのお導きに

信頼し、いただく恵みに心から感謝し、励ましあって地上の道も生きていくのです。

(参照：子どもカテキズム 問42)

2月27日 ヨハネによる福音書6章22～40節

【分級展開例C】

主の祈り・ゆだねる祈り

日々の食糧を求めるこの祈りは、私たちの祈りについて必要について、重要なことを教えます。それはどんな小さなことであっても神さまに祈り求めることができるということです。私たちは往々にして、日常のことや物質的な目に見えるものについて祈り求めるより、信仰的な課題、霊的な課題について祈ることが高尚であると考えがちです。しかし、毎日の食事について祈ることも神さまへの大切な祈りの要素です。あらゆることを祈りの内容とすることで、そのあらゆることが神さまからいただく恵みであることを自覚することができるようになります。

考えてみましょう

- ・『子どもと親のカテキズム』問88は、祈りの内容として「神さまへの賛美、感謝、私たちの罪の赦し、願いごと、他の人のためのとりなし」を挙げています。そのうち特に感謝と願いごとについて取り上げます。私たちの神さまへの願いは直ちに感謝となりますから、この二つは裏表の一つのものです（マルコ11：24参照）。
- ・私たちは祈る時、具体的にどんなことを願ったり感謝したりしていますか？
- ・具体的に祈りの中で感謝することで私たちは神さまの恵みを意識できます。どんなことを意識して祈ったら良いと思うか話し合ってみましょう。

3月6日 マタイによる福音書18章21～35節(カテキズム問94)【解説と黙想】

主の祈り・赦され、赦す祈り

・客観的はかりに立つ

主の祈りの第五の祈りは「われらに罪をおかす者をわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ」です。この祈りは私たちが罪の赦しを祈り求めることと共に、私たちも隣人の罪を赦すべきことをも含んでいます。

赦すことのむずかしさ。それは私たちのだれもが痛感していることだと思います。なぜ赦すことがむずかしいのか。それは、人はおのおの生まれながらに自己中心のなはかりを宿しており、このはかりは自分に都合のよいようにできているからです。三浦綾子さんが語っておられます。私たちは、自分のすることはいつも正しく、他人のすることはいつも悪いというはかりを持っている。この自己義認のはかりによって常に義と不義との判定をくだすゆえに、私たちは赦すことができないのです。

人は始祖アダムにあって罪に堕ち、それゆえ人が義と不義とをはかるはかりは生まれながらに曲がっています。その結果「兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、……自分の目の中の丸太に気づかない」(マタイ7:3)のです。

神は私たちに御自身の義を教え示してくださいます。そして私たちはこの神の客観的な、完全な義によって自分自身もはから

れるのだということを知ります。その時、他者と同じく自分もまた赦されなければならない罪人であることを知るに至るのです。

・十字架のもとで

主イエスは、七の七十倍までも赦せとお命じになります。途方もない命令のように思われます。しかし、この御言葉の背後にはひとつの事実があります。主イエスが十字架にかかり、私たちの罪を贖われたことです。この御業により私たちの罪は赦され、私たちのすべての負債が帳消しにされました。何よりも覚えられるべきは、この恵みの事実です。

他者の罪を赦す。それは自力によって赦すということではありません。赦しは自力ではなし得ません。神の無限の赦しの恵みをいただいて、私たちははじめて隣人の罪を赦すことができるのです。つまり、赦しは祈り求められるべきことです。おのが力を捨て、神の御手に委ねるのです。

神は主イエスの十字架の恵みによって私たちの罪を赦し、私たちと和解してくださいました。同様に、祈りによって私たちは隣人の罪を赦し、和解の恵みをいただくのです。(木下裕也)

《参照聖句》 マタイによる福音書6章12節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問105、大教理問答問194、ハイデルベルク信仰問答問126

3月6日 マタイによる福音書18章21～35節

【説教展開例】

主の祈り・赦され、赦す祈り

◇……………単元のねらい……………◇

主イエスの十字架の御業によって私たちは罪贖われ、新しい命に甦り、新しい人に造り変えられる。この恵みのもとでたがいの罪を赦し合うことにより、聖徒の交わりの祝福は現実のものとなる。赦されたゆえに、赦すことができる。主の贖いの恵みを分かち合いたい。

「十字架の恵みのもとで」

十二人の弟子のひとりであったペトロが、イエスさまに尋ねました。私たちは兄弟の罪を何回赦すべきでしょうか。七回までですか。

イエスさまはお答えになりました。七回どころか、七の七十倍までも赦しなさい。七の七十倍というのは、490回ということではありません。限りなくということです。無限に赦しなさい。

これを聞いたペトロは、とても驚いたでしょう。イエスさまはペトロだけにこのように言われたわけではありません。御自分を信じて生きるすべての人々に向けて語られたのです。私たちに向けても語られたのです。それゆえ私たちも聞き従わなければならない御言葉です。

このイエスさまの御言葉を、私たちはどのように受け止めたらよいのでしょうか。兄弟を赦すこと。他者の罪を赦すこと。それがいかにむずかしいことかを私たちのだれもが知っているでしょう。イエスさまは限りなく赦せと仰せになる。そんなことはじめからできっこない、そう思いませんか。でも、イエスさまがはじめからできっこないことをお命じになるはずはありません。この御言葉を守り行って生きる。その道を

イエスさま御自身が開いてくださっているのです。

なぜ赦すことがむずかしいのでしょうか。それは、人は生まれながらに自分中心のはかりを宿しているからです。自分のすることはいつも正しく、他人のすることはいつも悪い。そういうはかりです。人はアダムにあつて罪に墮ち、それゆえ人が正しいかどうかをはかるはかりは生まれながらに曲がっています。だから「兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、……自分の目の中の丸太に気づかない」(マタイ7:3) のです。

神さまは私たちに御自身の義を教え示してくださいませ。そして私たちは神さまのはかりによって自分もまたはかられることを知ります。その時、私たちは自分もまた赦されなければならない罪人であることを知らされるのです。

イエスさまはひとつのたとえをお語りになりました。ある家来が王に一万タラントンの借金をしていることがわかりました。一万タラントンは日本円にすると35億円で。ぼう大な金額です。家来は震えながら王の前にひれ伏し、どうか今しばらく待っ

てくださいと願いました。すると驚くべきことに、王は家来の借金を帳消しにしたのです。一円も払わなくてよいと言ったのです。

そんなことがあるのかと思いたくなります。しかし、これはただのたとえ話にとどまるものではありません。この王はまさに七の七十倍を赦したと見るができるでしょう。無限に赦したと見るができるでしょう。このたとえ話における「王」とは父なる神さまです。父なる神さまは御子イエスさまを通して、文字通りこの限りない赦しを実行して下さったのです。だれに対してでしょうか。私たちのひとりひとりに対してです。

私たちもまた、ここに出て来る家来のような者です。生まれながらの罪人です。日々罪を重ねて生きています。罪は目には見えませんが、もし日ごとの罪がすべて記録されたとすれば、それはどれほどのものになることでしょうか。ひとつひとつの罪について借用証書が書かれるとすれば、どれほどの高さに積み重なることでしょうか。そして、神さまの完全な義のはかりではかられたなら、私たちもまたこの家来のようにどうか待ってくださいとひれ伏して願うほ

かはない者です。

私たちも赦されたのです。私たちもまた、ぼう大な借金を帳消しにされたのです。イエスさまは十字架に死なれました。そのイエスさまの十字架の御業は、贖いの御業です。贖いとは、代価を支払って無罪放免することです。その者の代わりに身代金を支払って借金を帳消しにするということです。

イエスさまは仰せになります。あなたがたも限りなく赦されたのだ。だから、兄弟をも赦しなさい。ともに赦しの恵みを分かち合いなさい。赦しの恵みを分かち合うことで、あなたがたは神の大いなる恵みに生きる者となるのだ。

「主の祈り」の第五の祈りは「われらに罪をおかす者をわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ」です。兄弟の罪を赦す。これは祈り求めるべきこと、祈りによって与えられる祝福です。私たちは十字架の赦しと命の恵みの力をいただいた者たちです。イエスさまにあつて古き人を葬られ、新しい人とされたひとりひとりです。だからこそ、たがいに赦し合うことができるのです。 (木下裕也)

《今週の暗唱聖句》

わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。(マタイによる福音書6章12節)

3月6日 マタイによる福音書 18章21～35節

【分級展開例A】

主の祈り・赦され、赦す祈り

a. 展開例

分級のクラスが小学校低学年が中心であれば、bのワークをプリントにして、答えを書き込んでもらいます（その際は子どもたちのできることに合わせてルビ振り or ひらがなに直すなどの配慮を）。未就学の子中心であれば、口頭でクイズにしてみたり、選択肢を2つに減らしたりしてもOK。もっと簡素にして○×クイズ形式にしてもいいかもしれません。

答えに迷っている子がいたら、ヒントを出して正解へ導いてあげてください。今ある知識を試す質問ではなく、「神さまのことを知った」という喜びを知ってもらうためのワークです。

b. ワーク

- ①私たちの「罪」、いつゆるしてもらえるの？これだとおもうところに○をつけてね。
- ④50年神さまのために働いたらゆるしてもらえるのでがんばる（ ）
- ⑤イエスさまが十字架で死んでくださったので、もうゆるされている（ ）
- ②ともだちや家族とけんかしちゃった！どうしたらいい？ これだとおもうところに○をつけてね。
- ④ひどいやつだからゆるさなくていい（ ）
- ⑤神さまがゆるしてくださったように、ゆるす（ ）
- ③せいしょをよんで、あいているところをうめてね。
- 「わたしたちの負い目を_____ください、／わたしたちも自分に負い目のある人を
／_____ましたように」（マタイによる福音書 6章12節）

c. 解説

- ①（正解は⑤）例：罪は、「神さまに背を向けてしまう」こと。罪は、私たちの誰もが持っているものです。罪があると、神さまの国へは行けません。でもイエスさまが、みんなの身代わりに十字架で罰を受けてくださったので、私たちの罪は赦されました！なので正解は⑤。
- ②（正解は⑤）例：神さまは、ご自分に背を向ける人たちのことを赦してくださいます。なんでだろう？それは、神さまが皆のこと大好きだから。イエスさまは、同じようにみんなも人を赦しなさい、と言われます。ゆるさなくていいとはおっしゃいません。なのでこれも⑤！
- ③例：イエスさまが「こういう風にお祈りするんだよ」と教えてくれたのが「主の祈り」。その主の祈りの中で、私たちは「神さまが罪を赦してくださったように、私たちも赦すことができますように」とお祈りします。罪を赦してくださる神さまの愛に感謝して、自分も人のことを赦せますように、って。すごくひどいことをされたら、なかなか人を赦せないこともあるよね。だからこそ、私たちは何でもできる神さまに向かって、「赦せることができますように」とお祈りするんだね。

3月6日 マタイによる福音書18章21～35節

【分級展開例B】

主の祈り・赦され、赦す祈り

①分からない言葉は？

【想定される言葉とその対応】

- ・家来 貸した金 返済 借金 帳消し 承知 牢 不届き などなど……
これらは辞書的な意味を説明もしくは子どもたちに説明してもらえば良い

- ・1万タラントン・百デナリオン

聖書巻末の「度量衡および通貨」の通り

(この表が読める子どもには、自分で開いて見つけさせると良い)

日常生活と結び合わせるために、円換算の結果を教えても良い。

※1日の賃金を1万円と仮定した場合

100デナリオン=100万円

1 タラントン= 6 千万円 (100デナリオンの60倍)

10,000タラントン= 6 千億円 (100デナリオンの60万倍)

- ・憐れ：かわいそうだと思うこと。

ギリシャ語では「スプラंकニゾマイ (はらわたを引き絞られる)」

②もっと説明してほしいことは？

【想定される言葉とその対応】

- ・「七回までですか」？

ペテロは完全数である七回まで許せば十分であると考えた。

聖書の完全数は「満たされた状態」「完成された状態を示す数字」。

7日目に天地創造を完成され休まれたため。

- ・「七の七十倍」？

数え切れないほどたくさんということ

③まとめ

イエスさまは私たちに「赦しなさい」とおっしゃっています。それは私たちが神さまから赦されているからです。

3月6日 マタイによる福音書18章21～35節

【分級展開例C】

主の祈り・赦され、赦す祈り

キリスト教では時々、日常あまり使わない言葉や表記を使うことがあります。「赦す」という漢字も日常ではあまり使わない漢字かもしれません。「罪をゆるす」は「許す」ではありません。「許す」は「許可する」「自由にさせる」という意味です。私たちは罪を犯すことを許可されたり、自由に罪を犯すことができたりするわけではありません。罪はあくまで罪であり、神さまは人が罪の行いをなすのを認めることは決してありません。「赦す」は「刑罰や義務を免除する」という意味です。神さまは罪を許すことはありませんが、罪を犯した私たちを見捨てることなく、罪の当然の報いとしての私たちに与えられるはずの罰を免除してくださるのです。

この罪の赦しは決して当然のことや我々の権利ではなく、ただ驚くほどの神さまの恵みによって与えられていることをよく感じることで、私たちは私たち自身が赦す者となることができます。

考えてみましょう

- ・自分に対して罪を犯す人を赦すことができますか。(口に出さなくてもいいです)
- ・「はい」と思った人は、自分を嫌い、悪口を言ってきて、自分を傷つけるような敵となる人のことも赦せるでしょうか。
- ・自分がそのように傷つけてしまった相手に赦してもらえらとしたらどんな気持ちになるでしょう。
- ・私たちのことをそのように赦してくださるお方はどなたでしょう。(神さまですよ)

3月13日 マタイによる福音書26章36～46節(カテキズム問95)【解説と黙想】

主の祈り・神の子の勝利の祈り

・カテキズムについて

私たちは神に守られていると信じます。しかし、神の守りとは、私たちには闘いも試練もないことを意味しません。むしろ、イエス・キリストを信じて生きる時、世にあっては闘いがあります。この世はキリストの主権を認めないからです。そもそも、イエスさまは十字架につけられました。ここには闘いがあり、サタンの働きがあったと言わざるを得ません。キリストに従う私たちにも、闘いのあることを覚悟するべきでしょう。

しかし、イエス・キリストが勝利をされたこと、私たちの神が悪しき者よりも強いお方であることを覚えましょう。私たちが信仰のゆえに苦しむことがあっても、神の守りが必ずあります(コリント一10:13)。私たちは、神の助けを求めて祈ることができます。「我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」との祈りをキリストが教えてくださいました。キリストは、私たちが試みに遭うことを願ってはおられません。

このお方は、全てを治めておられるまことの王です。私たちが世にあって闘っている時、天上において執り成しておられます。ですから、私たちはキリストの助けを求めて祈ります。この方が、私たちに応えてくださいます。

・聖句の黙想

キリストの苦しみは私たちのための苦しみです。キリストは神なので、これから起こることを前もって知っておられます。そ

して神ですから、その出来事を避ける力も持っておられます。しかし救い主として、苦しみの杯を受けられます。私たちを救うためです。私たちが、同じような苦しみを受けないためです。

私たちも世にあっては闘いがあります。しかし、父なる神から見捨てられるという試練はありません。これは、イエス・キリストにだけ特有な試練です。そして、キリストにしか耐えることのできない試練です。

キリストは耐え難い試練に打ち勝たれました。「あなたの御心が行われますように」と再三祈られます。全てをご存知の方が、罪の裁きの全てを引き受けてくださいました。キリストの十字架と復活以降、もはや私たちを罪に定めるものは何も残っていません。

キリストが祈っておられるそばで、眠りこけている弟子たちの姿があります。これこそ私たちの姿と言うべきでしょう。キリストの勝利を語りつつ、聖書は私たちの姿を描き出すことも忘れていません。人の弱さを示すためです。そして、その弱さと罪のためにキリストが十字架にかかれたことを私たちが忘れないためです。

聖書が示す私たちの弱さは、イエス・キリストの救い、神の憐み深いことを思い起こさせます。神は決して、私たちの弱さをお忘れになることはありません。それは、私たちを責めるためではなく、私たちに救いを求めさせるためです。神はいつも、私たちの救いのことを気にかけてくださっています。(後登雅博)

《参照聖句》 マタイによる福音書26章41節

《教理問答》 子どもと親のカテキズム 問33、ウェストミンスター小教理問答 問26、106、ハイデルベルク信仰問答問 問127

3月13日 マタイによる福音書26章36節～46節

【説教展開例】

主の祈り・神の子の勝利の祈り

◇..... 単元のねらい◇

信仰者といえども、いや信仰者であるからこそ、世にあっては闘いがあります。しかし、私たちの闘いのあるところには、キリストの助けがあります。どんな時も、私たちの主は共にいて助けてくださることを信じましょう。どのような時も、キリストへの祈りが止むことがないようにしましょう。

「わたしのために祈られるイエスさま」

お祈りしてるかな？

おはようございます。皆さん、この一週間元気にしていましたか。みんなが喜んで生活できますようにと祈っています。

ところで、皆さんは毎日お祈りしていますか？「毎日3回お祈りしています！」ほお、それはすごいなあ。えっ？「食事の前には必ずお祈りしています！」そう、ご飯の前のお祈りも大切ですね。どうぞ、そのお祈りも続けてください。そして、食事の時や教会に来た時だけでなく、いろいろな時にお祈りしてください。今日は、イエスさまが私たちのために祈りされた時のお話です。

祈るキリスト

イエスさまが地上におられた時、よくお祈りをされました。イエスさまは一人で祈られることが多かったようです。みんなで祈ることも大切ですが、イエスさまは父なる神さまと個人的に祈る時間を大切にされていました。神さまとの深い交わりを持つためだったと思われます。

ところが、今日はペトロ、ヨハネ、ヤコブたちにも一緒に祈るようにと言われまし

た。弟子たちにも祈ってもらいたいほどに、大変なことがこれから起こるからです。

イエスさまと弟子たちが一緒に祈るのですが、本当は少し離れたところで祈られました。でも、お互いの祈りの声が聞こえるぐらいの近さだったと思われます。弟子たちに近くで祈ってもらいたいほどに、イエスさまも苦しい思いをしておられたのでした。

神さまであるイエスさまが苦しい思いをするというのですから、よっぼどのことです。一体何があったのでしょうか？ イエスさまはこれから十字架にかかるうとしておられます。イエスさまの十字架は、私たちの罪のためでしたね。私たちを罪から救うという大きなお働きのために、一生懸命お祈りをされました。イエスさまの祈りは、私たちを愛しておられるからこそその祈りと言えます。

イエスさまは祈られます。「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに」(39節)。イエスさまといえども死んでしまうのは怖かったのでしょうか。

そうではありません。イエスさまはこれから、私たちの罪を背負って十字架にかかられます。ただ殺されるのではありません。私たちの代わりに、罪の裁きを受けられます。私たちの代わりに、父なる神の怒りを受けて、神さまとの交わりから遠く離されてしまうのです。

イエスさまと父なる神さまとはいつも一緒でした。ですから、神さまから遠く離されてしまうことが、イエスさまには死ぬほどに悲しいことだったのです。

キリストの悲しみ

わたしは子どもの頃、お母さんと買い物に出かけて迷子になったことがあります。いくら探してもお母さんが見つかりません。幸い、迷子になった場所は何度も買い物に来たことのあるスーパーでした。家までの帰り道もわかっています。それで、独り泣きながらトボトボと家に帰って行きました。

イエスさまは私たち以上に、父なる神さまと強く結ばれている方です。イエスさまと父なる神さまとは一つ、と言うことができます。ところが、十字架にかかることは、父なる神さまから完全に離されてしまうことです。これは、子どもが迷子になるようなこととは比べ物にならないぐらいに悲しいことです。

イエスさまは弟子たちに言うておられました。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい」(38節)。イエスさまが「死ぬばかりに悲しい」なんて言われるのを聞いて、ビックリしてしまいます。そして、イエスさまをこれほどまでに悲しい思いにさせているのが、私たちの罪です。

イエスさまの言葉を聞いていて、わたしも悲しくなってきました。

父とキリストは一つ

イエスさまが死ぬような思いで祈っておられたそばで、弟子たちは眠ってしまいました。眠っていた弟子たちをイエスさまは起こして言われます。「誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い」(41節)。これが私たちの姿だと言わなければなりません。私たちは本当に弱いのです。イエスさまがすぐそばで祈っておられるのに、それでも眠ってしまいます。どれだけイエスさまを悲しませているか、と思います。

でもそのように眠ってしまう弟子たちを、キリストがお見捨てになることはありません。私たちの弱さも罪もご存知の方は、なおも祈り続けられます。「父よ、わたしが飲まないかぎりこの杯が過ぎ去らないのでしたら、あなたの御心が行われますように」(42節)。

イエスさまの祈りは、いつも父なる神さまの御心を求める祈りでした。父なる神さまの御心とは何でしょうか。それは、イエスさまが十字架にかかることでした。イエスさまが十字架にかかることは、私たちの罪を裁くことでした。つまり、神さまの御心とは私たちを救い、私たちに永遠の命を与えることです。そして、キリストを十字架にかけることになる父なる神さまは、イエスさまを三日目には復活させてくださいます。イエスさまが罪の裁きを受けて、死なれたままで終わることはありません。

イエスさまが父なる神さまの御心に従って十字架にかかり、父なる神さまによって死からよみがえらされました。やはり、イ

エスさまと父なる神さまとは同じ思いを持っておられます。父なる神さまもキリストも、私たちの救いを目指して御心を一つにしておられます。

私たちの救いを目指して

聖書は祈るイエスさまの姿だけでなく、眠ってしまった弟子たちの姿も描いています。どうしてでしょうか。それは、私たちの弱さと罪深さを描くためです。

そうすると、神さまは私たちの罪深いことをいつまでも忘れない御方ということでしょうか。神さまはいつまでも私たちの罪を責め続けられるのでしょうか？

そうではありません。神さまは私たちの罪深いことをご存知の上で、その罪を赦し続けてくださることを聖書は示しています。私たちはしばしば、自分の罪深いことを忘れてしまうのではないのでしょうか。あるいは神さまのことも忘れて、自分の力で

この世の闘いに勝利できるように思ってしまっているのではないのでしょうか。

神さまが私たちの罪を、弱さをお示しになるのは、私たちがいつも神さまに祈り求めるようになるためです。イエスさまの救いの御力を忘れないためです。私たちには、自分の力ではどうしようもない闘いにあうことがあります。そんな時、私たちはイエスさまの名前で祈ります。神さまからの助けをいただくためです。

皆さんは決して独りではありません。しんどい時があるかもしれません。でもそんな時にも、私たちは祈ることができます。どこにいても、何をしても、イエスさまのお名前を通して祈るなら、私たちは神さまと一緒にです。何しろ、父なる神とイエス・キリストと聖霊が、私たちの救いを願っておられるからです。キリストが私たちのために勝利されたからです。（後登雅博）

《今週の暗唱聖句》

あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。（ヨハネによる福音書16章33節）

3月13日 マタイによる福音書 26章36～46節

【分級展開例A】

主の祈り・神の子の勝利の祈り

a. 展開例

分級のクラスが小学校低学年が中心であれば、bのワークをプリントにして、答えを書き込んでもらいます（その際は子どもたちのできることに合わせてルビ振り or ひらがなに直すなどの配慮を）。未就学の子中心であれば、口頭でクイズにしてみたり、選択肢を2つに減らしたりしてもOK。もっと簡素にして○×クイズ形式にしてもいいかもしれません。

答えに迷っている子がいたら、ヒントを出して正解へ導いてあげてください。今ある知識を試す質問ではなく、「神さまのことを知った」という喜びを知ってもらうためのワークです。

b. ワーク

①せいしよをよんで、あいているところをうめてね。

「誘惑に陥らぬよう、目を覚まして_____いなさい。心は燃えても、肉体は弱い」
(マタイによる福音書 26章41節)

②私たちがわるいものから守ってくださるのは……？ これだとおもうところに○をつけてね。

① イエスさま！ () ② ぼくしせんせい！ () ③ じぶんのことはじぶんで！
()

③ 「悪」から私たちは自分で逃げられないの？ これだとおもうところに○をつけてね。

① 自分力で戦えるからへっちゃら！ ()
② 自分では逃げられない！ だから絶対に勝つ神さまを信じて祈る ()
③ 勝てるかどうかわからないからとりあえずお祈りしよう ()

c. 解説

①例：悪いものによって神さまから離れないように祈りなさい、とイエスさまは言われます。主の祈りの中でも、「我らを～悪より救い出したまえ」ってお祈りするね。なぜそう祈りなさいとイエスさまはおっしゃるんだろう？

②（正解は①）例：そうです、私たちを守ってくださるのは、イエスさま！ イエスさまは私たちの身代わりに十字架で死んで、復活なさってから天の父なる神さまの元へと行きました。天におられるイエスさまの聖霊が、私たちが神さまから引き離そうとするいろんなことから私たちを守ってくださってます！

③（正解は②）例：そうなんです、私たちは自分で悪いもの、私たちが神さまから引き離すものと戦って勝つことはできません。でも、もうだめだ、というときにこそ神さまに頼ってほしい。イエスさまは絶対に悪に勝つお方。だから、私たちは『神さまに』悪いものから救ってください、とお祈りします。勝てるかどうかわからない、なんて適当な神さまじゃないんです。イエスさまは絶対！ 勝ちます！ いやいや、もう勝ってます！

3月13日 マタイによる福音書26章36～46節【分級展開例B】

主の祈り・神の子の勝利の祈り

①分からない言葉は？

【想定される言葉とその対応】

- ・悲しみもだえる うつ伏せ（御心の）ままに 誘惑 引き渡される などなど……
- ・ゲツセマネ：地名。エルサレム東部のオリーブ山の麓
（聖書巻末の地図には掲載していないため、その他で地図を要確認）
ゲツセマネとはオリーブの油絞りという意味
- ・ゼベダイの子：ヤコブとヨハネ
- ・杯：お酒を飲む器（→②へ）
- ・御心：神さまのお考え
- ・人の子：イエスさま。イエスさまがご自身を「神の子」とであると強調する際に使われる言葉
- ・罪人たち：イエスさまを十字架にかけた人たち（ぼくたち私たちのこと）
- ・裏切る：ギリシャ語では「パラディドミ（引き渡す、見捨てるという意味）」

②もっと説明してほしいことは？

【想定される言葉とその対応】

- ・この杯：神さまの怒りの杯、十字架のこと
（イザヤ51：17～23、エレミヤ49：12、マタイ20：22）
- ・どうして寝てしまうの？：夜遅かったから。
イエスさまをずっと待っていることは難しい。

③まとめ

私たちはイエスさまのために起きていることはできないけれど、イエスさまは起きているようにおっしゃいます。試みに合わせず悪より救い出したまえと祈りながら、イエスさまを待ちましょう。

3月13日 マタイによる福音書 26章36～46節

【分級展開例C】

主の祈り・神の子の勝利の祈り

聖書は、私たちの祈りが聞かれ良いものが与えられることを教えます。イエスさまは、「祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい」（マルコ11：24）と教えます。さらに聖書は「神のなされることは皆その時になつて美しい（口語訳・伝道の書3：11）」とまて言います。私たちの意に沿わない苦しみさえも神さまの御手のうちにある良きものであることを教えます。もちろん、私たちはすぐに全てのことを神さまの恵みとして受け入れ、喜べるわけではありません。むしろそう思えないからこそ、聖書もカテキズムもそのことを繰り返し語るのです。

教会学校の大切な役割は、それぞれの祈りが聞かれた経験や、神さまの業の美しさを覚えた経験を共有することです。教会学校教師の大事な役割の一つが、そのような経験と確信を語り伝えることです。大切に伝えましょう。

考えてみましょう

- ・イエスさまはどうしてゲツセマネで祈ったのでしょうか。
- ・ゲツセマネで祈った結果、イエスさまはどうなったでしょう。またなぜそんなふうに変ったのでしょうか。
- ・祈りはどんな役割を果たすでしょう。
- ・祈った経験を話し合ってみましょう。

3月20日 歴代誌上29章10～20節（カテキズム問96）

【解説と黙想】

主の祈り・確信の祈り

・テキストの解説

この箇所は、ダビデ王が神殿建築をこれから始める時に、イスラエルの全会衆の前で主をたたえて（10節）祈る場面である。先の28章で、ダビデ自身が神殿を建てることを神はお許しにならなかった（歴代誌上28：3）。そして、ダビデの子ソロモンの時代にその神殿建築を許され、また民の繁栄を約束された（歴上28：6）。今ダビデはその神の御前で、また全会衆の前で、全ての材料、また全ての事情がいま整い、神殿建築を前に神への許可を乞い、栄光を神に帰してイスラエルの繁栄がこれによって現されることを願い祈っている。

ダビデの祈りの内容は以下の通りである。まず、彼は賛美の祈り（10～13節）から始める。彼の祈る賛美のそれは壮大なものである。そしてその中で、この度の主の祈りの中心にもなって来るワード、『国と力と栄え』が神にこそあることを誉め謳っている（11節）。

次に彼は、御前において、自身と民が何者に過ぎないかを告白して祈る（14～17節）。彼はこの箇所の祈りにおいて、徹底的に神への謙遜を表す。歴史を司り、民に全てを与えてきた創造主にして統治者に、今この告白をもって感謝を表し、栄光を神に帰している。

最後に、18節からは祈願をもって祈りを閉める。彼の願いは、ひと言で言えば神の栄光と民の繁栄である。ダビデは、自身では決して果たせない願いを神に率直に祈り、イスラエルの繁栄を願う。イスラエル

の民とソロモンの心がこれからも永遠にあなた（神）に向かうように、そしてこれから建て上げて行く神殿が主に許され、その神殿を通してあなたとの関係が豊かなものとされるようにとの願いで祈りを閉じる。

・黙想

この度のダビデの祈りは、自らの信仰の立ち位置を改めて考える機会であった。この代表祈禱は、徹底的な神賛美と共に、自らと民とを謙遜へと導き、そして自らは王にもかかわらず、有限な者に過ぎず永遠者の前にとるに足りない者と告白する。更には、イスラエルの未来の繁栄を祈り願う姿に、揺るがない神信頼と、神が必ず為し給うと確信する一信仰者としての姿を見る。ダビデの祈りを通して、王として民を愛し、これを神に委ねる潔さを見る。

この事と、この度の主の祈りの結びとを重ね合わせる時に、私たちの思いを超えた方が、時間・空間を超えて絶対者として続べ給う事への信頼と感謝を思う。ここからくる確信は揺るがない。と同時に、この方がこれからの教会とそこに集う民（子どもたちも）を顧みておられる事実を知る時に、自らが一時代の者に過ぎず、罪を担う謙遜な者にさせられる。

主の祈りの最後で、この言葉をもって神を賛美・頌栄することは、取りも直さず、「生きるも死ぬるも神に依り、すべての事は神によって帰結する」との確固たる信仰の表明に他ならない。（大木 信）

《参照聖句》 ミカ書5章1節（ヨハネ福音書7章42節）

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問107、ハイデルベルク信仰問答問128

3月20日 歴代誌上29章10節～20節

【説教展開例】

主の祈り・確信の祈り

◇..... 単元のねらい◇

主の祈りの最後の一文は、神への賛美・頌栄である。神がどの様な方か（そしてそれはイコール自分が何者に過ぎないかでもある）、神をほめたたえる中で知りたい。また、この祈りを通して神にこそ栄光を帰し、自らが永遠にこの方によって救われ養われていることの確信と喜びに導かれたい。

「神さまを信頼して祈る」

学校の方も一学年の終わりの時期となりました。「今週から春休みだ!」という学校も多いのではないかと思います。

これまで続けてきました「主の祈り」の学びも残すところ、今回と次回の2回だけになりました。今回の学びで、主の祈りのことを分かって、気持ちよく学びを終えて、新しい学年となる4月を迎えたいと思います。

さて今日お話しします聖書の箇所は、ダビデのお祈りの箇所でした。それからカテキズムの主の祈りの方は最後の一文です。最後の一文はどんな言葉だったでしょうか。もう一度見てみましょう。『国と力と栄えとはかぎりなくなんじのものなればなり』です。

ダビデさんの祈りでもそうですし、この主の祈りの最後の文章もそうですが、先生がこのところで一番印象に残ったのは神さまをほめたたえている点です。簡単に言えば、「神さま、あなたは本当に素晴らしい方です」と言葉にして表している所です。

みんなは、神さまをほめる、ほめ称える言葉としてどんな言葉が思いつきますか。

「神さまは素晴らしい」という事を表すのに、どんな言葉を使って表しますかね。例えばそれが身近な、お友だちだったり、お父さんお母さんであればどうでしょうか。お友だちのことや両親のことでほめる所がたくさん見つかるあなたは幸いですと先生は思います。それと同じように、神さまを皆さんはどんな風にほめますか。ちょっと考えてみてください。先生も色々考えてみました。例えばこんな言い方、「神さま、あなたは正直な方です。決して嘘をつかれません」こんな言い方は、たしかに神さまをほめていますね。また、こういうのはどうでしょう、「神さま、あなたは私たちを愛してくださる方です。決して嫌ったりはしない方です」これも神さまの事をほめうたった言葉ですね。或いは、「神さま、あなたはどんな事でもできる方です。全てを造ることが出来ます」これも、神さまをほめた表現ですね。他にも色々あると思いますし、みんなも色々考えてくださったらと思いますが、神さまをほめる言葉として、聖書は、どんな風に教えてくれているのか、これを知ることはとても重要です。聖書が私たちに教えている神さまと少しも違って

いない仕方で、神さまをほめる事はとても大事です。

ダビデの祈りも、そして今日の主の祈りの言葉も、聖書が教えているように神さまをほめている言葉、ほめ称えている言葉、神を賛美する言葉です。

なぜ、神さまを賛美するのでしょうか。神さまをどうしてこれ以上ない言葉で褒めるのでしょうか。何でダビデさんも、そして主の祈りの最後も、神さまをこれ以上の無い言葉で褒めているのでしょうか。なぜでしょうか。それは、その神さまによって今の自分が在るから、存在しているからです。祈る者に共通するのは、この神さま抜きでは生きていけないことをよく知っている、神を確信している、この事です。

ですからダビデさんも祈りの中で告白しています。『わたしなど何者でしょう。わたしの民など何者でしょう。すべてはあなたからいただいたもの』ですと言い、また、『この地上における私たちの人生は影のようなもので、希望はありません』、あなた、神さまが助けてくれなければ。こうダビデさんは祈ったのです。

ダビデさんは、神さまをほめる、ほめ称えるのと同時に、自分が何者なのか、どんな人に過ぎないかをお祈りの中で告白しています。これはとても大事なことです。人は神さまから造られました。神さまに守ってもらわなければ生きてはいけません。神さまが、命も食べ物も着る物も生きるに必要な全てのものを、人にお与えくださるのです。この事をダビデさん自身、よく分か

り信じていたのです。

このように考えて行けば、今日の主の祈りの言葉も同じこと言えそうです。『国と力と栄えとはかぎりなくなんじのものなればなり』と祈って、神さまをほめているのですから、それは同時に、次の事も言えると思います。それは、「わたしには、国も力も栄えも無い者です」との告白でもある、ということです。つまり、「この地上の国々も、そして天の御国も、治めておられる方はあなただけです。そして力も神さま、あなたにこそあります。わたしにその力は全くありません。また、栄え（栄光）も、神さまにこそあります。わたしには栄えなんてありません。また求めません」こういう祈りでもあるのですね。

私たちの神さまは、私たちがお祈りすることを求めておられます。そしてそれだけありません。祈る人のその祈りを導いて（執り成して）もくださいます。祈りはその意味で、神さまがおられるからこそ成立するのです。神さまに全てをお任せして、私たちは素直に祈りたいと思います。神さまを心から喜びほめたたえて祈りたいと思います。そして何より、この祈りが必ず聞かれるとの確信から祈りたいと思います。神さまを聖書からたくさん知れば、神さまをほめる言葉もたくさん与えられます。そうすればますます神さまに信頼して生きることが出来るでしょう。そんな神をほめる生き方・歩みが出来るあなたは幸いです。

（大木 信）

《今週の暗唱聖句》

主はわたしをすべての悪い業から助け出し、天にある御自分の国へ救い入れてくださいます。主に栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

（テモテへの手紙 二 4章18節）

3月20日 歴代誌上29章10～20節

【分級展開例A】

主の祈り・確信の祈り

a. 展開例

分級のクラスが小学校低学年が中心であれば、bのワークをプリントにして、答えを書き込んでもらいます（その際は子どもたちのできることに合わせてルビ振り or ひらがなに直すなどの配慮を）。未就学の子中心であれば、口頭でクイズにしてみたり、選択肢を2に減らしたりしてもOK。もっと簡素にして○×クイズ形式にしてもいいかもしれません。

答えに迷っている子がいたら、ヒントを出して正解へ導いてあげてください。今ある知識を試す質問ではなく、「神さまのことを知った」という喜びを知ってもらうためのワークです。

b. ワーク

①主の祈り、「アーメン」の前のことば。あいているところをうめてね。

「_____と_____と_____とは、かぎりなく、なんじのものなればなり」

②「かぎりなく～なればなり」、どういういみだろう？これだとおもうところに○をつけてね。

①A ずっとずっと、あなたのものです（ ）

①B もっともっと、おねがいきいてください（ ）

①C やつとやつと、ながいおいのりおわります（ ）

③なぜ、お祈りの終わりに神さまをたたえるの？これだとおもうところに○をつけてね。

③A そうしたほうがかっこいいから（ ）

③B よいものだけをくださる神さまへのかんしゃ（ ）

③C おとながそう言ってるから（ ）

c. 解説

①②（正解は①A）例：「国と力と栄え」、これはそうだね、「すべてのよいもの」といってしまおうかな。国、力、栄えというのは人が持つにはあまりにも大きいものだけれども、それはぜんぶ、神さまのもので、と神さまをたたえます。しかも、「かぎりなく」、ずっとずっと、いつまでもあなたのものです、って。

③（正解は③B）例：おいのりって、かっこいい言葉でしたほうがいいの？そうじゃないよね。心から、神さまを信じてするものです。神さまは、私たちによいものだけをくださるお方。しんどいな、ということも、私たちが神さまの方を向くためのことだったりします。神さまはみんなが神さまの方を向くことを忘れないように、いつも恵みを与えてくださるお方なんです！ 私たちはそんな神さまにお祈りをささげ、神さまに感謝して、神さまに守られていることを喜んで、「国と力と栄えは、ずっとずっとあなたのものです！」と神さまをたたえます。

3月20日 歴代誌上29章10～20節

【分級展開例B】

主の祈り・確信の祈り

①分からない言葉は？（歴代誌上29章10～11節のみ）

【想定される言葉とその対応】

- ・会衆 たたえて 世々 父祖 偉大 光輝 威光 栄光 頭 などなど……
- ・全会衆：イスラエルの民
- ・父祖イスラエル：ヤコブ
- ・天と地にあるすべてのもの：どんなものがあるか子どもたちに挙げさせる
（山、海、空、川、橋、家、学校、病院、犬、猫、お寺、道路、電車、飛行機……）

②もっと説明してほしいことは？

【想定される言葉とその対応】

- ・「国と力と栄とは限りなく汝のものなればなり」という文言はマタイ6章には書かれていないが、なぜ唱えるのか？
：キリスト教会は古代から唱え続けているから。
参照 『ただ一つの慰め』（吉田隆）
- ・威光、栄光など、なぜ似たような意味の言葉をたくさん言うの？
：ヘブライ語では同じ意味の言葉をたくさん重ねることによりその意味の強調をするからです。
「すごい」を表す言葉を自分で考えて言ってみよう。
（自分の言葉で言わせる、先生が語彙のカードを準備をする、聖書（暗唱聖句カード）の中から調べさせるなど……）
※子どもが何を言っても肯定してあげてください。

③まとめ

神さまは力あるお方です。私たちはお祈りをするとき、聖霊なる神さまからはげましをもらいます。国と力と栄とはすべて神さまのものですと賛美します。

④工作をしよう

レジンで光輝・威光・栄光を表すキラキラ・アクセサリーをつくろう。

材料：レジンの液、パレット、着色料（クレパスを削ったもの、着色液、アクリル絵の具、マニキュア）、UVライト、中に閉じ込めるキラキラのもの（ラメ、ネイル

用素材、シールなど)、台座（ミール皿もしくは空枠）

※全て百均で手に入ります

1. パレットの上に透明のレジン液を1円玉くらい出す
2. レジン液に着色料を入れ、爪楊枝で混ぜる（カラーのレジン液を使ってもよい）
3. 台座の上に2のレジン液を入れる
（ミール皿の場合、皿の上にマニキュアを塗ってから透明レジンを入れてもよい）
4. UVライトで硬化させる
5. 硬化したものの上からキラキラ封入物を入れ、上から透明のレジン液をかける
6. UVライトで硬化させる（前より長めに）
7. 固まったら出来上がり

※ UVライトがない場合

紫外線（太陽光）で固めます。

レジンに1層のみにして、礼拝時間中に室内の日の当たるところに置いておくと固まります。

3月20日 歴代誌上29章10～20節

【分級展開例C】

主の祈り・確信の祈り

主の祈りは、神さまへの呼びかけで始まり、今日のカテキズムで扱う「告白」で閉じられます。呼びかけも告白も、神さまの力と権威に対する告白を内容としています（子どもと親のカテキズム問89、1月30日分教案参照）。

神さまの権威や力や栄光は、いくら強調してもしすぎると言うことがないほどです。しかし神さまが偉い方、強い方、支配する方であると一方的に強調しすぎると、神さまとの関係が遠く、冷たいお方と感じてしまう危険があります。限りない力は、限りない愛情と不可分です。むしろ、まず神さまの愛情を信じ、神さまを深く信頼することが先行し、その上でその神さまの愛の裏付けとして権威と力と栄光を確かめていくことが必要でしょう。

ちなみに、

考えてみましょう

- ・今日の聖書箇所に出てきた人物は誰でしょう。その人はどんな人ですか？
- ・ダビデはなぜ、これほどまでに神さまに栄光を帰する必要があるのでしょうか。
- ・この祈りから、神さまとダビデはどのような関係だと感じますか。
- ・私たちと神さまはどんな関係でしょう。

3月27日 ヨハネの黙示録3章14～22節（カテキズム問97）【解説と黙想】

主の祈り・神の真実による祈り

七つの教会に宛てた手紙の七番目の手紙が、ラオディキア教会に宛てた手紙である。20節の聖句は、しばしば伝道用に用いられるが、文脈から見ると未信者に対してではなく、信者に語られている御言葉である。

ラオディキアは金融都市として発展し、大変裕福な都市であった。AD. 60～61年頃に、この地方に大地震が起こったが、ローマからの支援を全く受けず、自力で復興することが出来たのが、このラオディキアである。また、黒い羊毛の毛織物が有名で、さらに町には医療の学校があり、軟膏のような塗り薬タイプの目薬でも有名であった。一つ問題を挙げるなら、水が不足していたということだ。温泉地であるヒエラポリスから熱い水を引くために水道を引いてきたが、ラオディキアに到着すると、すっかりぬるま湯になってしまい、またコロサイでは冷たい水が湧き出る水源があったらしく、そこから冷たい水を運搬してきたが、ラオディキアに到着すると、やはりぬるくなってしまった。

14節の「アーメン」とは、「然り」「その通りです」という意味である。ギリシャ語ではアーメンという言葉（ピステイス）が、真実とか誠実という言葉に翻訳された。キリストの真実とは、神がご自身の名にかけて、ご自身の民と契約を結ばれた神であるという意味である。神のすべての約束は、キリストの中で「然り」であり「アーメン」である。

15節で「むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであってほしい」とあるが、これは主

イエスとの関係を言っているのであろう。もし主イエスとの関係が冷たいなら、周りと比べて自分の異常さに気づき悔い改めに導かれるに違いないが、なまぬるいなら、いつまでも悔い改めることができない。

18節の「精錬された金」とは、混じりけがなく、不純物のない金である。つまり信仰生活をしていく中で、苦しみや、試練を通して主によって純金のように練り清められなさいという意味であろう（詩編66：10、マラキ3：3、ペト1：6～7）。「白い衣」とは、恥を覆うためのものである。私たちは、根っからの罪人であり、神の御前に立つことのできない、恥ずかしい存在であるが、主イエスの義の衣を着せられる。「目に塗る薬」とは、霊的な盲目状態にある彼らが、本当の自分の姿を知るように、という意味である。ラオディキアは裕福であり黒い毛織物と目薬で有名だったようだが、霊の目が開かれて、いかに「自分が惨めな者、哀れな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者である」ということを知るようにという意味であろう。

それらは、全て大変高価なものだが、主イエスを通してのみ、金を払わずに買うことができる（イザ55：1～3）。なぜなら、主イエスがアーメンなるお方として、神の全ての約束が、キリストの中で成就したからである。従って、キリストは、私たちの信仰の対象となりうる。私たちは日々熱心に悔い改め、岩のような、このお方に信頼し、祈りと願いを捧げることができる（イザ65：16）。（川栄智章）

《参照聖句》 イザヤ55章1～3節、イザヤ63章16節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問107、ハイデルベルク信仰問答問129

3月27日 ヨハネの黙示録3章14～22節

【説教展開例】

主の祈り・神の真実による祈り

◇..... 単元のねらい◇

ラオディキアの人々は、表向きはいかにも祝福されているように見えるのですが、イエスさまの目からは、「惨めな者、哀れな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者」と映っていた。イエスさまはそのようなラオディキアの人々のために外で扉をたたき続けながら、ひたすら忍耐されている。今、私たちは熱心に主に仕えるために、心の扉を開けて、イエスさまを心の王座に迎え入れるようにしたい。日々、真実なるお方に、悔い改めの祈りと、願いとを捧げて、「私の願いは主の喜びとなることです」と切なる祈りを捧げる者となりたい。

「真実である方に全てを委ねる」

裕福なラオディキアの町

ラオディキアという町はとても裕福な町で、お金持ちの人がたくさん住んでいました。ラオディキアに住んでいるクリスチャンも当然、お金持ちでした。それからラオディキアには有名な名産物がありました。それは、黒い羊毛でできた毛織物と、塗り薬タイプの目薬です。そのためにローマの人々はラオディキアを訪れて、エレガントな毛織物の服を買い求めたり、目が良く見えるようになる目薬を買い求めたりしました。でも、ラオディキアにも一つ問題がありましたよ。それは水が不足しているということです。それで温泉地である北の隣町から熱い水を引くために水道を引いたり、東の隣町から冷たい飲み水を運搬したりしましたが、いずれもラオディキアに到着すると生ぬるくなってしまいました。水の問題さえ解決されれば、ラオディキアは完璧な町だったのでしょ。

実は惨めで哀れなラオディキア

このようにラオディキアという町は、裕福であり黒い毛織物と目薬で有名な町でしたが、そのようにお高くとまっているラオ

ディキアのクリスチャンに対し、イエスさまは、ヨハネの預言を通して次のように言いました。「熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしているよ」(16節)「あのね、あなた方はね、『私は金持ちだ。満ち足りている、何一つ必要な物はない』と言っているけどね、本当は惨めな者、哀れな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者だということが分からないんだね」(17節)

そんなことを言われたラオディキアの人々はびっくりしました。「え! どういうこと?」。特に、ぬるい水が、いかに不快なものかを知っていたラオディキアの人々にとって、大変痛い指摘だったと思うよ。

イエスさまは続けます。「あなたに勧めます。裕福になるように、火で精錬された金をわたしから買うがよい。裸の恥をさらさないように、身に着ける白い衣を私から買い、また、見えるようになるために、目薬を私から買うがよい」(18節)

これはどう意味かと言うと、どうやら、ラオディキアの人々はこの世と妥協して、お金のこと、毛織物や目薬の事業のことが最優先になってしまい、イエスさまのことを

切に求めなくなっていたようです。そこで三つの処方箋を与えています。①「金をイエスさまから買いなさい」とは、信仰生活の中で苦しみや試練があるけれど、主と共に乗り越えていくことによって、金のように練り清められなさいという意味だよ。たとえば、自分がイエスさまを信じていることを友だちに言うと馬鹿にされたり、損したりすることもあるよね。それでも大胆に自分がクリスチャンであることを証ししなさいということだろうね。②「恥をさらさないように、白い衣を買いなさい」というのは、私たちは根っからの罪びとであって、神さまの御前に立つことのできない恥ずかしい存在だけれども、日々イエスさまに悔い改めて、自分の罪を告白し、義の衣を着せてもらいなさいという意味だよ。クリスチャンは聖霊に満たされれば満たされるほど、自分の罪がはっきりと見えてくるんだ。③「目薬を買いなさい」とは、イエスさまがラオディキアの人々の姿を見ているように、本当の自分の姿を知るようになりなさいという意味だよ。もし心の目が開かれるなら、神さまが与えようとしている贈り物がどれほど素晴らしいものなのか、そして本当の自分の姿とは、どれほど、惨めで、哀れで、貧しく、盲目で、裸の者であったのかということを知ることができるんだ。

アーメンである方

これらのものは、ただ、イエスさまのみ与えることができる大変高価なものなんだ。いくらお金を積んでも、いくら善行を積んでも、決して得ることはできないけれど、実はここだけの話だけど、イエスさまを通して、なんと、お金を払わずに買うことができるのさ。なぜなら、イエスさまは

「アーメンである方」だからだよ。まず、この「アーメンである方」を心の王座に迎え入れなければなりません。

「アーメン」という言葉の意味を知っているお友だちはいるかな？

そうだね。アーメンとは、「然り」「その通りです」という意味だね。つまり旧約聖書に書かれたすべての神さまの預言と約束は、アーメンであられるイエスさまの中で、一つの間違ひもなく「然り」「その通りです」と、成就されたんだ。すべての約束が一つも漏れることなくだ。だから、このイエス・キリストこそ、神の言葉が本当であることの誠実で真実な証人だということが言えるのさ。イエスさまご自身が、神が不変であるということを証しし、神は決して偽ることのないお方であるということを証しているということだね。神の御言葉は、決して地に落ちることなく、ご自身の民を一人もこぼすことなく完全に救ってくださるとい意味なんだよ。

このお方が私たちの心の戸口で叩き続けておられるので、みんなは、このお方をぜひ、心の王座に迎え入れてください。そして、この岩のようなお方に信頼し、このお方に熱心に仕えていく者とさせてくださしましょう。「私の願いは、主の喜びとなることです」と真実な祈りを捧げて行く、みんなとなるようにお祈りしているよ。「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。勝利を得る者を、わたしは自分の座に共に座らせよう。わたしが勝利を得て、わたしの父と共にその玉座に着いたのと同じように」(20～21節) (川栄智章)

《今週の暗唱聖句》

見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。(ヨハネの黙示録3章20節)

3月27日 ヨハネの黙示録3章14～22節

【分級展開例A】

主の祈り・神の真実による祈り

a. 展開例

分級のクラスが小学校低学年が中心であれば、bのワークをプリントにして、答えを書き込んでもらいます（その際は子どもたちのできることに合わせてルビ振り or ひらがなに直すなどの配慮を）。未就学の子中心であれば、口頭でクイズにしてみたり、選択肢を2つに減らしたりしてもOK。もっと簡素にして○×クイズ形式にしてもいいかもしれません。

答えに迷っている子がいたら、ヒントを出して正解へ導いてあげてください。今ある知識を試す質問ではなく、「神さまのことを知った」という喜びを知ってもらうためのワークです。

b. ワーク

①せいしょをよんで、あいているところをうめてね。

「ラオディキアにある教会の天使にこう書き送れ。『_____である方、誠実で真実な証人、神に創造された万物の源である方が、次のように言われる』」

（ヨハネの黙示録3章14節）

②「アーメン」ってどういう意味？ これだとおもうところに○をつけてね。

①たべもののなまえ（ ） ②「ほんとうです」（ ） ③ただのかけごえ（ ）

③なんでおいのりのおわり「アーメン」って言うの？ これだとおもうところに○をつけてね。

①もりあげるため。わっしょい。（ ）

②おなががすいたから。めんがたべたい。（ ）

③ほんとうの神さまがおいのりを聞いてくださることを信じて言う（ ）

c. 解説

①例：ここで、ヨハネさんという人はイエスさまのことを「アーメンである方」という風に言ってます。さて、アーメンって何だ？

②（正解は②）例：アーメンは、「ほんとう」って意味。ちょっと難しい言葉で「真実です」とも言うし、「そのとおり」って意味もあるんだって。アーメンである方、つまりイエスさまは真実なお方！ じゃあその「アーメン」、なんでお祈りのおわりに言うのかな？

③（正解は③）例：私たちのお祈り、「きいてもらえるかどうかわからないなあ」というぼんやりしたものじゃありません。真実である方、たしかにいらっしゃって、私たちと共にいて、私たちのおいのりを聞いてくださる方に向かってお祈りします！ しかも、アーメンであるお方、イエスさまのお名前によってお祈りするんだよね。だから、「そのとおりになります」「ほんとうに！」という意味で「アーメン」って言うんだね。日曜学校の先生や家族やともだちのお祈りに、「そのとおりです」って気持ちでアーメン言ってみよう。

3月27日 黙示録3章14～22節

【分級展開例B】

主の祈り・神の真実による祈り

①分からない言葉は？

【想定される言葉とその対応】

- ・天使 誠実 真実 証人 創造 万物 源 などなど……
- ・ラオディキア：地名
- ・アーメン：真実です。本当です。そうであるように。確かに。よく。はっきり。

②もっと説明してほしいことは？

【想定される言葉とその対応】

- ・アーメンである方：イエスさま。真実な方。本当な方。イエスさまはアーメンである方（※黙示録3：14）なので、アーメンとわたしが唱えるとき、イエスさまのことを思い出します。
イエスさまも「アーメン」と何度も言っています（新共同訳の場合「はっきり言っておく」）

③まとめ

私たちの罪のため十字架にかかってくださった、唯一のまことの父なる神の御子であるキリスト・イエスのことを思い出しながら、祈りが聞かれると確信して「アーメン」と唱えましょう

④工作をしよう

「アーメン」と書いたプラ板づくりをしよう。

材料：百均で売られているプラ板、もしくはお弁当のプラスチックパック
マジックペン、はさみ、穴あけパンチ、紐

※百均のプラ板は「フロストタイプ」を使用すると色鉛筆でも書くことができます。

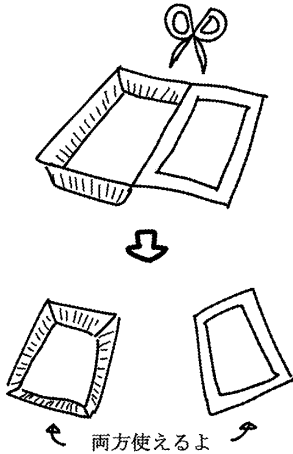
1. ハサミでプラ板を切る
2. 端に穴あけパンチで穴を空ける（焼いてからは空けられません）
3. プラ板に「アーメン（ヘブライ語：אָמֵן ギリシア語：ἀμήν Ἀμήν）」と書く。
4. 好きなように装飾する
5. オーブントースターで焼く

6. 焼けてすぐのプラ板に重石を乗せてまっすぐにする
 7. 穴に紐を通して、カバンなどに付けられるようにする
- ※ビーズを一緒に紐に通してもよい
- ※紐を通す前にレジンでコーティングしてもよい（中にラメを入れるとキラキラになります）
- ※1. 2. 5. 6の工程は危険なので大人がやってください

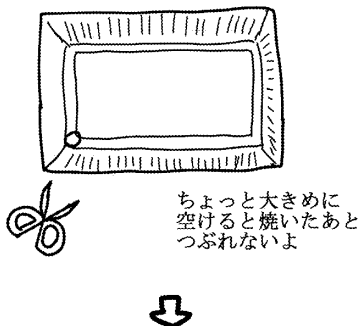
フラバン工作

用意するもの クリアパック（使い捨て弁当箱）
マジック
はさみ
オーブントースター
アルミホイル
軍手
紐もしくはキーホルダーの金具

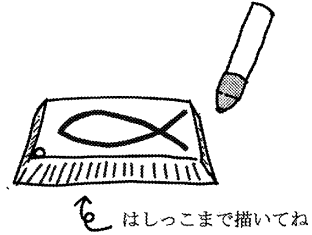
作り方 ①クリアパックを半分に切ります



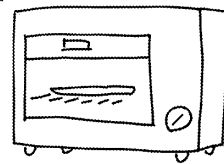
② 紐を通す穴を開けます



③ マジックで絵を描きます

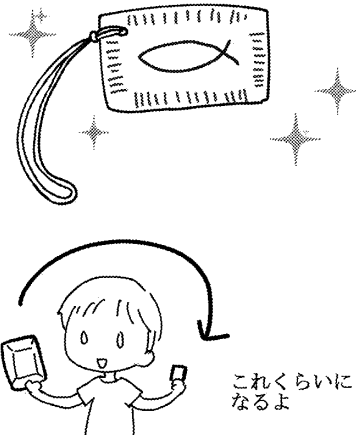


④ アルミホイルの上で作ったものをのせてオーブントースターで焼きます



焼いている途中で変な形になるけど我慢して真っ直ぐになったら外に出します

⑤ 冷ましてから紐やキーホルダーの金具をつければ できあがり！



3月27日 ヨハネの黙示録3章14～22節

【分級展開例C】

主の祈り・神の真実による祈り

「アーメン」はキリスト教の用語で最も有名な言葉かもしれません。古い時代にはキリスト教徒のことを少し揶揄した言い方で「アーメンさん」などと呼ぶこともあったそうです。クリスチャンがいつもアーメンと言うことが印象に残るのでしょうか。

本日の聖書箇所「アーメンである方」と言う表現は聖書の「アーメン」の用法でも極めて特殊なものです。他の箇所の「アーメン」は、みな律法の朗読や祈りの言葉への同意の応答です。福音書でイエスさまがイエスさまの特徴的な使い方として「アーメン、言う」という表現を多用しています。新共同訳聖書では「はっきり言うておく」と訳します。ちなみに新改訳は「まことに、まことに」、口語訳と聖書協会共同訳は「よくよく」と訳しています。これは、そこで語るイエスさまの教えが、本当に真実なものであることを強調するイエスさま独自の表現です。この表現が印象に残ったのでしょうか。キリスト者はヘブライ語を使わない異邦人キリスト者でも、祈りに対してヘブライ語（アラム語）で「アーメン」と唱和するようになりました。そしてヨハネの黙示録は、イエスさまこそ真に真実なお方であるとして、「アーメンである方」と言う表現を使ったのです。イエスさまこそ真に真実なお方です。

考えてみましょう

- ・「アーメン」や、その訳語である「はっきり（言うておく）」の使用例を確かめてみましょう。

申命記27：26 律法に対する民の同意

歴代誌上16：36 祭儀における民の応答の呼びかけ

ネヘミヤ記8：6 礼拝の聖書朗読への応答

詩編41：14、72：19、89：53、106：48 詩編の巻の区切りの頌栄

ローマの信徒への手紙1：25 神賛美の言葉への自己同意











コリントの信徒への手紙一14：16 礼拝の祈りへの同意表明

ガラテヤの信徒への手紙1：5、6：18 手紙の最初と最後の祈りへの自己同意

「はっきり言うておく」

マタイによる福音書18：18、ヨハネによる福音書10：7 他多数

- ・私たちは、祈りの時どんな気持ちで、「アーメン」と言ったら良いと思いますか。

<p style="text-align: center;">1月2日</p> <p>主は来てそこに立たれ、これまでと同じように、サムエルを呼ばれた。「サムエルよ」サムエルは答えた。「どうぞお話しください。僕は聞いております」</p> <p style="text-align: center;">【サムエル上3:10】</p> 	<p style="text-align: center;">1月9日</p> <p>このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子どもには良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。 【ルカ11:13】</p> 	<p style="text-align: center;">1月16日</p> <p>だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします。 【ヤコブ5:16】</p> 
<p style="text-align: center;">1月23日</p> <p>真夜中ごろ、パウロとシラスが賛美の歌をうたって神に祈っていると、ほかの囚人たちはこれに聞き入っていた。 【使徒16:25】</p> 	<p style="text-align: center;">1月30日</p> <p>神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。 【ヨハネ3:16】</p> <p style="text-align: center;">GOD  IS LOVE</p>	<p style="text-align: center;">2月6日</p> <p>全地は主を畏れ世界に住むものは皆、主におののく。 【詩編33:8】</p>  
<p style="text-align: center;">2月13日</p> <p>神の国はあなたたちのところに来ているのだ。 【マタイ12:28】</p> 	<p style="text-align: center;">2月20日</p> <p>心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかわきまえるようになりなさい。 【ローマ12:2】</p> 	<p style="text-align: center;">2月27日</p> <p>イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない」 【ヨハネ6:35】</p> 

3月6日

わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。 【マタイ6:12】



3月13日

あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出さない。わたしは既に世に勝っている。 【ヨハネ16:33】



3月20日

主はわたしをすべての悪い業から助け出し、天にある御自分の国へ救い入れてくださいます。主に栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

【テモテニ4:18】



3月27日

見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたし
の声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。 【黙示録3:20】



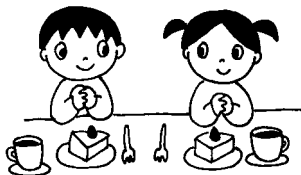
福音のためなら、
わたしは
どんなこと
でも
します



神さま
守ってください



神さま ありがとうございます



教案誌休刊後のカリキュラム提供と

過去カリキュラムまとめ (65号・2017年4月～)

教会学校教案誌は、今号をもって紙媒体での発行を休刊いたします。20年にわたるご利用を感謝します。

今後の諸教会でのカリキュラムの利用については、以下の通り計画しております。

・今号に、最新のカリキュラム表を掲載します(別記)。お手元にある教案誌を再利用する際の目安としてください。お手元に教案誌がない場合、「あとがき」ページにあります「バックナンバー問い合わせ先」にご連絡ください。

・現在、4月公開を目指して、ネットでの教案提供を準備中です。ホームページ上で既刊の教案誌全てをPDFで提供します。公開に際しては、全てのカリキュラム表に基づいて、説教展開例等を捜すことができるようにいたします。

・今後、聖書箇所や説教者名での検索ができるように計画しています。準備には労力を要します。協力者を募っています。興味がある方は大会教育委員会までご連絡ください。

次ページ以降に以下のカリキュラムを掲載しています。

- 1) 救済史に基づく一年サイクルカリキュラム (旧約聖書中心) 65号～68号
- 2) 救済史に基づく二年サイクルカリキュラム (ルカ文書中心) 69号～76号
- 3) 『子どもと親のカテキズム』に基づく二年サイクルカリキュラム 77号～今号

2017年4～6月カリキュラム（第65号）

一救済史に基づく一年サイクルカリキュラムー

月日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
		単元の目標	
4月2日 レント	創造主なる神	創世記1:1～5	創世記1:1
		天地の創造主である神は、ただお一人。創造主なる神をたたえて賛美しよう	
4月9日 受難週	十字架のキリスト	マタイ27:32～44	ヨハネ3:16
		わたしたちのために神に見捨てられて死なれた救い主キリストに感謝しよう	
4月16日 復活祭	復活のキリスト	マタイ28:1～10	マタイ5:12
		主イエスはよみがえられた。罪と死に勝利された主イエス・キリストを仰ごう	
4月23日	被造物の祝福	創世記1:6～25	テモテ4:4
		神の創造のみわざを学び、神の愛がこめられた被造世界であることを知ろう	
4月30日	神の栄光の舞台	創世記1:31～2:3	詩編19:2
		七日目の安息によって世界は祝福されている。神の栄光の舞台で喜び生きよう	
5月7日	人間の創造と人生の目的	創世記1:26～31	詩編8:5前半
		神は人を創造し、生きる目的を与えられた。神の御心に応えて歩もう	
5月14日	男と女の創造	創世記2:18～25	創世記2:18
		男と女に創造された。人は共に生きる存在である。互いに愛し合って生きよう	
5月21日	罪と墮落	創世記3:1～13	ローマ6:23
		罪とは何か。神の御言葉にそむき、自分が神になってしまう罪を知ろう	
5月28日	救いの約束（原福音）	創世記3:14～24	ローマ5:8
		神は人の罪を裁き、また、憐れむお方である。裁きと救いの神を知ろう	
6月4日 聖霊降臨祭	聖霊降臨と教会	ヨハネ20:19～23	創世記2:7
		人はキリストの聖霊（神の息）によって生かされる。聖霊によって歩もう	
6月11日	カインとアベル	創世記4:1～16	詩編46:2
		神から離れて、人は罪に支配されてしまう。罪の悲惨と神の憐れみを知ろう	
6月18日	ノアの箱舟	創世記6～7章	創世記6:9
		神は人の罪に心を痛めておられる。罪に心を痛め、人を憐れむ神を知ろう	
6月25日	ノアの契約	創世記8:1～9:17	創世記8:21
		神はノアを通して、あらためて人を祝福してくださった。神をはめたたえよう	

2017年7～9月カリキュラム（第66号）

一救済史に基づく一年サイクルカリキュラムー

月日 教会暦・行事	主 題	聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句
	単 元 の 目 標		
7月2日	バベルの塔	創世記11：1-9	コリントー10：31
	自らを神とする人の罪の悲惨と、それをさばき、人の罪を抑制される神を知ろう		
7月9日	アブラハムの召命	創世記12：1-9	創世記12：4a
	神の選びと召しに従ったアブラハム。神に召されて歩む幸いを知ろう		
7月16日	アブラハムの約束	創世記15：1-21	ヨハネ3：16
	神の約束を信頼して生きたアブラハム。約束に基づいて生きる生き方を知ろう		
7月23日	イサクの誕生	創世記21：1-8	ローマ9：8
	神の約束と憐れみの中でイサク（笑い）が与えられた。神の祝福を知ろう		
7月30日	イサクを献げる	創世記22：1-19	ヘブライ12：5,6
	アブラハムの信仰の姿を学び、備えておられる神の恵みを知ろう		
8月6日	ヤコブとエサウ	創世記27：1-40	ヘブライ12：14
	人の企みを超えて神がみわざを成し遂げておられる。神をほめたたえよう		
8月13日	売られたヨセフ	創世記37：1-36	コリント二1：20
	ヨセフ物語をとおして、神の歴史支配を確信する信仰、摂理の信仰に立とう		
8月20日	総理大臣になったヨセフ	創世記41：1-44	創世記39：2
	苦難の中でも主が共にいてくださる。主が共にいてくださる幸いを知ろう		
8月27日	摂理の主の勝利	創世記50：15-21	創世記50：20
	人の悪を善へと造りかえる主のみわざを学び、摂理の主を信じる信仰を養おう		
9月3日	モーセの誕生	出エジプト 1：22-2：10	ローマ8：28
	主なる神の不思議な導きをとおして、歴史を支配しておられる主を仰ごう		
9月10日	モーセの召命	出エジプト 3：1-22	マラキ3：6a
	契約に真実である神が救いの土台である。わたしたちも真実に神に応えよう		
9月17日	十の災いと過ぎ越し	出エジプト 7：8-24	出エジプト7：5
	十の災いのみわざをとおして、ご自身の民を贖い出す神をおそれ、あがめよう		
9月24日	葦の海を渡る	出エジプト14章	出エジプト14：14
	神ご自身がたたかって、勝利された。神の大きなみわざをほめたたえよう		

2017年10～12月カリキュラム（第67号）

—救済史に基づく一年サイクルカリキュラムの一年目—

月日 教会暦・行事	主 題	聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句
	単 元 の 目 標		
10月1日	天からのパン	出エジプト16章	申命記8：3
	神がご自身の民を養われる。神に養われる幸い、また七日目の祝福を知ろう		
10月8日	十戒を授かる	出エジプト 19：1-20：21	詩編119：105
	神は愛と恵みの言葉として十戒を与えられた。律法を持つ幸いを味わおう		
10月15日	金の子牛の事件	出エジプト32章	出エジプト20：3,4（前半）
	神は偶像礼拝をしりぞけられる。神に喜ばれる礼拝をささげよう		
10月22日	幕屋の建設	出エジプト40章	出エジプト40：16
	神礼拝を中心として共同体が形成される。栄光に満たされる礼拝をささげよう		
10月29日	荒野の放浪	民数記13-14章	民数記14：9（後半）
	人を恐れてしり込みする者を主はさばかれる。主なる神をこそ恐れよう		
11月5日	ヨルダン川を渡る	ヨシュア3章	ヘブライ11：1
	主が共にいてくださることがわたしたちの勇気である。試練と向かい合おう		
11月12日	約束の地カナンへ	ヨシュア6章	エフェソ6：10（後半）
	主が先立ち、たたかってくくださる。勇気をもって立ち向かおう		
11月19日	ギデオンの召命	士師6章	士師6：16（後半）
	偶像と戦うために召し出されたギデオン。わたしたちを召し出す神に仕えよう		
11月26日	ギデオンの精鋭	士師記7章	ルカ12：32
	数ではなく人間の力でもない。神が勝利を与えてくださることを知ろう		
12月3日	ささげられるサムソン	士師13章	士師13：7
	神にささげられたサムソン。わたしたちも神にささげられた者として歩もう		
12月10日	サムソンの祈り	士師16章	士師15：18
	神に立ち帰って祈るサムソンを神が用いられた。わたしたちも祈って仕えよう		
12月17日 待降節	捕囚からの解放	イザヤ40：1-11	イザヤ40：1
	神ご自身が民を慰めてくださる。御子イエス・キリストの到来に備えよう		
12月24日 降誕祭	主イエスの降誕	ルカ2：8-21	ルカ2：10（後半）
	羊飼いに告げられた救い。キリストにおいて成就した神との平和を喜ぼう		
12月31日	サムエルの召命	サムエル上3章	サムエル上3：10（後半）
	名前を呼ぶ神に答えるサムエル。わたしたちも神の呼びかけに答えて歩もう。		

2018年1～3月カリキュラム（第68号）

—救済史に基づく一年サイクルカリキュラムの一年目—

月日 教会暦・行事	主 題	聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句
	単 元 の 目 標		
1月7日	サウルの召命	サムエル上9-10章	サムエル9:16
	神が王を選び油を注いで立てられる。油注がれたまことの王の前にひれ伏そう		
1月14日	ダビデの召命	サムエル上17章	サムエル上17:47
	ダビデはただ主なる神に依り頼んで勝利した。主に依り頼む心をはぐくもう		
1月21日	ダビデへの契約	サムエル下7章	サムエル下7:11, 12
	主は神殿建築を願うダビデを祝福し、契約を結ばれた。契約の真実を喜ぼう		
1月28日	ソロモンの知恵	列王上3:4-15	箴言9:10
	真実の知恵は神のもの。善と悪を判断する知恵、聞き分ける心を祈り求めよう		
2月4日	ソロモンの偶像礼拝	列王上11:1-13	列王上11:6
	神からの知恵を捨て、偶像礼拝を行ったソロモン。神の怒りを心に刻もう		
2月11日	バアルと対決するエリヤ	列王上18:16-45	列王上17:1後半
	バアルとたたかうエリヤ。主こそまことの神であることを知ろう		
2月18日	バビロン捕囚	歴代下36:11-23	ローマ11:22前半
	愛する民をうたねばならない神の痛み。歴史を支配しておられる神を畏れよう		
2月25日	回復の約束	イザヤ35章	マタイ11:5, 6
	キリスト預言（35:5-6）。神が来られる。神の約束に希望をおいて生きよう		
3月4日	解放の告知	イザヤ61:1-4	ルカ4:21
	キリスト預言（61:1）。神がキリストにおいて語られる福音の慰めに生きよう		
3月11日	新しい契約	エレミヤ31:31-34	エレミヤ31:31
	新しい契約がキリストにおいて成就した。キリストの内住の喜びに生きよう		
3月18日	主の日が来る	マラキ3:19-24	黙示録22:20, 21
	義の太陽として来られたキリストによる完成の日を待ち望もう		
3月25日	十字架のキリスト	マタイ27:45-56	マタイ27:54
	わたしたちのために神に見捨てられて死なれた救い主キリストに感謝しよう		

2018年4～6月カリキュラム (第69号)

—救済史に基づく2年サイクル 第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
4月1日	イエス・キリストの復活	ヨハネ20：1-18	ヨハネ10：3
	復活された主イエスが常に、聖霊によって教会と共におられることを信じよう。		
4月8日	復活を信じる	1コリ15：1-58	1コリント15：20
	旧約における死者の復活は、キリストの復活において成就したことを信じよう。		
4月15日	パウロの受難	2コリ11：16-33	フィリピ1：29
	キリストの愛に迫られた者は、主とキリスト者のために苦しむことへと導かれる。		
4月22日	聖霊の実	ガラ5：16-26	ガラテヤ5：22、23
	聖霊によって与えられた信仰は必ず聖霊の実を結ぶ、信仰の道を友と歩もう。		
4月29日	光の子	エフェ5：1-20	エフェソ5：8
	光であるイエスを礼拝する人は光を浴びて輝く(栄光を現す)。喜んで礼拝しよう。		
5月6日	秘められた神の計画	エフェ1：3-14	ヘブライ2：13
	神が御子の内で私たちを礼拝者、神の子にするために選ばれたことを感謝しよう。		
5月13日	枯れた骨の復活	エゼキ37：1-14	エゼキエル37：5
	神はみ言葉によって聖霊を注ぎ、日ごと、主日ごとに立ちあがらせて下さる。		
5月20日	聖霊降臨	ヨハネ14：15-27	使徒1：5
	父から受け教会に注がれるイエスの霊がみ言葉(イエス)を教えて下さる安心。		
5月27日	キリストの体である教会	1コリ12：12-31	1コリント12：27
	聖霊による教会は様々な賜物が与えられるが一人のキリストの働きを担わせる。		
6月3日	イエスの洗礼	ルカ3：15-22	ルカ3：22
	イエスの受洗により洗礼が礼典となった。イエスの洗礼と幼児洗礼に感謝しよう。		
6月10日	故郷は受け入れない	ルカ4：16-30	ルカ4：18,19
	神の国と世の国とは対立するのでイエスの受難は全生涯に渡るが、救いは実現する。		
6月17日	人間を獲る漁師	ルカ5：1-11	ルカ5：10b,11
	キリストは罪深さを知る人にこそ、ご自身の務めを託し召される。召しに感謝しよう。		
6月24日	幸いと不幸	ルカ6：17-26	ルカ6：20
	神の国はキリストにおいて始まっている、御国にかなった生き方を体得しよう。		

2018年7～9月カリキュラム (第70号)

—救済史に基づく2年サイクル 第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
7月1日	敵を愛せ	ルカ6:27-38	ルカ5:36
	神の国は父なる神の王国である。憐み深い父に赦された者として生きよう。		
7月8日	確かな土台	ルカ6:46-49	ヤコブ1:22
	神の国の福音は信じて行わなければ空しい。岩なるキリストを土台として生きよう。		
7月15日	百人隊長の僕の癒し	ルカ7:1-10	イザヤ55:11
	神の国は神の言葉の権威、力によって伸展する。御言葉に聴き従おう。		
7月22日	やもめの息子の復活	ルカ7:11-17	詩編23:4
	神の国と王なるイエスは死の力を打倒する。神の力により頼んで生きよう。		
7月29日	婦人の癒しと奉仕	ルカ7:36-8:3	1ヨハネ3:16
	神の国は罪赦された者の愛に基づいて伸展する。安心して主と共に歩もう。		
8月5日	レギオンを追い出す	ルカ8:26-39	ルカ8:39
	神の国は悪霊支配を打破するゆえ、世から圧迫される。主と共に恐れず証ししよう。		
8月12日	平和を実現する	ゼカリヤ9:9,10	イザヤ2:4
	神の国は神の平和による統治。世にあって平和の砦である教会は平和を造る群れ。		
8月19日	主の変貌	ルカ9:28-36	フィリピ2:6-9
	栄光の王イエスのへりくだりのゆえに救われて十字架を担う教会もやがて栄光に輝く。		
8月26日	弟子の覚悟	ルカ9:51-62	ルカ9:62
	神の国に招かれた者は、父の愛と恵みの支配を信じる生き方へと整えられる。		
9月2日	72人を派遣する	ルカ10:1-20	マタイ10:2
	神の国は羊飼いである主と共に、遣わされた小羊たちの宣教によって伸展する。		
9月9日	帰還と再建	エズラ3:1-13	ハガイ2:9
	神の民は礼拝によって整えられ、生き返る。礼拝の伝統に生きよう。		
9月16日	律法の朗読	ネヘミヤ8:1-12	ネヘミヤ8:10
	神の民の礼拝は神の言葉によって成り立つ。生ける神の声を共に聴こう。		
9月23日	王妃エステル	エステル2:5-23	ガラテヤ5:22,23
	神は民を世の働きに配置し救いを実現なさる。置かれたところで誠実に生きよう。		
9月30日	エステルの覚悟	エステル4:1-17	フィリピ4:6
	神の御心に反抗して成功した者はない。神の側に立ち続ける幸いに生きよう。		

2018年10～12月カリキュラム (第71号)

—救済史に基づく2年サイクル 第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
10月7日	ダニエルと友人たち	ダニエル1：1-21	1コリント10：31
	どんな境遇でも神さまを第一としよう。		
10月14日	ダニエルとライオン	ダニエル6：1-29	マタイ6：33
	本当に自由な人生とは神の御前に生きることだと知ろう。		
10月21日	世界の終わり	ダニエル12：1-13	マタイ24：13
	世界の終わりは隠されているが、神さまを信頼すれば恐れることはない。		
10月28日 宗教改革記念日	信仰義認	ローマ1：17	ローマ1：17
	宗教改革の原点である信仰義認をルターの体験を通して学ぼう。		
11月4日	アルファでありオメガ	黙示録1：1-20	イザヤ44：6
	礼拝は、始めであり終わりである方を御言葉によって知るところ。		
11月11日	白い衣を着て	黙示録7：1-17	マタイ5：4
	神さまを信じる子どもたちは最後に完全な救いと慰めをいただける。		
11月18日	天のエルサレム	黙示録21：9-22：5	黙示録22：3,4
	やがて再び来られる主を待ち望み、神の御顔を仰ぎ見ることが待ち望む者にされたい。		
11月25日	キリストの再臨	黙示録22：6-21	黙示録22：20
	救い主イエスさまを最後に目で見て喜ぶ希望がある。		
12月2日 アドベント	人の子が来る	ルカ21：25-36	黙示録22：20
	キリストの再臨を待ち望む、落ち着いた信仰生活を送ろう。		
12月9日	洗礼者ヨハネ	ルカ3：1-20	使徒言行録2：38
	人間とその救いについて、歴史の中で語る神を知ろう。		
12月16日	マリアの讃歌	ルカ1：39-55	ルカ1：47
	ただ御言葉に信頼し服従する信仰をマリアから学ぼう。		
12月23日 クリスマス	主の降誕	ルカ2：1-20	ルカ2：12
	世界の人々とともに、神さまを賛美し、神さまによる救いの恵みを分かち合いたい。		
12月30日	少年イエス	ルカ2：41-52	ルカ2：49
	契約の子の代表であるイエスの少年時代の幸いな姿から学ぼう。		

2019年1～3月カリキュラム (第72号)

—救済史に基づく2年サイクル 第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
1月6日	主は羊飼い	詩編23編	詩編23：4
	神は私たちに必要なすべてのものを与えて、楽しむことができるように祝福して下さる。		
1月13日	ソロモンの知恵	列王上3：1－28	1コリント1：30
	一年を始めるにあたって、神の知恵とともにある歩みを覚える。		
1月20日	父母の教え	箴言1：1－19	箴言1：8
	神と教会との正しい関係を模範にして、親子の関係を改めて問う。		
1月27日	若い日の信仰	コヘレト12：1－14	コヘレト12：1
	神中心に生きることを教え、そこにこそある安息を受け取るように促す。		
2月3日	祈りに応える父	ルカ11：1－13	ルカ11：9
	神は聖霊によって祈りに応えて下さることを伝え、祈り続ける生活へと導く。		
2月10日	愚かな金持ち	ルカ12：13－21	1テサロニケ3：12
	人の命はお金によって保証されない。神の前に豊かな生き方を考えよう。		
2月17日	天に宝を積み	ルカ12：22－40	マタイ6：33
	神の支配を求める者こそ富める人であることを知り、神に喜ばれる生き方を選ぶ。		
2月24日	時を見分ける	ルカ12：49－56	ルカ9：23
	今は恵みの時、救いの時。新しい時代にふさわしい生き方を身に着けよう。		
3月3日	安息日の癒し	ルカ13：10－17	マタイ8：17
	イエス・キリストにこそ悪魔から人々を解放する唯一の道があることを伝える。		
3月10日	義人ヨブ	ヨブ1：1－2：13	ヨブ2：10
	神が与え、守り、育まれる信仰を、誰も奪い取ることはできない。		
3月17日 レント	サタンの誘惑	ルカ4：1－13	申命記6：5
	勝利の秘訣をしっかりと学び、主に感謝し、雄々しく信仰の歩みを続ける。		
3月24日 レント	悔い改めねば滅びる	ルカ13：1－9	ルカ13：18, 19
	神の国の到来を喜ばしい知らせとして受け入れるために悔い改める生き方を選ぶ。		
3月31日 レント	イエスの嘆き	ルカ13：31－35	2ペトロ3：9
	主イエスの従順によって私たちの救いが開かれる。		

2019年4～6月カリキュラム (第73号)

—救済史に基づく2年サイクル 第2年—

月 日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元 の 目 標		
4月7日	放蕩息子のたとえ	ルカ15：11－32	ガラテヤ3：26
	天の父がいる私たちの故郷へ、イエスを信じれば戻れる。		
4月14日 受難週	主の十字架	ルカ23：1－38	ローマ4：8
	キリストの十字架は神の愛が現れであり、私たちが救われるため。		
4月21日 イースター	主の復活	ルカ24：1－12	ルカ24：7
	復活は確実であり、礼拝において復活したイエスは交わりをもつ。		
4月28日	主の顕現	ルカ24：13－35	使徒2：32
	エマオでの弟子たちへの顕現は主の日の礼拝で繰り返される。		
5月5日	キリストの謙遜	フィリピ2：1－11	フィリピ2：6－8
	主に従う者の特質は謙遜。それは品性の課題ではなく奉仕者のあり方。		
5月12日	受け継がれた信仰	2テモテ1：1－18	エフェソ2：8
	先人たちの歴史を思い起こし、子どもも大人たち共に、イエスに従う。		
5月19日	信仰の模範に倣う	ヘブライ11：1－12：13	ヘブライ12：1－2a
	イエス・キリストの約束の実現を、いつでも、どんな時でも喜ぶ。		
5月26日	信じて行う	ヤコブ1：19－27	ヤコブ1：22
	イエスを信じる者は、聞いた御言葉の実りとして隣人を愛する。		
6月2日	主の昇天	ルカ24：44－53	ヘブライ9：24
	イエスは天にあって、私たちのためにとりなして下さる。		
6月9日 ペンテコステ	聖霊降臨	使徒2：1－24	使徒1：8
	聖霊が教会に降られて教会によって世界宣教を始めてくださった。		
6月16日	人ではなく神に従う	使徒4：1－37	使徒4：19
	教会は聖霊の力によって共に神に従う者たちの集まりである。		
6月23日	ステファノの殉教	使徒6：1－7：60	ローマ14：8
	生きるにも死ぬにもただ一つの慰めは自分がキリストのものであること。		
6月30日	フィリポの宣教	使徒8：26－40	使徒8：35
	私たちは聖霊によって福音を告げ知らせる器とされる。		

2019年7～9月カリキュラム (第74号)

—救済史に基づく2年サイクル 第2年—

月 日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元 の 目 標		
7月7日	パウロの回心	使徒9:1-31	使徒9:15,16
	律法によって生きるパウロを憐れみ、ご自身の栄光の器に造り上げる主を知ろう。		
7月14日	異邦人の回心	使徒10:1-48	使徒10:43
	自分の殻の中で御心を知ったつもりでいる不従順を憐れみ、従わせる主を知ろう。		
7月21日	アンティオキア教会	使徒11:1-30	マルコ16:15
	教会が成立していく過程から、宣教者たちを用いて働かれる神の主導性を学ぶ。		
7月28日	パウロとバルナバ	使徒13:1-52	2コリント1:6
	主イエスは、わたしたちの友。わたしたちは互いに祈りの友。		
8月4日	エルサレム会議	使徒15:1-35	使徒15:28
	教会の頭であるキリストは、教会会議を用いて今日も教会を治める。		
8月11日	平和主日	黙示録12:7-12	黙示録12:11
	神の国の平和を地上に現す教会を具現するため、子らができる。		
8月18日	フィリピでの伝道	使徒16:16-40	使徒16:30,31
	主イエスは私たちを偶像の奴隷から解放する。		
8月25日	アレオパゴスで語る	使徒17:16-34	1コリント2:4,5
	聖霊なる御神は、自由に力をふるい、私たちに神の御力を見せて下さる。		
9月1日	トロアスでの集会	使徒20:1-12	ヘブライ10:25
	聖徒一人ひとりが互い慰め励まし合う者として主に用いられるよう祈る。		
9月8日	パウロの逮捕	使徒21:1-36	使徒21:13
	キリストが私たちの内に生きておられるから、迫害の中でも宣教は進む。		
9月15日	パウロの裁判	使徒22:17-29, 23:11-22, 24:22-27	使徒23:11
	福音を宣べ伝えるキリスト者の使命は、いつも主なる神の励ましと共にある。		
9月22日	王の前での証し	使徒25:1-26:32	ローマ1:16
	王の前で信仰を勧めたパウロの伝道の情熱と信仰を求めよう。		
9月29日	ローマへの出発	使徒27:1-44	使徒27:25
	恐怖や不安の中にあっても人を励ますことのできる神の人になる。		

2019年10～12月カリキュラム (第75号)

—救済史に基づく2年サイクル 第2年—

月日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
10月6日	ローマに届いた福音	使徒28：1－31	使徒1：8
	パウロは世界の中心ローマでも語る。聖霊は働き続け、福音は前進する。		
10月13日	福音を恥としない	ローマ1：16,17	ローマ1：16
	福音は全ての人間を救うことのできる神の力である。		
10月20日	神の公平な裁き	ローマ2：1－16	ローマ13：8b
	神の公平な裁きを学んで、罪赦されて救われた喜びを思い起こす。		
10月27日 宗教改革記念	宗教改革の実り	詩編46編2－4節	詩編46：2
	宗教改革記念日を覚え、宗教改革の実りを覚える。		
11月3日	信仰による義	ローマ3：21－31	ガラテヤ2：16
	主イエスの正しさを信仰により受け取ることが、神の一方的な救い。		
11月10日	神を愛する者たち	ローマ8：18－39	ダニエル10：19
	主は愛する子どもたちを決して欺かれぬ。主の真実を信じ、日々新たに生きよう。		
11月17日	主の晩餐	1コリント11：17－34	1コリント11：26
	辛い時こそ、神の前で自分を見つめ直すことが必要。		
11月24日	最も偉大な愛	1コリント13：1－13	1コリント13：13
	神と隣人を愛する生活こそ、神に従う歩みであることを確認する。		
12月1日 アドベント	目を覚ましていなさい	マタイ24：36－44	マタイ24：44
	いつも神の愛を見つめて生きる。		
12月8日	洗礼者ヨハネ	マタイ3：1－12	マタイ3：2
	キリストによって、悔い改め、神のところに立ち返る信仰生活を歩む。		
12月15日	洗礼者ヨハネとイエス	マタイ11：2－11	イザヤ61：10
	神は私たちに「主にある喜び」を与えてくださる。		
12月22日 クリスマス	主の降誕	マタイ1：18－25	マタイ1：22－23
	罪人を見捨てることなく、愛して関わりを持ち続ける神の意志を知る。		
12月29日	エジプトへ逃れる	マタイ2：1－23	マタイ2：2
	悲惨な現実の中に御国が到来し、その民として生きる喜びに招かれる。		

2020年1～3月カリキュラム (第76号)

—救済史に基づく2年サイクル 第2年—

月日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
1月5日	天地創造	創世記1:1-2:4	創世記1:3
	万物を創造された神さまの栄光の御業をたたえよう。		
1月12日	生命の創造	創世記2:5-25	創世記1:28
	すべての命は神さまのものと知り、命の尊さを覚えよう。		
1月19日	人間の務め	創世記1:26, 2:15	創世記1:26
	人間には世界を治める光栄に満ちた務めがあると知ろう。		
1月26日	罪と墮落	創世記3:1-24	ローマ6:23
	すべての人間が神さまに背いて罪びととなったことを知ろう。		
2月2日	カインとアベル	創世記4:1-16	創世記4:13
	神さまに敵対する人間の思いがどれほど思い罪かを学ぼう。		
2月9日	ノアの箱舟	創世記6:1-7:24	1ペトロ3:20
	墮落した世界を新しくする神さまの裁きと救いのご計画を知ろう。		
2月16日	虹の契約	創世記8:1-9:17	創世記9:16
	神さまが人類と結ばれた契約から、世界にかけられた希望を学ぼう。		
2月23日	バベルの塔	創世記11:1-9	ゼファニヤ3:9
	文明の思い上がりを砕かれた神の御業と不思議な計画を知ろう。		
3月1日	アブラハムの召命	創世記11:27-12:9	創世記12:1-2
	神さまの選びの歴史と救いの契約を心に留めよう。		
3月8日	割礼	創世記17:1-17	創世記17:2
	神さまが選んだ民には契約のしるしとして割礼が命じられたことを知る。		
3月15日	ソドムとゴモラ	創世記19:1-19	創世記19:17
	神さまに背いて滅ぼされた町とそこから救われた家族の物語に学ぼう。		
3月22日	イサクの誕生	創世記18:1-15, 21:1-8	創世記18:14
	神さまの約束は人間の思いを超えて確かであることを学ぼう。		
3月29日 レント	イサクの奉献	創世記22:1-19	ヘブライ12:5-6
	アブラハムの忠実な信仰と恵みの契約の確かさを学ぶ。		

2020年4～6月カリキュラム (第77号)

— 『子どもと親のカテキズム』に基づく2年サイクル 第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
4月5日	一番大切なこと： 神さまと共に歩む	問1 ヨハネ12：27－36	ウ小1,12,20、ハイデ1,6,53,74,120 ヨハネ12：35
	人生の目的は、神と共に歩むこと。信仰生活の恵みを感謝しよう。		
	復活されたキリスト	— ヨハネ21：1－19	子どもと親30、ウ小30 ヨハネ21：22
罪を赦す神の大きな愛を覚え、その御心に従っていこう。			
4月12日 イースター	一番大切なこと： 神の子とされて	問1 ルカ19：1－10	ウ小1,32,34,36,100、他 ガラテヤ3：26
	人生の目的は、神の子として生きること。神の子とされていることを感謝しよう。		
	信じて歩む道： 神を知る喜びに生きる	問2 ヨハネ4：7－26	— コリント一10：31
人生の目的は、神を知り、その栄光をたたえること。あるがままの姿で主に従おう。			
4月19日	信じて歩む道： 神と人に仕えて生きる	問2 ヨハネ4：31－42	子どもと親44 2テモテ4：2
	人生の目的は、神を喜び、神に仕えて歩むこと。あるがままの姿で主に仕えよう。		
	救われた歩み： イエスさまを信じる	問3 ルカ24：28－43	ハイデ21、子どもと親35 使徒言行録16：31
神はキリストによって和解してくださった。信じるだけで救われる幸いを覚えよう。			
5月3日	救われた歩み： 神の子とされた喜び	問3 ルカ15：11－24	ウ小33,34 ルカ15：20
	神の子とされ、神の子として歩むことこそ人生のすべて。神の子の自覚を深めよう。		
	教会と共に歩む道 呼び出され生きる	— 使徒2：41－47	ウ小88、ハイデ65、66 使徒2：42
約束の聖霊降臨と使徒たちの力強い説教は今ここに。聖霊の力を求めて生きよう。			
5月10日	キリストの教会の誕生	問4 使徒2：1－42	ウ小88、ハイデ65－67 使徒2：38
	神と共に歩むとは、信仰共同体と歩むこと。教会なくして救いなし。主日を大切に。		
	信仰生活・送り出されて 生きる	問4 ルカ10：38－42	ハイデ86－91 マタイ28：18,19
神と共に歩むとは、神の国を前進させるために派遣されること。伝道、奉仕、証に生きよう。			
5月17日	愛に生きる	問5 ルカ10：25－37	ウ小39,88、ハイデ86 ヨハネ15：12
	神は愛であるので、人は神と隣人を愛することが本来の姿。神の愛を感謝して。		
	祈りに生きる	問5 マルコ1：35－39	ウ小39,88、ハイデ86 テサロニケー5：17
愛に生きるためには、日々、神の愛に満たされることが必要。祈りなくして力なし。祈りを大切に。			
5月24日	聖書・神の御言葉	問6 ペトロ二1：16－21	ウ小2,3、ウ信1章 詩編119：105
	聖書なくして神とその御心は分からず、信仰もない。聖書の尊さを知ろう。		
	ペンテコステ	—	—

2020年7～9月カリキュラム (第78号)

—『子どもと親のカテキズム』に基づく2年サイクル 第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
7月5日	道の光としての聖書	問6	ウ小2,3
	人生の光	使徒言行録8:26-40	詩編119:105
生きておられる神は聖書を通して私たちの歩みを照らされる。			
7月12日	道の光としての聖書	問7	ウ小2,3、ハイデ98
	聖書の内容	テモテ二3:10-17	テモテ二3:16
聖書は神さまの救いと信仰生活を教えてくれる。			
7月19日	三位一体	問8	ウ小4-6
	人格としての神	出エジプト記3:1-22	詩編90:2
「あなた」と呼んでお話しできる神さま			
7月26日	三位一体	問8	ウ告2:1,2、ウ小4
	神の属性	創世記28:10-22	創世記2:7
永遠で、変わりなく、いつでもどこでも共にいてくださる神さま			
8月2日	唯一の神	問9	ウ小5
		申命記6:1-15	申命記6:5
生きたただひとりの真の神さまだけを礼拝しよう			
8月9日	偶像礼拝の空しさ	問10	ウ小5、ハイデ96-98
		出エジプト記32:1-35	コリント一8:4
偶像礼拝は誰もが誘惑される罪。真の神さまだけを礼拝しよう。			
8月16日	三位一体	問11	ウ告2章、ウ小6、ハイデ25
	神の本質	マタイ28:16-20	マタイ28:19-20
いのちと愛の交わりの内にいます三位の神と交わる至福を求めて生きよう。			
8月23日	三位一体	問12	ウ小6、ハイデ54
	神の経綸	エフェソ1:3-14	テモテ二1:9
神が全存在をもって人間を救ってくださった。神を心からたたえよう。			
8月30日	父なる神・その本質	問13	ウ大10,11、ハイデ26
		マタイ6:25-34	ヨハネ1:18
キリストのゆえに私たちの父となってくくださった主をたたえよう。			
9月6日	父なる神・創造者	問14	ウ小9、ウ大15、ハイデ26
		創世記1:1-2:3	創世記1:1
神は無からすべてをきわめて良いものとして創造してくださった。			
9月13日	父なる神・摂理	問15	ウ小11、ハイデ27,28
		創世記45:1-8	ローマ8:28
歴史や国々を支配する神の御手にゆだね安心して生きて行こう。			
9月20日	父なる神・親心	問16	ウ告3、ウ小49-51
		ヘブライ12:5-11	マタイ6:33
父なる神さまは子どもの私たちを必ず守ってくださる。			
9月27日	人間・神のかたち	問17	ウ小10、ハイデ6
		創世記1:26-28	創世記1:27
神のかたちの人間は神を礼拝し、他者との豊かな交わりへと招かれている。			

2020年10～12月カリキュラム (第79号)

—『子どもと親のカテキズム』に基づく2年サイクル 第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
10月4日	人間・神と人と共に	問17	ウ小4,10、ウ大17、ウ告4章、ハイデ6
		創世記1:26－27	コリント一10:31
神は人をご自身のかたちに造られ「創造の冠」とされた。			
10月11日	人間の使命	問18	ウ小12、ウ大20,98,102,122、ウ告4章
		マルコ12:28－34	ヨハネ15:12
神の愛にこたえて、隣人を愛して生きる。			
10月18日	人間・罪の起源	問19	ウ小13－19、ウ大21、ハイデル7
		創世記3:1－13	創世記3:9
神の言葉に背いた人間は祝福の状態から罪と悲惨へと墮落した。			
10月25日	罪とは何か	問20	ウ小14,15、ウ大24
		ルカ15:11－24	ルカ15:20
神の愛を拒絶する頑なな人間の愚かさを知る。			
11月1日	罪人の悲惨	問21	ウ小14－19、ウ大25－29
		エフェソ2:1－10	ヨハネ8:34
人間は生まれながら神との交わりを失い神に背きつつ生きる者となった。			
11月8日	罪人の歩み	問22	ウ小16－19、ハイデル6－8
		創世記6:1－8	詩編51:7
罪によって人間は生きるべき道を正反対に歩き出した。			
11月15日	わたしの罪・ 神の怒りと裁き	問23	ウ小14,15、ハイデル2,3
		ローマ7:7－25	テモテ一1:15
わたしは神の御前に罪人で、神の怒りに値する者です。			
11月22日	完全な墮落・ キリストの贖罪	問24	ウ小19、ハイデル13
		マタイ18:21－35	ローマ7:19
人間は自力で自分を救えない。罪の償いが必要である。			
11月29日	救い主の約束	問25	ウ小19,20、ハイデル13－15
		ヨハネ10:7－18	ヨハネ10:11
神は罪人を見捨てず、憐れんで神の子の身分を回復して下さる。			
12月6日	子なる神・二性一人格	問26	ウ小21－22、ウ大36,37,40
		ルカ1:26－38	使徒4:12
神は私たちに救い主イエス・キリストを与えて下さった。			
12月13日	子なる神・真の神	問27	ウ大38,39、ハイデル14－18
		ヘブライ9:23－28	ローマ5:8
イエス・キリストは神として私たちの罪を完全に償ってくださった。			
12月20日 クリスマス	キリストの降誕	(問26)	—
		ヨハネ3:16	マタイ1:23
私たちの救い主イエス・キリストが与えられた恵みに感謝しよう。			
12月27日	子なる神・真の人	問28	ウ大38,39、ハイデル16,17
		ヘブライ2:5－18	ヘブライ2:18
罪人の私たちに代わって人としてキリストは罪を償ってくださった。			

2021年1～3月カリキュラム (第80号)

—『子どもと親のカテキズム』に基づく2年サイクル 第1年—

月日 教会暦・行事		子どもと親のカテキズム	参照教理問答
	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
1月3日 新年	教会と共に歩む一年	(問42)	
		詩編90:1-17	詩編90:12
新しい年も神からの恵みを数えつつ歩もう			
10日	イエス・キリストとは	問29	ウ小23、ウ大41、42、ハイデル29、31
		ルカ3:21-22	マタイ1:21
イエス・キリストの名前の意味とお働きを知ろう			
17日	キリストの高い状態と 低い状態	問30	ウ小23-28、ウ大43-56
		フィリピ2:6-11	フィリピ2:11
イエス・キリストは謙卑・高挙の状態で預言者・祭司・王の務めをはたされる			
24日	預言者なるキリスト	問31	ウ小24、ウ大43
		ルカ24:13-35	ヨハネ5:39
イエス・キリストはみ言葉と聖霊によって神の御心を教えてくださる			
31日	祭司なるキリスト	問32	ウ小25、ウ大44
		ヨハネ14:1-14	ヨハネ14:14
イエス・キリストは私たちの罪のため命を十字架で献げ、今も私たちの祈りを執り成してくださる			
2月7日	王なるキリスト	問33	ウ小26、ウ大45
		マタイ21:1-11	ヨハネ16:33
イエス・キリストはみ言葉と聖霊で私たちを治め、悪の力から守ってくださる			
14日	聖霊なる神・ ただ恵みによって	問34	ウ小29、ウ大58、60
		マルコ10:17-31	マルコ10:27
自力では望みのない私たちに神は聖霊によって救いを与えてくださる			
21日	聖霊なる神・ キリストとの交わり	問35	ウ小30、31、ウ大59、66-67、76
		1コリント1:26-31	1コリント1:30
聖霊は私たちに罪を認めさせ、悔い改めを与え、信仰を与え、キリストと結び合わせてくださる			
28日	救いとは何か	問36	ウ小33-34、ウ大70-74
		ヨハネ3:1-21	ヨハネ3:16
神は私たちのすべての罪を赦し、永遠の命を与え、神の子としてくださる			
3月7日	聖化の歩み	問37	ウ小35、ウ大75、78
		詩編51:1-21	詩編51:12
神は神の子の私たちをイエス様に似るように聖くしてくださる			
14日	救いの確かさ	問38	ウ小36、ウ大78-81
		ルカ22:31-34	ルカ22:32
私たちは弱くても神が最後まで信仰を守り支えてくださる			
21日	再臨・天国を目指す歩み	問39	ウ告白33章
		マタイ25:1-13	フィリピ3:14
私たちは天国の前味を頂いているのでキリストの再臨を信じて希望をもって生きられる			
28日 受難週	十字架のキリスト	(問32)	
		マタイ27:32-56	イザヤ53:4
神が十字架の業を通して語る言葉に生きよう			

2021年4～6月カリキュラム (第81号)

—『子どもと親のカテキズム』に基づく2年サイクル 第2年—

月日 教会暦・行事	子どもと親のカテキズム		参照教理問答
	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
4月4日 復活祭	復活のキリスト	—	ウ小28
		ヨハネ20:24-29	ヨハネ20:29
復活の勝利によって救いが成就。生けるキリストを語る。			
4月11日	死後の祝福	問40	ウ小37、ウ告白32:1
		ルカ23:39-43	テサロニケー5:23
私たちは死で終わらず、死の時、魂は神と共に、体は墓の中で復活を待ちます。			
4月18日	体の復活	問41	ウ大87,90、ウ小38、ハイデル57,58
		黙示録21:1-4	ローマ6:5
「完成された御国」で、体の復活の祝福を得て、讚美と喜びにあふれる日を信じて生きよう			
4月25日	教会と共に歩む道・ キリストの体	問42	ウ告白25, 26章
		コリントー12:12-27	コリントー12:27
教会共同体を完成させ、世の空気に流されない個人を鍛える無二の価値を持つキリスト教信仰を説こう			
5月2日	母なる教会による 命の養い	問43	ウ小29-31
		詩編131編1-3	詩編131:2
教会の礼拝において神は臨在を明らかにし、母なる教会で私たちが養ってくださる			
5月9日	教会の使命	問44	ハイデ32
		マタイ28:18-20	マタイ28:19-20
教会は、神の使命を果たすために地上に建てられた。三つの使命を果たす時教会は祝福の基となる			
5月16日	主の日の祝福	問45	子ども69、ウ大116、ハイデル103
		ヨハネ20:19-23	ヨハネ20:19
主イエスは、復活日の出会いの体験を、主日ごとに、繰り返して下さる。イエスさまに会える喜びの礼拝を			
5月23日 聖霊降臨祭	聖霊降臨	—	子ども34,35、ウ小29,30
		使徒2:1-13	使徒1:8
聖霊により教会が始まった。教会を建てて民を養われる神への感謝に招く			
5月30日	礼拝式の祝福	問46	ウ告白21、ウ小88
		使徒20:7-12	ネヘミヤ8:10
神はご自身の喜びを満たすため私たちに礼拝に招かれる。真心を込めて、その喜びに与ろう			
6月6日	恵みの方法	問47, 48	ウ小85,88、ウ大153,154
		使徒2:43-47	使徒2:42
神様は恵みを与える手段を私たちに備えてくださった。大切にこの手段を用いよう			
6月13日	みことばの恵み	問49	ウ小89,90、ウ大155-160
		使徒20:17-38	ヤコブ1:21
御言葉をイエスさまを指し示すものとして読み、語りかけて下さる主に聞きしたがって歩もう			
6月20日	礼典の恵み	問50	ウ小91-93、ウ大161-164、ウ告白27
		マタイ28:18-20	コリントー11:24
見えない神は、信仰の弱い私たちのために見える物を通して、信仰を養って下さる。礼典に招こう			
6月27日	洗礼の恵み	問51	ウ小94、ハイデ問70
		ガラテヤ3:26-29	ガラテヤ3:27
洗礼によって私たちはキリストの死と復活に結ばれ神の子とされる。一方的な神の恵みに感謝しよう			

2021年7～9月カリキュラム (第82号)

—『子どもと親のカテキズム』に基づく2年サイクル 第2年—

月 日 教会暦・行事		子どもと親のカテキズム	参照教理問答
	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
7月4日	幼児洗礼の恵み	問52	ウ小95、ハイデ74
		使徒16:16-34	使徒16:33-34
神さまは契約を守り幼い者をも救いの約束に加えて下さる			
7月11日	聖餐の恵み	問53	ウ告白29章、ウ大168-177、ウ小96
		マタイ26:26-30	マタイ26:26
キリストの十字架の恵みを共に祝い、待ち望む			
7月18日	信仰告白を目指して	問54	ウ告白29:8、ウ大171-173、ウ小97
		コリント一11:23-29	コリント二13:5
共に聖餐の食卓に与るように祈ろう			
7月25日	恵みの方法としての祈り	問55	ウ小98、ハイデ116
		マタイ18:18-20	マタイ18:20
祈りつつ御国への道を歩んでいこう			
8月1日	感謝して歩む	問56	ウ小39、ハイデ86
		ルカ17:11-19	詩編107:15
与えられた救いの恵みと感謝をもって応えることの大切さ			
8月8日	感謝の生活の規準	問57	ハイデ86
		サムエル上15:22-23	ヤコブ1:22
聖書に従い感謝の生活を送ることは堅い土台を据える確かな生き方			
8月15日 平和主日	平和を実現する	(問5)	ウ小教理68、69、90、ハイデ105-107
		マタイ5:9	マタイ5:9
私たちは、イエスさまに従って、平和を実現する者となるように、召されていることを知る			
8月22日	感謝の道しるべ・十戒	問58	ウ小40-41、ハイデル87、88
		申命記5:1-22	申命記4:13
神さまの愛の表れである十戒が示される			
8月29日	十戒の心・ 神と人を愛する	問59	ウ小41、42、ウ大98、ハイデ93
		マルコ12:28-34	ヨハネ一3:16
神の愛を受け、神と人を愛して歩む			
9月5日	十戒の心・ 父の愛の戒め	問60, 61	ウ小35、ウ告白13、ハイデ86
		出エジ12:1-36	出エジプト20:2
神の恵みに応え十戒に生きよう			
9月12日	第一戒 神のみを神とする	問62, 63	ウ小45-48、ウ大103-106、ハイデ94、95
		申命記6:1-15	申命記6:4-5
ただ一人のまことの神さまがだけにお仕えしよう			
9月19日	第二戒 偶像礼拝とは何か	問64, 65	ウ小49-52、ウ大107-110、ハイデル96-98
		出エジ32:1-10	ヨハネ4:24
目に見えない神さまをみ言葉に従って礼拝しよう			
9月26日	第三戒 神の御名	問66, 67	ウ小53-56、ウ大111-114
		出エジ3:1-22	出エジプト3:14
主の御名をおそれつつ愛をこめて呼びかけよう			

2021年10～12月カリキュラム（第83号）

—『子どもと親のカテキズム』に基づく2年サイクル 第2年—

月日 教会暦・行事	子どもと親のカテキズム		参照教理問答
	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
10月3日	第四戒 主の日の安息	問68、69 ルカ6:1-11	ウ小57-62、ハイデ103 ルカ6:5
	安息日に神さまの愛を味わう		
10月10日	第五戒 父母を敬う	問70、71 テサロニケ-5:12-15	ウ小63-66 エフェソ5:1
	神さまが与えて下さった人間関係を大切にする		
10月17日	第六戒 殺すな	問72、73 創世記4:1-16	ウ小67-69、ハイデ105-107 マタイ5:22
	自分も他の人も愛する		
10月24日	第七戒 姦淫するな	問74、75 創世記2:18-25	ウ小70-72、ハイデ108-109 創世記2:18
	神さまが造られた秩序、神さまとの約束を大切にする		
10月31日	第八戒 盗むな	問76、77 マタイ25:14-30	ウ小73-75、ハイデ110、111 ルカ19:8
	神さまからいただいたものを大切にする		
11月7日	第九戒 偽証するな	問78、79 列王記上21章1-29節	ウ小76-78、ウ大144、ハイデ112 エフェソ4:25
	聖霊に生かされ、神さまの真実に生きる者となる		
11月14日	第十戒 むさぼるな	問80、81 マタイ6:25-34	ウ小79-81、ウ大146-148、ハイデ113 テモテ-6:8
	私たちを満たしてくださる神さまに信頼を置く		
11月21日	憐れみを求めさせる戒め	問82 ルカ18:18-30	ウ小82、ウ大149、ハイデ114、115 ローマ7:25
	十戒を通して、イエスさまの赦しの憐れみに依り頼む生活へ		
11月28日 待降節	神の愛の戒めを喜ぶ	問83 フィリピ3:12-16	ウ小87、ウ告白16:2、ハイデ114-115 フィリピ3:12
	戒めは私たちへの愛の導き		
12月5日 待降節	キリストの誕生の予告	(問25) マタイ1:1-17	- 創世記22:18
	神の約束が守られ、その約束通りにキリストがお生まれになる		
12月12日 待降節	キリストの誕生	(問26、28) マタイ1:18-25	ウ小22、27、ハイデル35、36 マタイ1:21
	キリストはまことの人となるほど私たちを愛される		
12月19日 降誕祭	博士たちの礼拝	(問35) マタイ2:1-12	- マタイ2:11
	神さまの導きに素直にしたがい主を礼拝する		
12月26日	祈りの手本、主の祈り	問84 マタイ6:7-15	ウ小99、ハイデ118 マタイ6:8
	祈りはすべてをご存知の神さまに対する私たちの応答		

大会教育委員会 「教会学校教案誌」

最終号発行とネット教案誌構築のための

自由募金のお願い

教会学校教案誌は本第84号をもって「休刊」いたします。実に2001年4月創刊より21年もの間、季刊発行として継続することが許されました。多大なお祈りとご奉仕、ご購入をもってお支え下さいました事を心から感謝申し上げます。

弊誌は、売上と献金を基礎に営まれてまいりました。しかしながら、休刊を予告していたからでしょうか、またコロナの影響もあるかもしれません。最終号発行のための手持ち金が大変厳しい状況にあります。ネット展開のためにも最低限の備えが必要です。これまでのように教会また個人の自由募金によって乗り切ることを決議致しました。

クリスマス献金の送付先にお加えください！

Soli Deo Gloria!

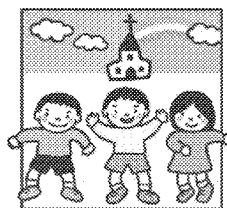
お問い合わせは、相馬伸郎（iwanoue@me.ccnw.ne.jp）まで。

目標金額 50万円

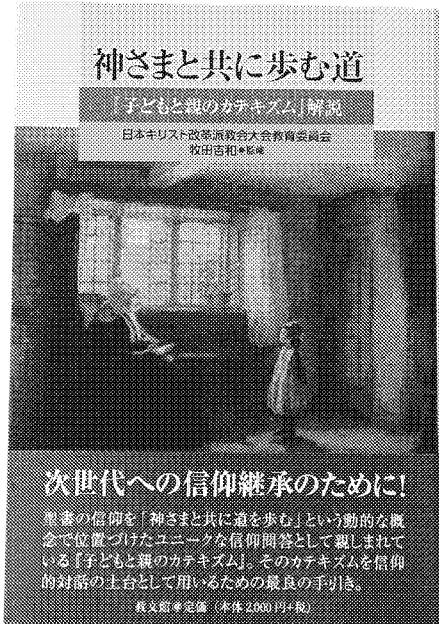
送金先 郵便振替

日本キリスト改革派教会大会教育委員会

00190-4-451670



大会教育委員会 出版物ご案内



神さまと共に歩む道

「子どもと親のカテキズム」解説

牧田吉和・監修

聖書の信仰を「神さまと共に道を歩む」という動的な概念で位置付けたユニークな信仰問答として親しまれている「子どもと親のカテキズム」。そのカテキズムを信仰的対話の土台として用いるための最良の手引き。(帯より)

定価：2,000円

(改革派内の方は消費税分・送料無料)

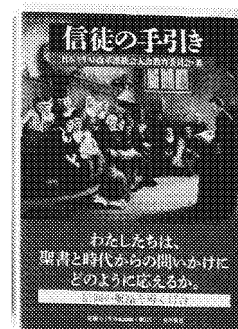
既刊書籍



子どもと親のカテキズム

— 神さまと共に歩む道 —

定価：500円



信徒の手引き

定価：2,200円

(改革派内価格：2,000円)

申し込み先：rcjkyoiku@gmail.com

〈あとがき〉

●予告通り、最終号をお届け致します。21年間、ご奉仕をお捧げ下さった皆様、とりわけ執筆者に心の底からの御礼を申し上げます。ありがとうございます！ 読者の皆様、心より感謝申し上げます。

廃刊ではなく「休刊」です。近い将来の復刊を願ってのことです。同時に、新年度からの「デジタル（ネット）・教会学校教案誌」も楽しみです。お祈りとご活用をお願い致します。募金、よろしく願い致します。

休刊は現場の危機の象徴でもあります。いっそう励まし合って、契約の子らと地域の子らに、主イエス・キリストを紹介し、交わりの喜びへと誘いましょう。Soli Deo Gloria！（相馬伸郎）

●改革派教会「教会学校教案誌」の歴史“第一章～20年～”の最後の3年間携わることができて光栄に思います。これは第一章に過ぎませんから、教会に不可欠な信仰教育の働きはこれからも、形が変わっても続いていかなければなりません。私たちの教会に憐れみの主の導きがありますようにお祈りします。（小川 洋）

●教会学校教案誌をお用いくださりありがとうございます。教案誌は休刊となりますが、今後は教材をオンライン化してより用いていただけるように整えていきたいと思っています。教会学校の充実のために。伝道のために。また教師の方々の学びのためにも良いホームページを作成していけるよう委員会の働きを覚えてくだされば感謝です。（小橋口貴人）

●大会教案誌を用いてくださった多くのCS教師の皆様に感謝します。歴代の教育委員会の教師たちの尽力がアーカイブに残っていますのでこれらが現場の助けになることを願って今後につながればと願います。ここまで委員会を率いて来られた相馬委員長の多大な働きに感謝します。

（牧野信成）

●手作りの教案誌で、勝手も判らずに作業をしてきました。執筆くださった皆様、編集に関わった皆様、印刷所の方、多くの方に毎回のようにご迷惑おかけし、ご無理をお願いしました。いくらお詫びしてもし切れません。毎回のように発刊日が遅れ、利用してくださる教会の皆様にもご迷惑をおかけしました。忍耐強く利用して下さったことを本当に感謝します。（長田詠喜）

※バックナンバーを御希望の方は下記までご連絡ください。

長野佐久伝道所 牧野信成

〒385-0051

長野県佐久市中込3-9-1

Tel & Fax : 0267-62-2409

E - mail : rcjnaganosaku@gmail.com

執筆者一覧

まえがき

二宮 創 (太田伝道所宣教教師)

巻頭によせて

牧田吉和 (宿毛教会牧師)

自閉症者「猷」から始まりつつあること

吉田 実 (但馬みくに伝道所宣教教師)

この小さな者の一人にしたのは

小堀 昇 (花小金井教会牧師)

執事職について (4)

門脇陽子 (上福岡教会)

これからの教会学校 教案誌で考えたこと

長田詠喜 (新所沢教会牧師)

献身のすすめ 今、石膏の壺を壊して

長谷川はるひ (坂戸教会協力牧師新潟担当)

信仰告白のあかし 洗礼に導かれて

牧野 巧 (名古屋岩の上教会)

教会学校訪問

神戸長田教会ファミリー向けの礼拝

小河敬太 (神戸長田教会牧師)

教会学校教案誌創刊から

休刊への道のり (上)

相馬伸郎 (名古屋岩の上教会牧師)

イラスト作画

表紙 中村未生 (春日井教会・IBUKI)

高橋乃亜 (湘南恩寵教会・IBUKI)

聖句カード

岡野美佳 (青葉台キリスト教会)

聖書黙想・説教展開例

大木 信 (西鎌倉教会牧師)

大宮季三 (芸陽教会牧師)

小澤寿輔 (高知教会牧師)

柏木貴志 (岡山教会牧師)

川栄智章 (せんげん台教会牧師)

木下裕也 (岐阜加納教会牧師)

國安 光 (園田教会牧師)

高内信嗣 (山田教会牧師)

後登雅博 (高蔵寺教会牧師)

小橋口貴人 (那加教会牧師)

袴田清子 (灘教会)

宮武輝彦 (男山教会牧師)

三輪 誠 (浜松伝道所宣教教師)

分級展開例

伊藤穂波 (四日市教会)

木下奈緒子 (岐阜加納教会)

金エノク (徳島西部教会伝道者)

草野容子 (恵那教会)

小堀尚美 (花小金井教会)

長谷川いのり (関キリスト教会)

長田詠喜 (新所沢教会牧師)

牧野信成 (長野佐久伝道所宣教教師)

編 集 部

相馬伸郎（長）	名古屋岩の上教会牧師
牧野信成	長野佐久伝道所宣教教師
長田詠喜	新所沢教会牧師
小川 洋	高松教会牧師
小橋口貴人	那賀教会牧師
西堀 元	熊本伝道所宣教教師

日本キリスト改革派 大会教育委員会 『教会学校教案誌』 第84号
2022年1・2・3月号（季刊）
2021年12月1日発行

発 行 日本キリスト改革派教会 大会教育委員会
発行所 日本キリスト改革派教会 大会教育委員会
名古屋岩の上教会 牧師 相馬伸郎
〒458-0021 愛知県名古屋市緑区滝の水2-2012
Tel/Fax 052-895-6701

郵便振替口座 00190-4-451670 「日本キリスト改革派教会大会教育委員会」
編集・印刷 株式会社あるむ
頒価 900円（本体価格）

Reformed Church in Japan
Board of Education